第２次天童市障がい者プラン策定のための
アンケート調査結果報告書

平成２３年３月

天童市

― 目　次 －

Ⅰ．本調査報告書の基本的な事項・・・ 1

Ⅱ．調査内容・・・ 2

１．対象者の属性・・・ 2
（１）回答者・・・ 2
（２）性別・・・ 3
（３）年齢・・・ 4
（４）障がい等級別構成・・ 5
（５）障がいの種類（身体障がい者のみ）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
（６）障がいの原因（身体・知的障がい者のみ）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

２．対象者の日常生活・・・ 9
（１）生活の場・・・ 9
（２）家族構成・・・11
（３）日常生活上の不安・・・12
（４）相談先（機関）・・・14
（５）相談しやすい体制の条件・・・16
（６）外出時の困難・・18
（７）サービスの情報源・・・20

３．災害時の対応・・22
（１）災害時の心配なこと・・・22

４．住まいについて・・24
（１）住宅対策に望むこと・・・24

５．福祉サービスについて・・・26
（１）福祉サービスの利用状況・・・26
（２）福祉サービスの利用意向・・・31

６．仕事・・36
（１）収入源・・36
（２）就業状況・・37
（３）就業形態・・39
（４）仕事をする上での不安・不満・・・40
（５）働くための条件・・42

７．地域生活‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥44
（１）隣近所との付き合い‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥44
（２）地域における活動状況‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥45
（３）今後、地域でしたい活動‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥47
（４）差別・偏見を感じるか‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥49
（５）差別・偏見を感じる具体的な状況‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥50
（６）地域社会に積極的に参加するための条件‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥52
（７）地域社会の満足度‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥54
（８）障がい者にとってすみよいまちの条件‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥56
（９）今後の暮らし方の希望‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥58

８．障がい児保育・教育‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥60
（１）通園・通学の状況‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥60
（２）通園・通学先‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥61
（３）通園・通学で困ること‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥62
（４）進路の希望‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥64
（５）幼稚園・保育園・学校に望むこと‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥66

９．介助者の状況‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥68
（１）介助者‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥68
（２）介助者の病気等による緊急時の対応‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥70
（３）ボランティアの支援‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥72

10．自由記載事項‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥74

Ⅰ．本調査報告書の基本的な事項

１．調査の目的

本調査は、第２次天童市障がい者プランを策定するに当たり、障がい者の生活状況や福祉サービスの利用状況、利用意向、意見などを把握し、プラン策定の基礎資料として障がい者福祉の推進を図ることを目的に実施しました。

２．調査項目

（１）調査対象者の基本的な事柄（性別・年齢・所持手帳等級・生活場所等）
（２）障害者施策全般の現状及び今後の課題・要望
（３）障害者福祉サービスの利用状況、今後の利用意向等

３．調査設計

（１）調査地域　：天童市全域
（２）調査対象者　：平成２２年１０月１日現在、天童市に住んでいる身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳所持者からの無作為抽出
（３）調査期間　：平成２２年１０月１日～平成２２年１０月１５日まで
（４）調査方法　：調査票による本人記入方式（本人が記入できない場合は家族等）
（５）郵送配布・郵送回収による郵送調査方法

４．回収結果

	調査対象者数(配布数)	有効回収数	回収率
身体障害者手帳	300	272	54.4％
療育手帳	100		
精神障害者保健福祉手帳	100		

５．報告書の見方

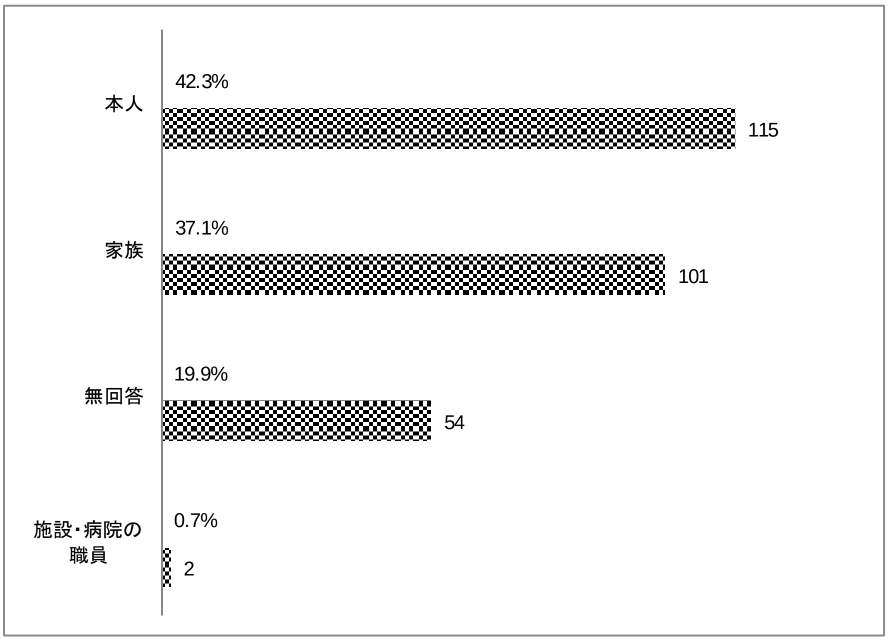
（１）　本報告書は、調査票の設問順に構成しており、全体、身体障がい者、知的障がい者及び精神障がい者別に集計しています。（重複障がい者は、手帳の重い方を基本として、知的及び精神を優先する障がいとして集計しています。）
（２）　回答結果は、回答者数に対して少数第２位を四捨五入したそれぞれの割合を示しています。そのため、単数回答（複数の選択項目から１つの選択項目を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
（３）　複数回答（複数の選択項目から２つ以上の選択項目を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択項目ごとの回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
（４）　図表中において「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものです。
（５）　本文中の設問の選択項目について、長い文は簡略化している場合があります。

Ⅱ．調査結果

１．対象者の属性

（１）回答者

図1　回答者（全体）



回答者数　272 人

表 1　回答者（全体・障がい別）

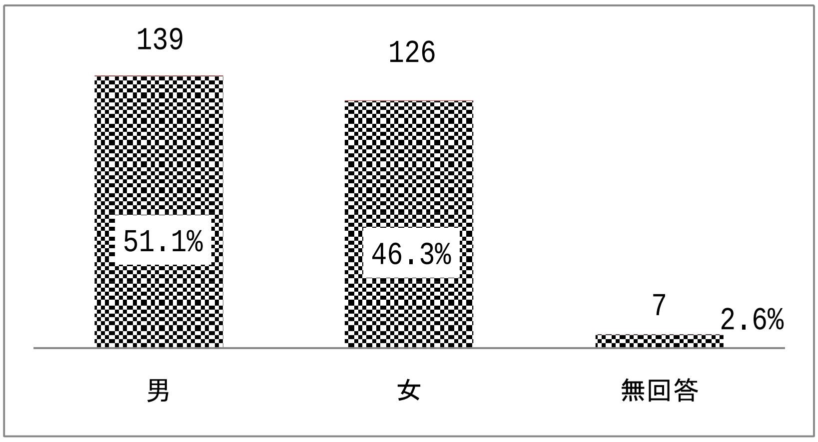
選択項目	総計	身体	知的	精神	無回答
本人	42.3%	47.1%	14.8%	55.4%	40.0%
家族	37.1%	28.0%	66.7%	33.9%	40.0%
無回答	19.9%	24.2%	18.5%	8.9%	20.0%
施設・病院の職員	0.7%	0.6%	0.0%	1.8%	0.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答者数（人）	272	157	54	56	5

全体では「本人」の 42.3％が最も多く、「家族」（37.1％）、「施設・病院の職員」（0.7％）の順で、無回答は 19.9％となっています。

障がい別では「本人」が最も多いのは身体障がい者（47.1％）、精神障がい者（55.4％）で、知的障がい者では「家族」が 66.7％と最も多くなっています。

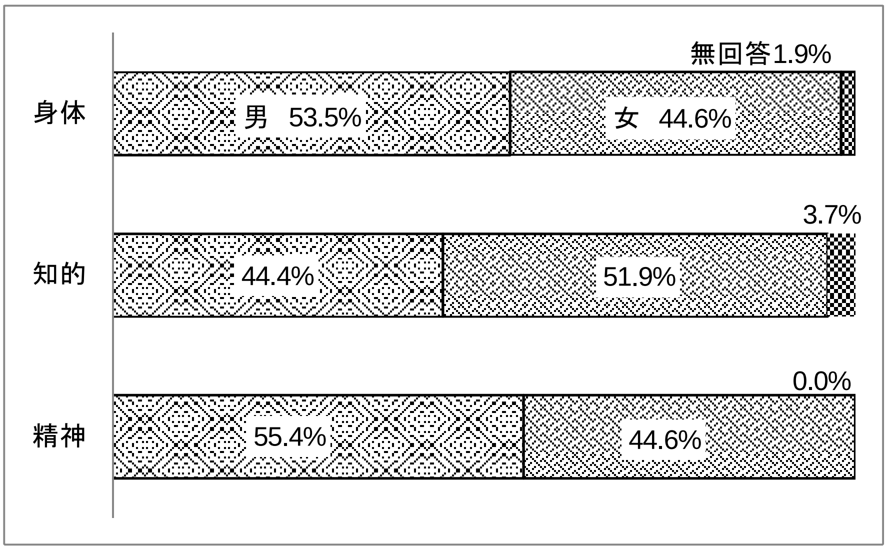
（２）性別

図 2 性別（全体）



回答者数 272 人

図 3 性別（障がい別）

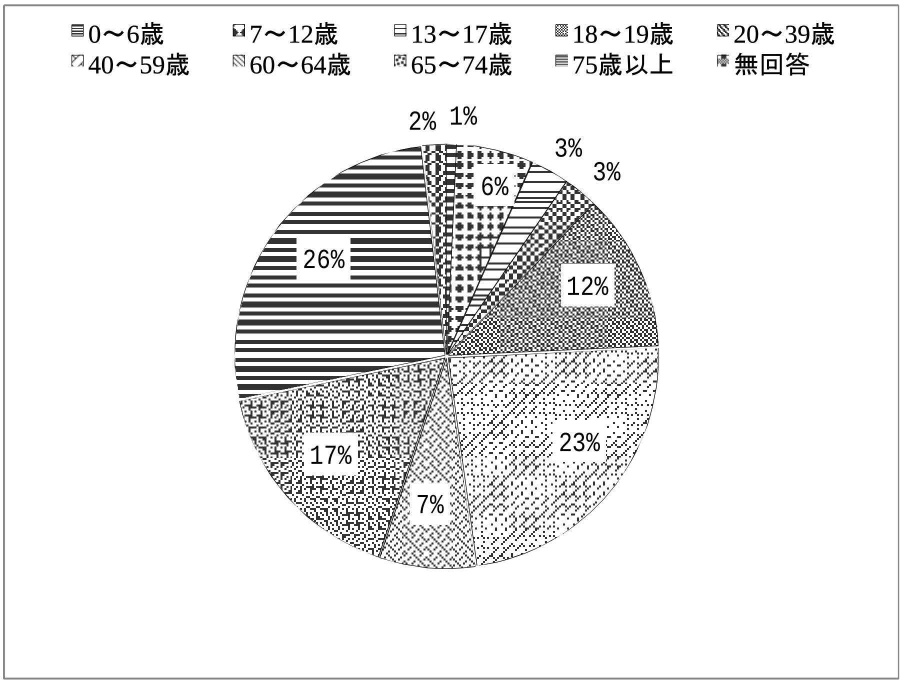


回答者数 272 人

障がい者全体では「男性」が 51.1%、「女性」が 46.3%と男性がやや上回っています。身体障がい者、精神障がい者は男性が多く、知的障がい者は女性が多いことから、身体障がい者と精神障がい者は男性の状況や意見が、知的障がい者は女性の状況や意見がやや反映される傾向にあります。

（３）年齢

図４　年齢（全体）



回答者数　272 人

表２　年齢（全体・障がい別）

選択項目	全体		身体		知的		精神		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
0～6歳	2	0.7%	0	0.0%	2	3.7%	0	0.0%	0	0.0%
7～12歳	16	5.9%	4	2.5%	11	20.4%	0	0.0%	1	20.0%
13～17歳	8	2.9%	0	0.0%	8	14.8%	0	0.0%	0	0.0%
18～19歳	7	2.6%	0	0.0%	6	11.1%	1	1.8%	0	0.0%
20～39歳	33	12.1%	6	3.8%	15	27.8%	12	21.4%	0	0.0%
40～59歳	64	23.5%	26	16.6%	6	11.1%	31	55.4%	1	20.0%
60～64歳	20	7.4%	11	7.0%	0	0.0%	8	14.3%	1	20.0%
65～74歳	45	16.5%	40	25.5%	3	5.6%	2	3.6%	0	0.0%
75歳以上	72	26.5%	68	43.3%	2	3.7%	2	3.6%	0	0.0%
無回答	5	1.8%	2	1.3%	1	1.9%	0	0.0%	2	40.0%
全体	272	100.0%	157	100.0%	54	100.0%	56	100.0%	5	100.0%

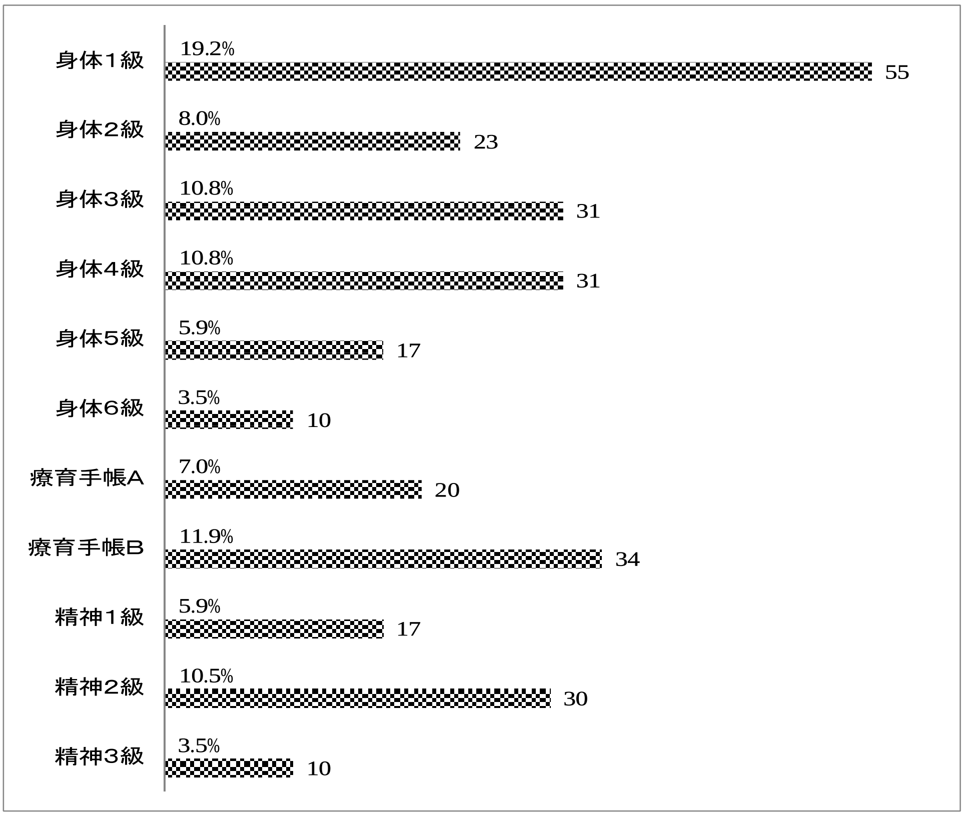
身体障がい者では「75 歳以上」が 43.3％、「65～74 歳」が 25.5％となっており、65 歳以上の高齢者が全体の 68.8％を占めています。

知的障がい者では「20～39 歳」(27.8％)、「7～12 歳」(20.4％)、「13～17 歳」(14.8％)、「40～59 歳」(11.1％)の順となっています。39 歳までの若年層が 77.8％と約８割を占め、65 歳以上の高齢者は 9.3％となっています。

精神障がい者では「40～59 歳」(55.4％)、「20～39 歳」(21.4％)、「60～64 歳」(14.3％)と続き、20 歳～64 歳で 91.1％と９割強を占め、65 歳以上の高齢者は 7.2％となっています。

（４）障がい等級別構成

図 5-1 全体の等級別



回答者数 278 人

表 3 全体の等級別（全体･障がい別）

選択項目	総計		身体	知的	精神	無回答
	人数	構成比				
身体1級	55	32.9%	48	6	1	0
身体2級	23	13.8%	22	1	0	0
身体3級	31	18.6%	31	0	0	0
身体4級	31	18.6%	29	1	1	0
身体5級	17	10.2%	14	0	2	1
身体6級	10	6.0%	8	2	0	0
身体　計	167	100.0%	152	10	4	1
療育手帳A	20	37.0%	3	15	1	1
療育手帳B	34	63.0%	2	31	0	1
療育手帳計	54	100.0%	5	46	1	2
精神1級	17	29.8%	1	0	16	0
精神2級	30	52.6%	0	2	28	0
精神3級	10	17.5%	0	0	10	0
精神　計	57	100.0%	1	2	54	0
無回答	8	2.8%	2	3	0	3
合計	286	100.0%	160	61	59	6
回答者数（合計ー無回答）	278		158	58	59	3

図 5-2 障がい等級別（身体）

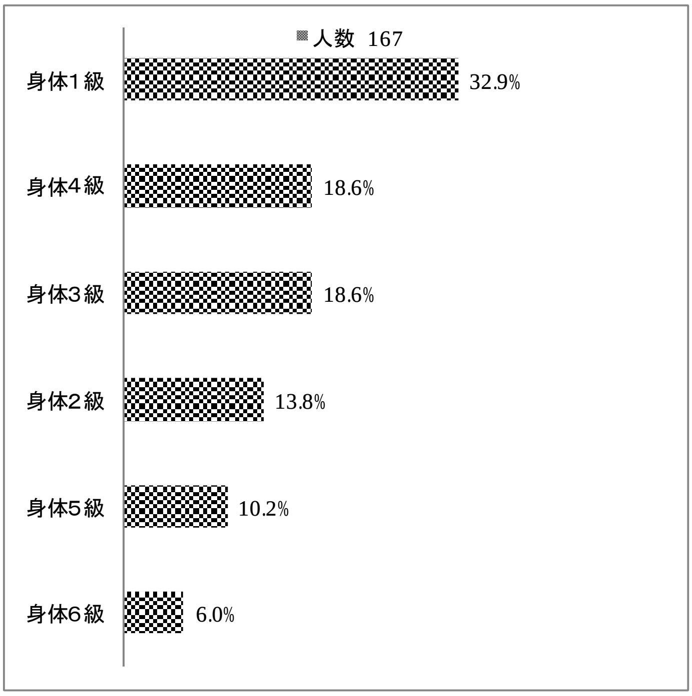


図 5-3 障がい等級別（知的）

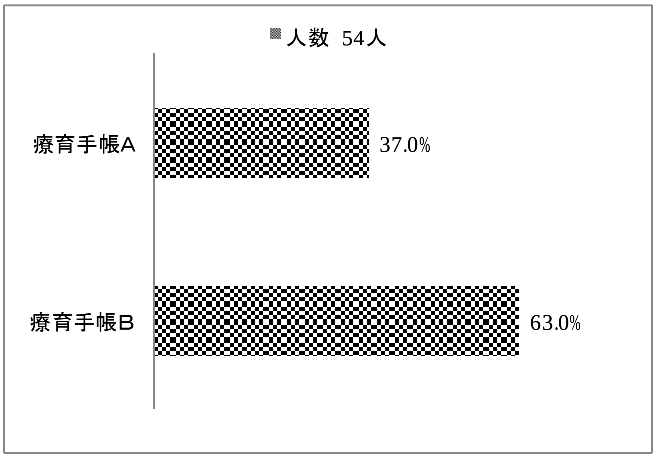
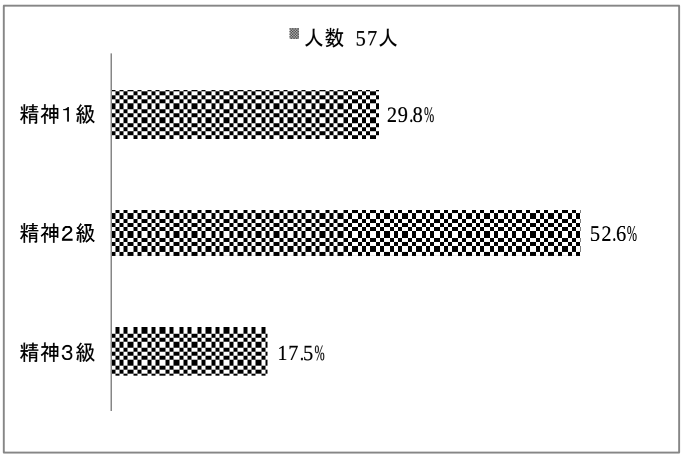


図 5-4 障がい等級別（精神）



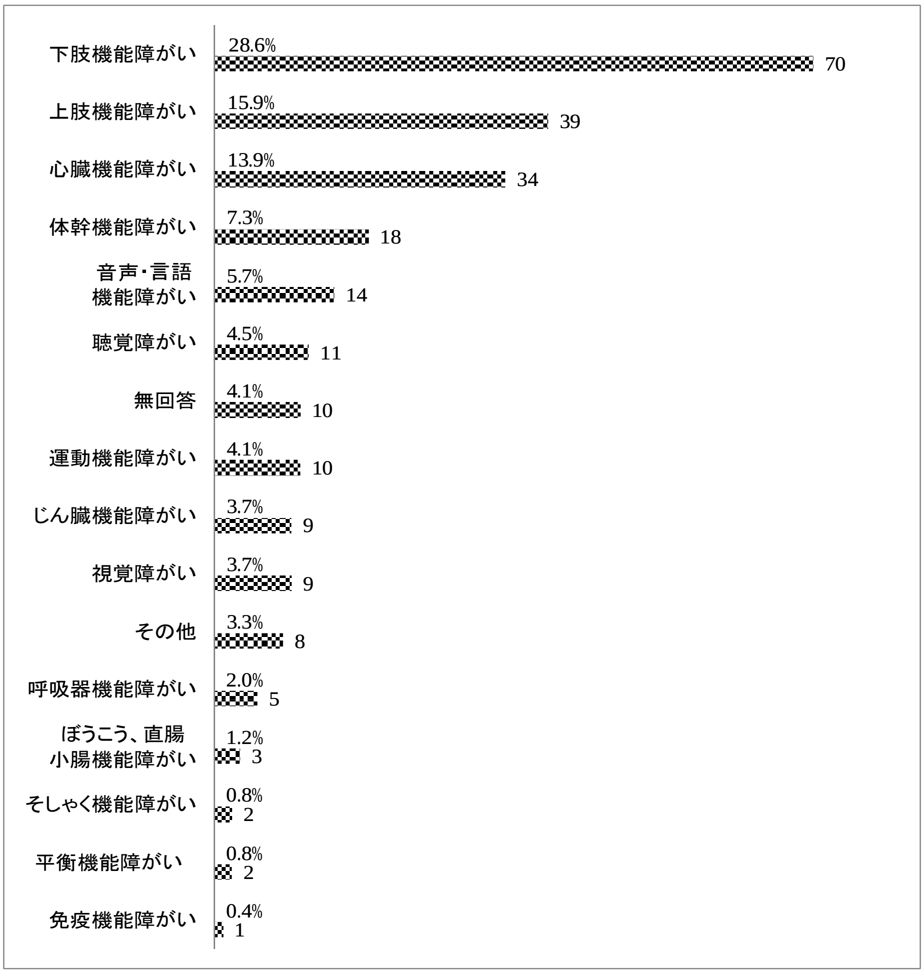
身体障がい者では１級が 32.9%、３級、４級が各 18.6%、２級が 13.8%と続いており、１～２級の重度の身体障がい者が 46.7%と半数に近い数字となっています。

知的障がい者では療育手帳Ａ（重度）が 37.0%、療育手帳Ｂ（中・軽度）が 63.0%で、重度者は、約４割となっています。

精神障がい者では精神障害者保健福祉手帳２級が 52.6%、１級が 29.8%、３級が 17.5%となっています。

（５）障がいの種類（身体障がい者のみ）

図６ 手帳の障がい名



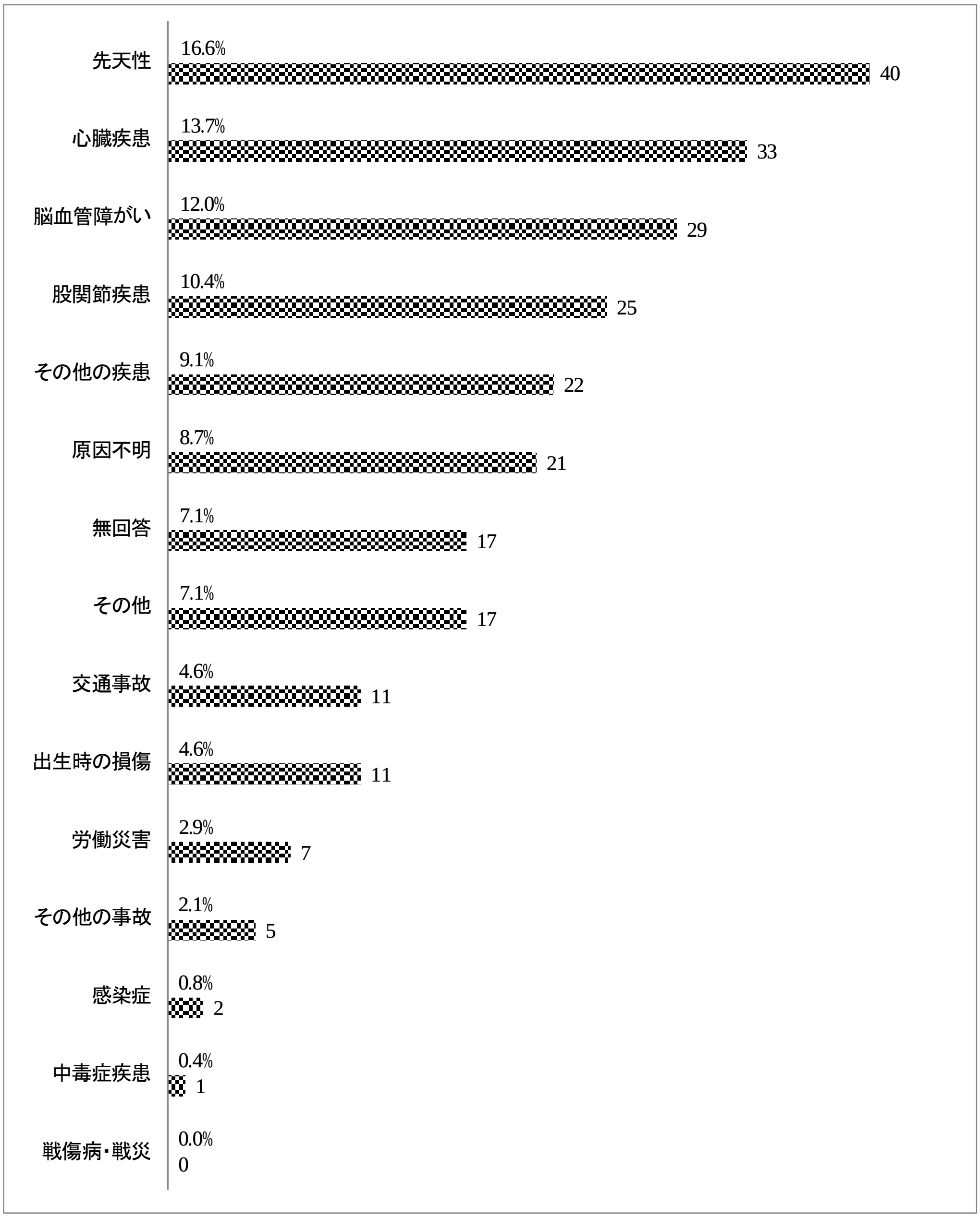
回答者数 245 人

「下肢機能障がい」(28.6%)、「上肢機能障がい」(15.9%)、「体幹機能障がい」(7.3%)、「運動機能障がい」(4.1%)といわゆる“肢体不自由”が 55.9%にのぼります。次いで「心臓機能障がい」(13.9%)、「じん臓機能障がい」(3.7%)、「ぼうこう、直腸、小腸機能障がい」(1.2%)やヒト免疫不全ウイルスによる「免疫機能障がい」(0.4%)などの“内部機能障がい”が 19.2%となっています。

その他、“聴覚・平衡機能の障がい”が 5.3%、「視覚障がい」が 3.7%、“音声機能・言語機能・そしゃく機能の障がい”が 6.5%となっています。

（６）障がいの原因（身体・知的障がい者のみ）

図７ 障がい原因



回答者数 241 人

原因別では、「心臓疾患」(13.7%)、「脳血管障がい」(12.0%)、「感染症」(0.8%)、「その他の疾病」(9.1%)など疾病によるものが 35.6%と３割強を占め、疾病の中では生活習慣病に起因するものが多くなっています。

また、「労働災害」(2.9%)、「交通事故」(4.6%)、「その他の事故」(2.1%）など事故によるものが 9.6%となっています。

その他、「先天性」は 16.6%、「出生時の損傷」は 4.6%、「原因不明」は 8.7%となっています。

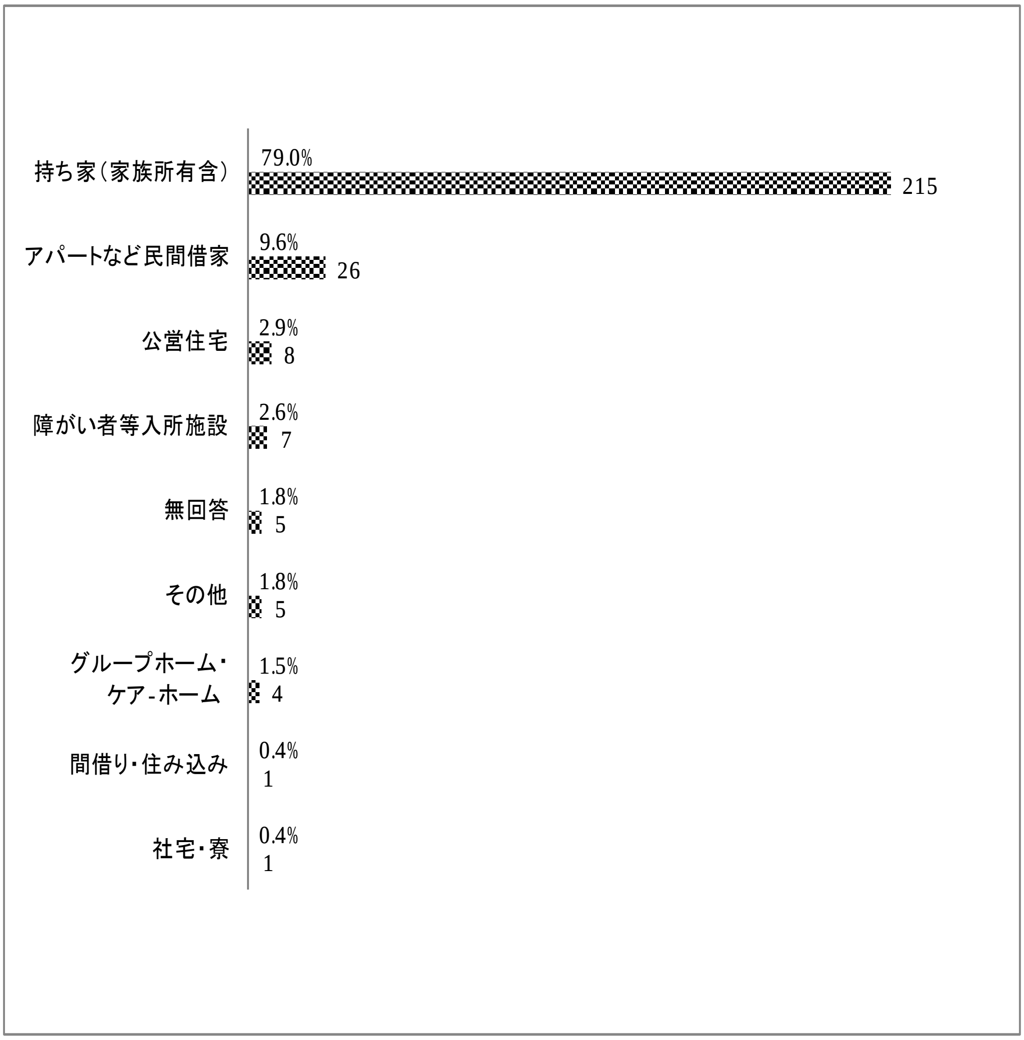
２．対象者の日常生活

（１）生活の場

問６　現在のお住まい（生活の場）は、次のどれにあたりますか。

全体では「持ち家」がおよそ８割を占める。次いで「アパートなどの民間の借家」がおよそ１割となっている。

図８ 居住形態（全体）



回答者数 272 人

表４ 居住形態（全体・障がい別）

選択項目	総計	身体	知的	精神	無回答
持ち家（家族所有含）	79.0%	84.1%	74.1%	71.4%	60.0%
アパートなど民間借家	9.6%	3.8%	14.8%	21.4%	0.0%
公営住宅	2.9%	3.8%	3.7%	0.0%	0.0%
障がい者等入所施設	2.6%	3.2%	1.9%	1.8%	0.0%
その他	1.8%	0.6%	3.7%	1.8%	20.0%
グループホーム・ケア	1.5%	1.9%	0.0%	1.8%	0.0%
間借り・住み込み	0.4%	0.0%	0.0%	1.8%	0.0%
社宅・寮	0.4%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	1.8%	1.9%	1.9%	0.0%	20.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答者数（人）	272	157	54	56	5

全体では「持ち家」が 79.0％とおよそ８割を占めており、特に身体障がい者では「持ち家」が多く、84.1％を占めております。「アパートなど民間の借家」、「公営住宅」が各3.8％となっています。

知的障がい者では「持ち家」は 74.1％と７割強で、「アパートなど民間の借家」は 14.8％、「公営住宅」は 3.7％なっています。

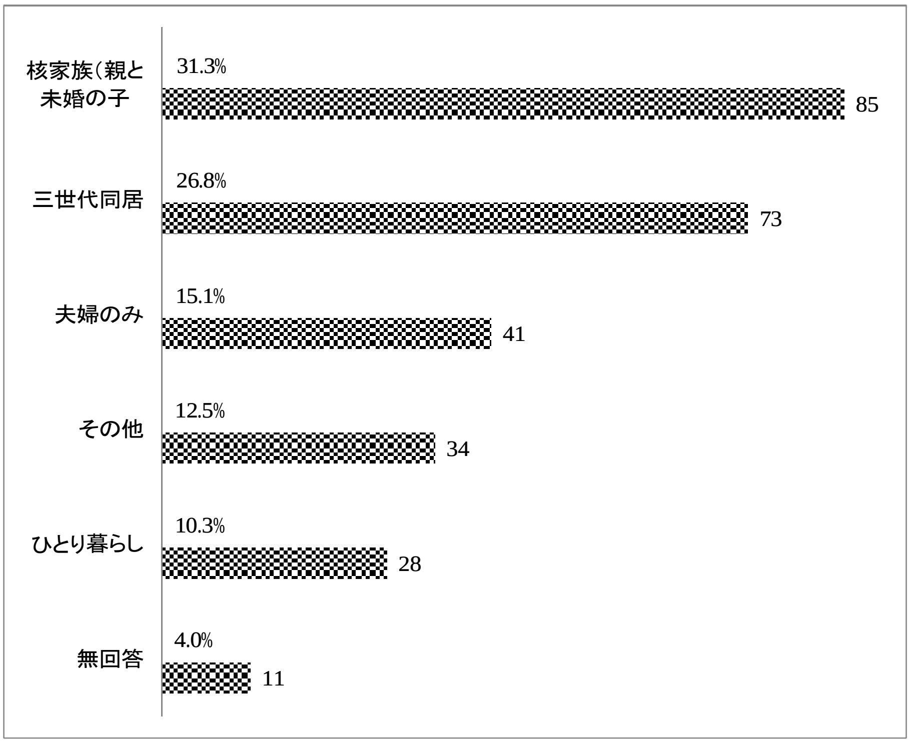
精神障がい者では「持ち家」が 71.4％で、「アパートなど民間の借家」が 21.4％となっています。身体障がい者に比較して、借家が多くなっています。

（２）家族構成

問７　あなたの家族構成は次のどれにあたりますか。あなたを中心としてお答えください。また、施設などに入所している方は、実家の状態をお答えください。

「核家族」、「三世代同居」、「夫婦のみ」の順であり、親子や配偶者と暮らしている人が7割強となっている。

図 9 家族構成（全体）



回答者数 272 人

表 5 家族構成（全体・障がい者別）

選択項目	総計	身体	知的	精神	無回答
核家族（親と未婚の子	31.3%	21.0%	48.1%	44.6%	20.0%
三世代同居	26.8%	34.4%	25.9%	8.9%	0.0%
夫婦のみ	15.1%	21.0%	3.7%	8.9%	20.0%
その他	12.5%	9.6%	16.7%	16.1%	20.0%
ひとり暮らし	10.3%	10.2%	3.7%	16.1%	20.0%
無回答	4.0%	3.8%	1.9%	5.4%	20.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答者数（人）	272	157	54	56	5

全体では「核家族」が 31.3％と最も多く、「三世代同居」が 26.8％、「夫婦のみ」が 15.1％と親子関係や配偶者と暮らしている人が 73.2％と 7 割強を占め、「ひとり暮らし」は

10.3%、「その他」が12.5%となっています。「その他」はほとんどが施設等入所入院の記述回答です。

身体障がい者では「三世代同居」が34.4%と多く、「核家族」、「夫婦のみ」が各21.0%になっています。

知的障がい者では「核家族」が48.1%で、「三世代同居」(25.9%)と合わせると74%を占めます。

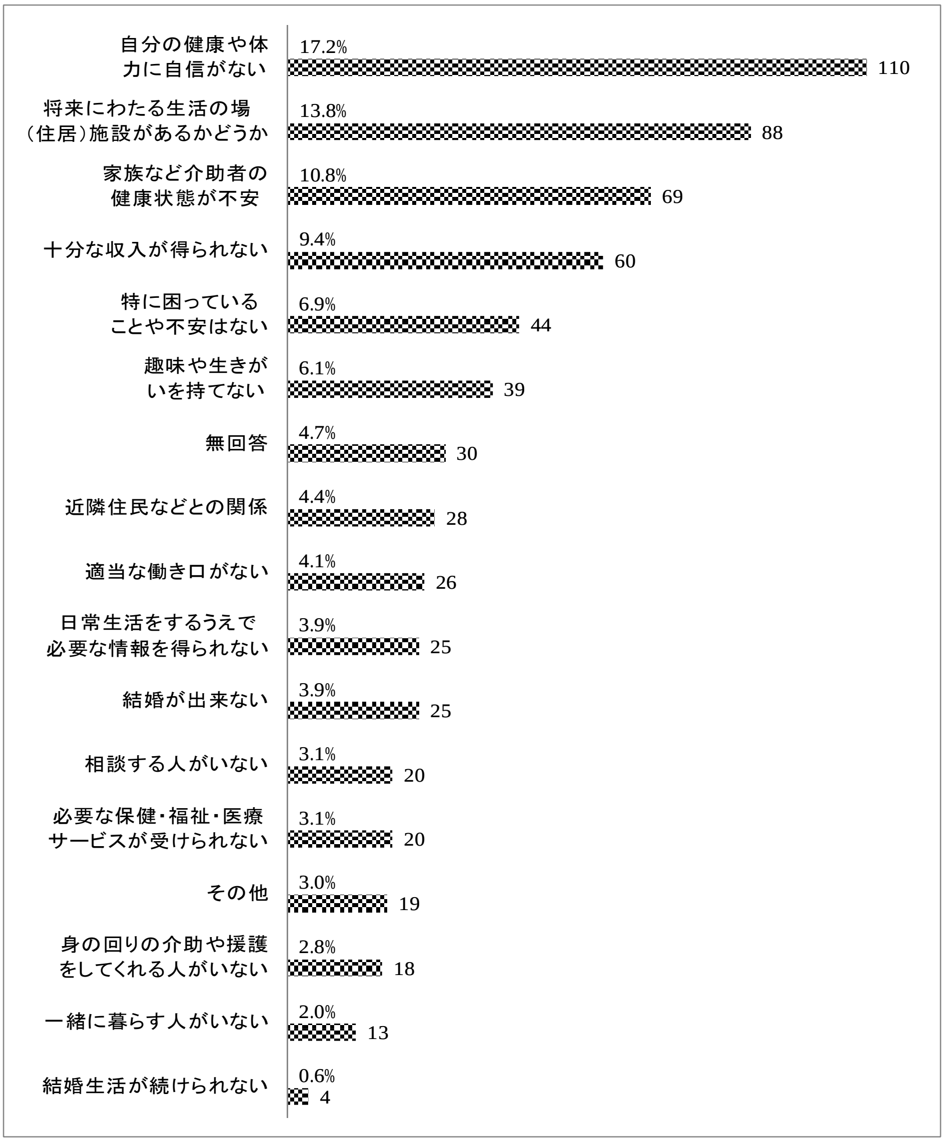
精神障がい者では「核家族」(44.6%)が最も多くなっていますが、「ひとり暮らし」(16.1%)が他の障がい者に比較して多くなっています。

（３）日常生活上の不安

問８　現在の生活で困っていることや不安に思っていることがありますか。(複数回答)

健康面での不安、将来の生活への不安、収入面など様々な不安がある。

図10 生活で困っていることや不安(全体)



回答者数 638人

表６ 生活で困っていることや不安（全体・障がい者別）

選択項目	総計	身体	知的	精神	無回答
自分の健康や体力に自信がない	17.2%	22.4%	11.1%	14.6%	14.3%
将来にわたる生活の場（住居）施設があるかどうか	13.8%	10.7%	26.2%	11.1%	7.1%
家族など介助者の健康状態が不安	10.8%	12.1%	8.7%	10.2%	14.3%
十分な収入が得られない	9.4%	9.6%	7.9%	10.2%	7.1%
特に困っていることや不安はない	6.9%	12.5%	2.4%	2.7%	7.1%
趣味や生きがいを持てない	6.1%	3.3%	4.0%	11.1%	0.0%
近隣住民などとの関係	4.4%	1.8%	5.6%	7.1%	0.0%
適当な働き口がない	4.1%	2.6%	6.3%	4.9%	0.0%
結婚が出来ない	3.9%	1.1%	4.8%	6.6%	7.1%
日常生活をするうえで必要な情報を得られない	3.9%	2.6%	4.8%	4.9%	7.1%
必要な保健・福祉・医療サービスが受けられない	3.1%	1.5%	4.0%	4.4%	7.1%
相談する人がいない	3.1%	1.8%	3.2%	4.9%	0.0%
その他	3.0%	4.8%	2.4%	1.3%	0.0%
身の回りの介助や援護をしてくれる人がいない	2.8%	3.7%	1.6%	2.7%	0.0%
一緒に暮らす人がいない	2.0%	1.5%	1.6%	2.2%	14.3%
結婚生活が続けられない	0.6%	0.0%	0.8%	0.9%	7.1%
無回答	4.7%	8.1%	4.8%	0.4%	7.1%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答者数（人）	638	272	126	226	14

全体では「自分の健康や体力に自信がない」が 17.2％と健康面での不安が最も多くなっています。「将来にわたる生活の場、または施設の有無」(13.8％)、「家族など介助者の健康状態が不安」(10.8％)、「十分な収入が得られない」(9.4％)、「趣味や生きがいを持てない」(6.1％)、「適当な働き口がない」(4.1％)などが続き、将来の生活面での不安がみられます。

身体障がい者では「自分の健康や体力に自信がない」が 22.4％となっており、健康上の不安がみられます。

知的障がい者では「将来にわたる生活の場、または施設の有無」が 26.2％と最も多く、健康面の不安とともに、将来の生活面での不安を抱えています。

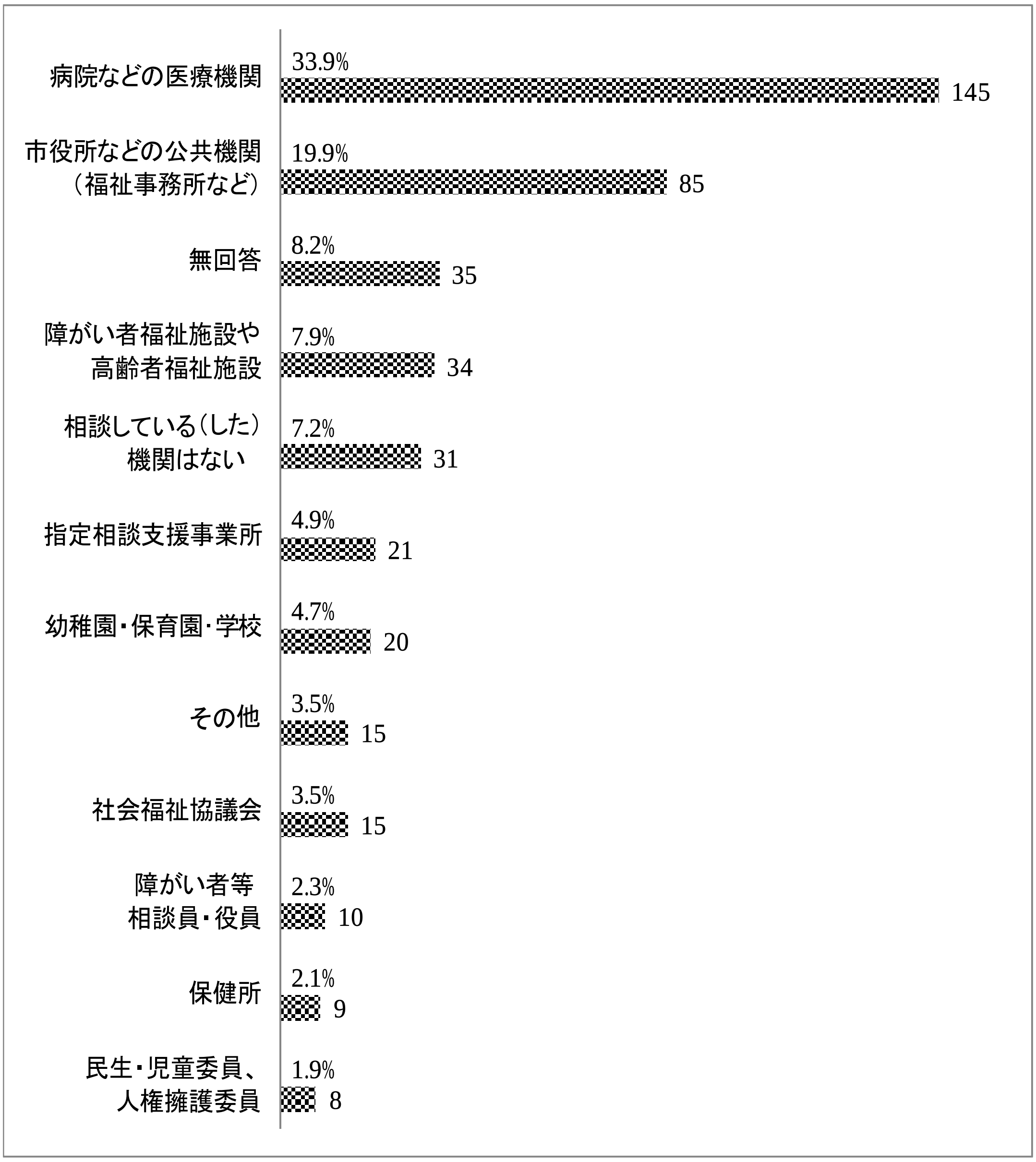
精神障がい者では「自分の健康や体力に自信がない」が 14.6％と最も多くなっていますが、「将来にわたる生活の場、または施設の有無」、「趣味や生きがいを持てない」（各 11.1％）、「家族などの介助者の健康状態が不安」、「十分な収入を得られない」（各 10.2％）と続いています。

（４）相談先（機関）

問９　障がいや生活などについて相談している（したことがある）機関はどこですか。

最も相談する先は「病院などの医療機関」となっている。

図 11　相談している機関（全体）



回答者数　428 人

表７　相談している機関（全体・障がい者別）

選択項目	総計	身体	知的	精神	無回答
病院などの医療機関	33.9%	31.0%	31.8%	43.8%	0.0%
市役所などの公共機関（福祉事務所など）	19.9%	18.6%	22.4%	20.0%	16.7%
無回答	8.2%	13.3%	2.8%	1.0%	50.0%
障がい者福祉施設や高齢者福祉施設	7.9%	7.1%	10.3%	6.7%	16.7%
相談している（した）機関はない	7.2%	11.4%	2.8%	3.8%	0.0%
指定相談支援事業所	4.9%	5.2%	2.8%	6.7%	0.0%
幼稚園・保育園・学校	4.7%	1.0%	15.9%	1.0%	0.0%
社会福祉協議会	3.5%	3.3%	3.7%	3.8%	0.0%
その他	3.5%	3.8%	2.8%	2.9%	16.7%
障がい者等相談員・役員	2.3%	1.4%	0.9%	5.7%	0.0%
保健所	2.1%	1.4%	1.9%	3.8%	0.0%
民生・児童委員、人権擁護委員	1.9%	2.4%	1.9%	1.0%	0.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答者数（人）	428	210	107	105	6

「病院などの医療機関」が 33.9%と最も多い相談先になっています。以下「市役所などの公共機関（福祉事務所など）」(19.9%)、「指定相談支援事業所」(4.9%）などが続きますが、一方では「相談している（した）機関はない」が 7.2%、「無回答」としている人が 8.2%にのぼります。

「病院などの医療機関」は、３障がいとも最も多く、特に精神障がい者では 43.8%と４割強となっています。

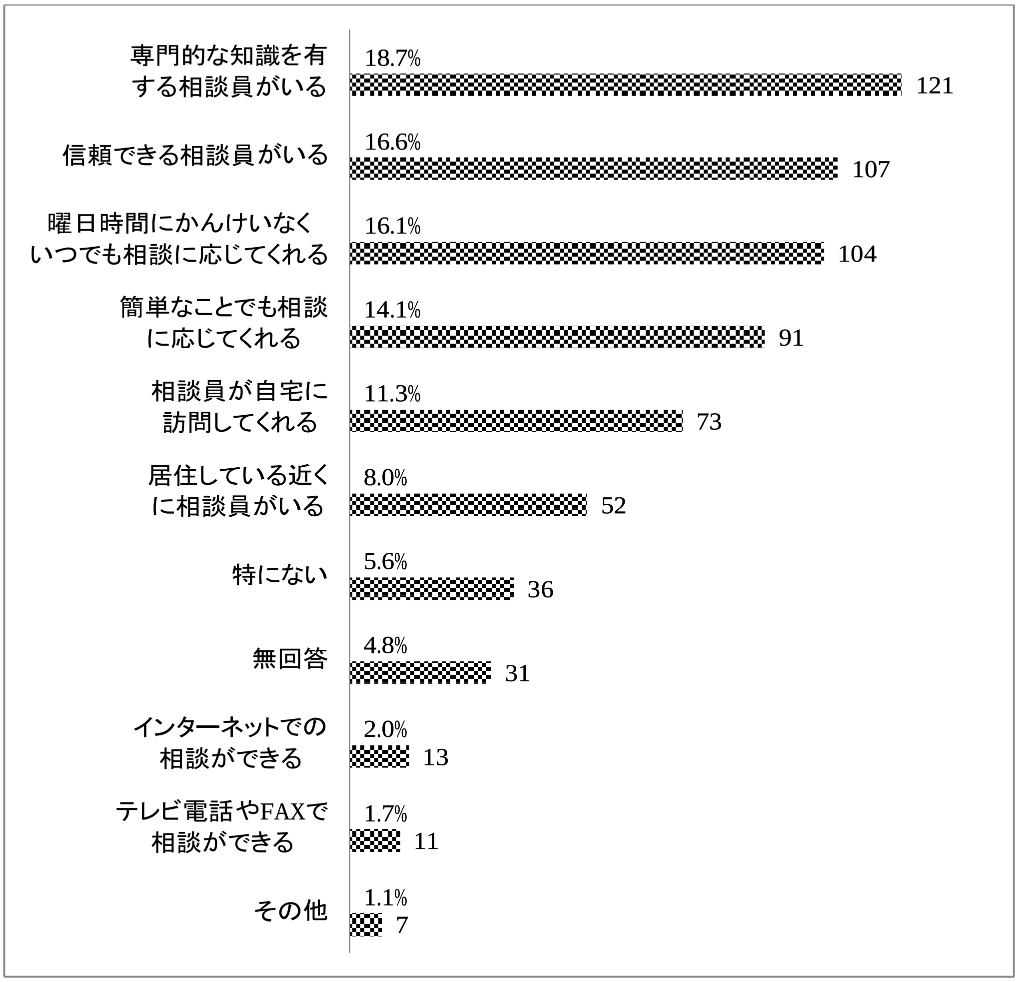
（５）相談しやすい体制の条件

問１０　相談しやすい体制をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。

（複数回答）

いつでも相談できることと信頼できる相談者が必要。また、身近で、簡単なことでも相談に応じてくれる相談への要望が高い。

図 12　相談しやすい体制の条件（全体）



回答者数　646 人

表 8　相談しやすい体制の条件（全体・障がい者別）

選択項目	総計	身体	知的	精神	無回答
専門的な知識を有する相談員がいる	18.7%	16.6%	22.6%	19.4%	0.0%
信頼できる相談員がいる	16.6%	15.3%	19.5%	16.6%	0.0%
曜日時間にかんけいなくいつでも相談に応じてくれる	16.1%	15.6%	15.1%	18.3%	0.0%
簡単なことでも相談に応じてくれる	14.1%	14.0%	16.4%	12.6%	0.0%
相談員が自宅に訪問してくれる	11.3%	15.0%	7.5%	8.6%	0.0%
居住している近くに相談員がいる	8.0%	5.5%	10.7%	10.3%	0.0%
特にない	5.6%	8.5%	1.9%	4.0%	0.0%
無回答	4.8%	6.2%	1.3%	2.9%	100.0%
インターネットでの相談ができる	2.0%	1.0%	2.5%	3.4%	0.0%
テレビ電話やFAXで相談ができる	1.7%	1.0%	1.3%	3.4%	0.0%
その他	1.1%	1.3%	1.3%	0.6%	0.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答者数（人）	646	307	159	175	5

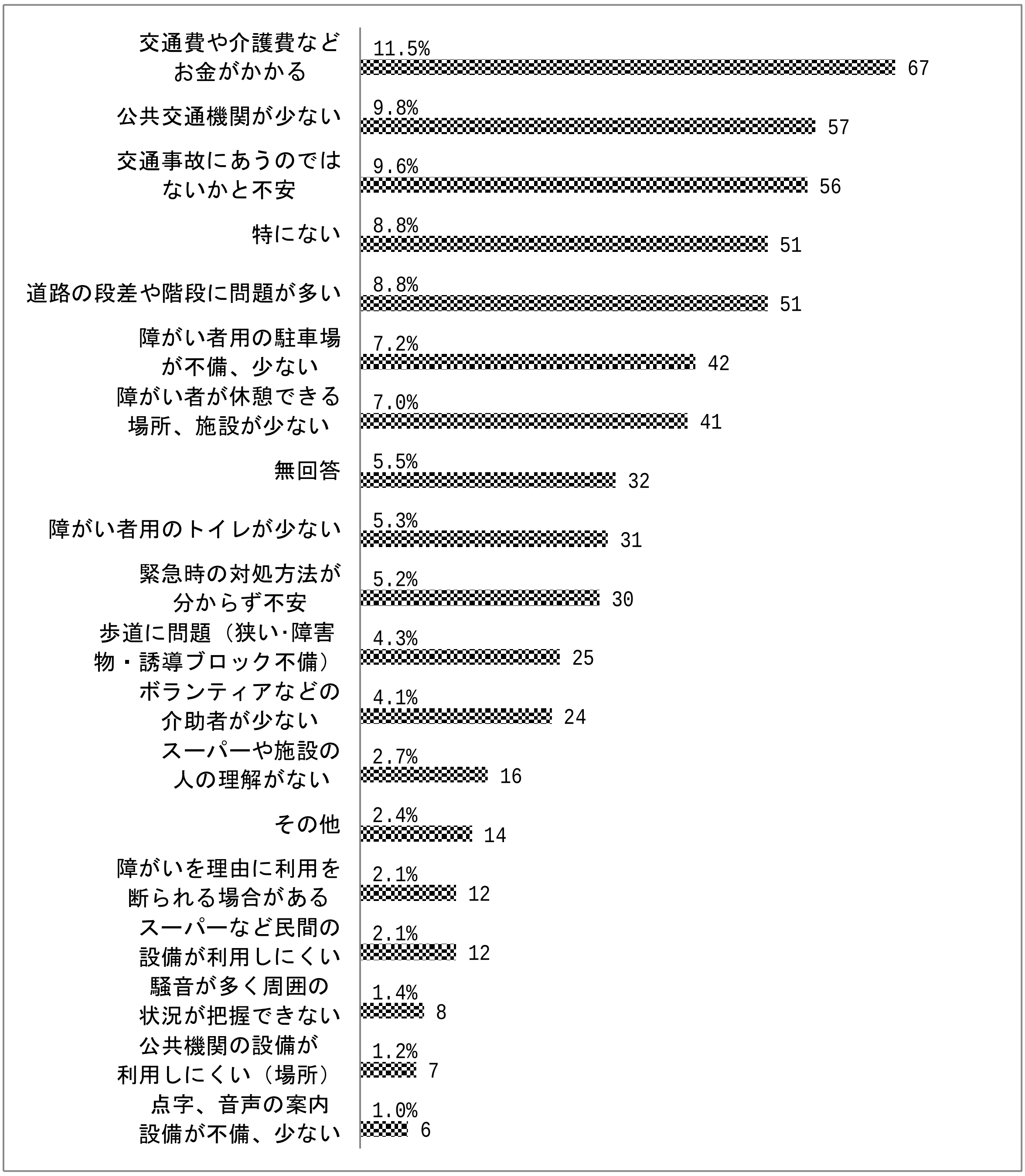
「専門的な知識を有する相談員がいる」(18.7%)、「信頼できる相談員がいる」(16.6%)、「いつでも相談に応じてくれる」(16.1%)、「簡単なことでも相談に応じてくれる」(14.1%)、「相談員が自宅に訪問してくれる」と「居住地に相談員がいる」を合わせて19.3%と身近な場所で相談できる窓口を求めています。

（6）外出時の困難

問１１　外出する時、不便不安に思うことは何ですか。（複数回答）

公共交通機関が少ない、道路の段差や階段、トイレなどハード面の不便さ、交通機関の不便さを感じている。交通費や介護に経費がかかる、人の目が気になることや交通事故への不安、周囲の無理解などを感じる。

図 13　外出時の不便・不安に思うこと（全体）



回答者数　582 人

表9　外出時の不便・不安に思うこと(全体・障がい者別)

選択項目	総計	身体	知的	精神	無回答
交通費や介護費などお金がかかる	11.5%	12.0%	10.2%	11.6%	14.3%
公共交通機関が少ない	9.8%	9.4%	10.9%	8.7%	28.6%
交通事故にあうのではないかと不安	9.6%	6.1%	16.4%	11.6%	0.0%
道路の段差や階段に問題が多い	8.8%	11.7%	5.5%	5.8%	0.0%
特にない	8.8%	10.4%	3.9%	10.1%	0.0%
障がい者用の駐車場が不備、少ない	7.2%	10.0%	3.9%	3.6%	14.3%
障がい者が休憩できる場所、施設が少ない	7.0%	6.1%	8.6%	8.0%	0.0%
無回答	5.5%	6.8%	3.1%	3.6%	28.6%
障がい者用のトイレが少ない	5.3%	6.1%	3.9%	5.1%	0.0%
緊急時の対処方法が分からず不安	5.2%	3.2%	7.0%	8.0%	0.0%
歩道に問題(狭い･障害物・誘導ブロック不備)	4.3%	4.5%	4.7%	3.6%	0.0%
ボランティアなどの介助者が少ない	4.1%	2.6%	6.3%	5.1%	14.3%
スーパーや施設の人の理解がない	2.7%	1.6%	4.7%	3.6%	0.0%
その他	2.4%	2.9%	3.1%	0.7%	0.0%
スーパーなど民間の設備が利用しにくい	2.1%	1.6%	2.3%	2.9%	0.0%
障がいを理由に利用を断られる場合がある	2.1%	1.9%	0.8%	3.6%	0.0%
騒音が多く周囲の状況が把握できない	1.4%	0.6%	3.1%	1.4%	0.0%
公共機関の設備が利用しにくい(場所)	1.2%	0.6%	1.6%	2.2%	0.0%
点字、音声の案内設備が不備、少ない	1.0%	1.6%	0.0%	0.7%	0.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答者数(人)	582	309	128	138	7

外出時の困難については「交通費や介護費などお金がかかる」(11.5%)が最も多くなっており、「公共交通機関が少ない」(9.8%)、「交通事故にあうのでないかと不安」(9.6%)、「道路の段差や階段に問題が多い」(8.8%)、「障がい者用の駐車場が不備、少ない」(7.2%)、「休息できる場所、施設の不足」(7.0%)と続き多様となっています。

また、ハード面の他に、「スーパーや施設の人の理解がない」(2.7%)等、周囲の人の理解がないことがあげられています。

身体障がい者では「交通費や介護費などお金がかかる」(12.0%)、「道路の段差や階段に問題が多い」(11.7%)、「障がい者用の駐車場が不備、少ない」(10.0%)と続いています。

知的障がい者では「事故にあうのではないかと不安」(16.4%)が最も多く、「公共交通機関が少ない」(10.9%)、「交通費や介護費などお金がかかる」(10.2%)と続いています。

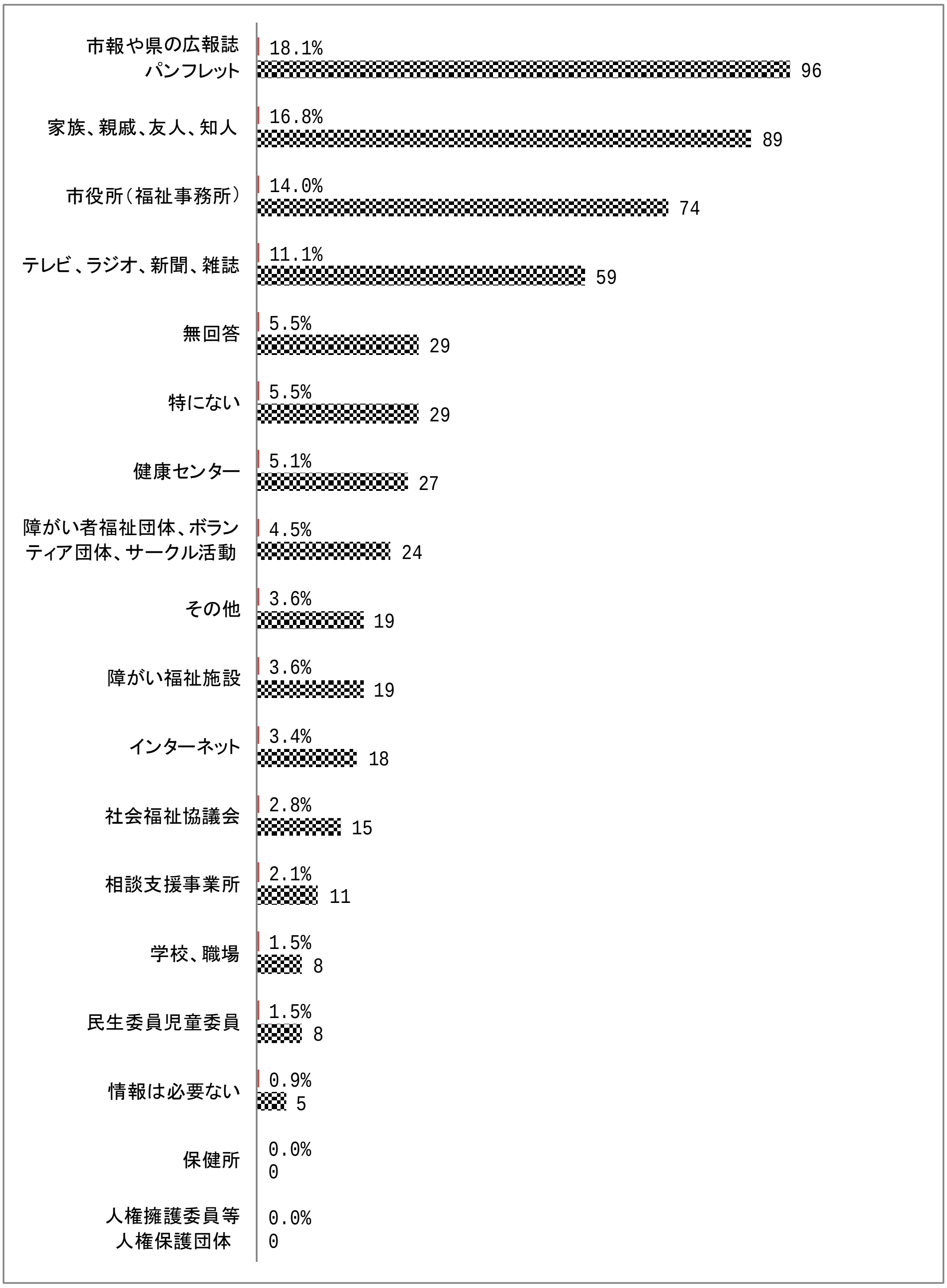
精神障がい者では全体とほぼ同様となっています。

（７）サービスの情報源

問１２　福祉サービスに関する情報をどこから入手していますか。(３つ選択)

「市や県の広報」、「家族、親戚、友人、知人」からの情報、「テレビ、ラジオ、新聞、雑誌」、「市役所」など多様。

図 14 福祉サービスに関する情報源（全体）



回答者数 530 人

表 10　福祉サービスに関する情報源（全体・障がい別）

選択項目	総計	身体	知的	精神	無回答
市報や県の広報誌、パンフレット	18.1%	20.3%	17.6%	13.2%	16.7%
家族、親戚、友人、知人	16.8%	16.2%	18.5%	17.5%	0.0%
市役所（福祉事務所）	14.0%	14.1%	15.1%	13.2%	0.0%
テレビ、ラジオ、新聞、雑誌	11.1%	13.7%	5.9%	9.6%	16.7%
特にない	5.5%	6.2%	2.5%	7.0%	0.0%
健康センター	5.1%	3.8%	8.4%	5.3%	0.0%
障がい者福祉団体、ボランティア団体、サークル活動	4.5%	3.1%	7.6%	5.3%	0.0%
障がい福祉施設	3.6%	3.4%	5.0%	2.6%	0.0%
その他	3.6%	2.7%	2.5%	7.0%	0.0%
インターネット	3.4%	2.4%	4.2%	5.3%	0.0%
社会福祉協議会	2.8%	3.4%	2.5%	1.8%	0.0%
相談支援事業所	2.1%	2.7%	0.8%	1.8%	0.0%
民生委員児童委員	1.5%	2.4%	0.8%	0.0%	0.0%
学校、職場	1.5%	0.0%	5.9%	0.9%	0.0%
情報は必要ない	0.9%	0.0%	0.0%	4.4%	0.0%
人権擁護委員等人権保護団体	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
保健所	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	5.5%	5.5%	2.5%	5.3%	66.7%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答者数(人）	530	291	119	114	6

「市報や県の広報誌、パンフレット」が 18.1％と最も多く、「家族、親戚、友人、知人」が 16.8％、「市役所（福祉事務所）」(14.0％)、「テレビ、ラジオ、新聞、雑誌」(11.1％）と続いています。

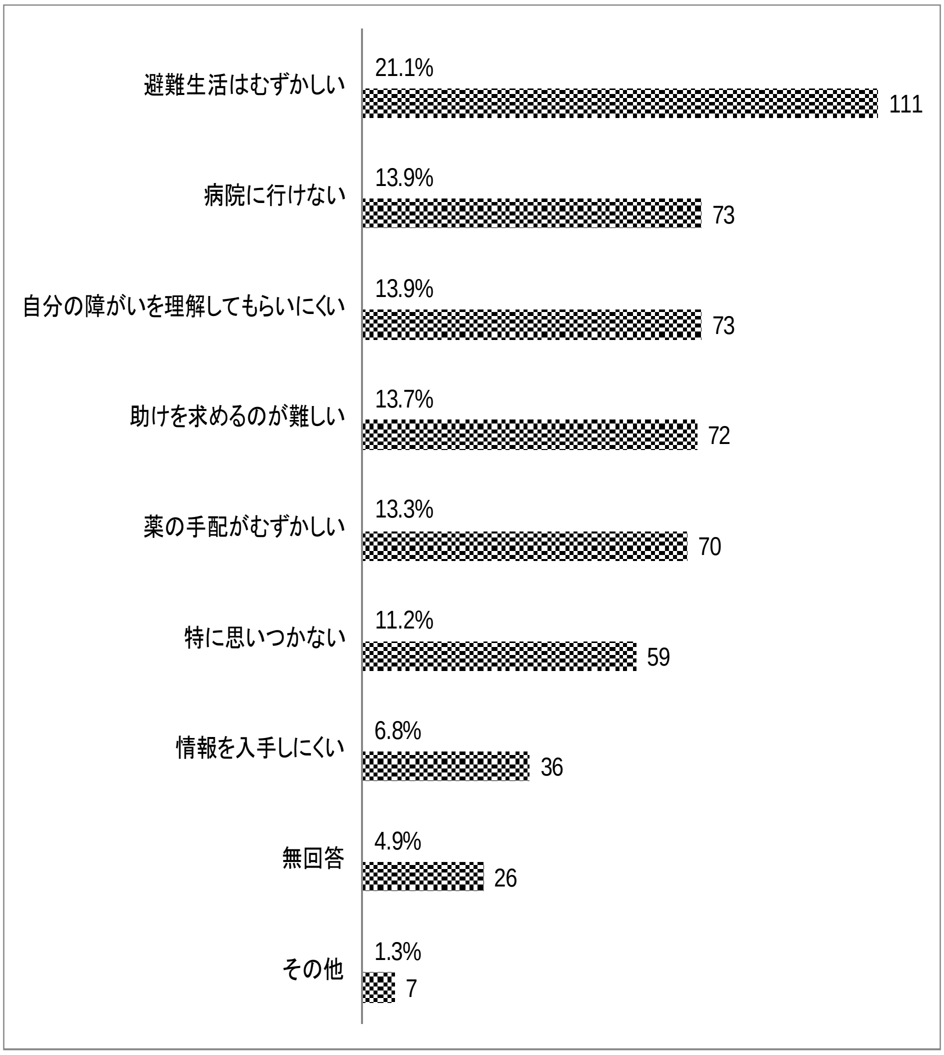
３．災害時の対応

（１）災害時の心配なこと

問１３　地震など大きな災害がおきたときの心配は何ですか。(複数回答)

避難所生活の困難さが心配。知的障がい者では助けを求めるのがむずかしいなど災害発生時の不安がみられる。

図 15 災害時の心配なこと



回答者数 527 人

表 11　災害時の心配なこと（全体・障がい別）

選択項目	総計	身体	知的	精神	無回答
避難生活はむずかしい	21.1%	22.1%	22.7%	18.0%	16.7%
自分の障がいを理解してもらいにくい	13.9%	9.9%	21.8%	14.4%	16.7%
病院に行けない	13.9%	12.9%	13.4%	16.5%	0.0%
助けを求めるのが難しい	13.7%	14.1%	18.5%	8.6%	16.7%
薬の手配がむずかしい	13.3%	11.4%	9.2%	20.9%	0.0%
特に思いつかない	11.2%	16.0%	3.4%	8.6%	16.7%
情報を入手しにくい	6.8%	6.1%	6.7%	8.6%	0.0%
その他	1.3%	1.1%	0.8%	2.2%	0.0%
無回答	4.9%	6.5%	3.4%	2.2%	33.3%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答者数（人）	527	263	119	139	6

「避難所生活はむずかしい」が 21.1%と最も多く、「自分の障がいを理解してもらいにくい」、「病院に行けない」(各 13.9%)など、避難時や避難所の集団生活への不安が目立ちます。また、災害時の医療体制への不安が多くなっています。

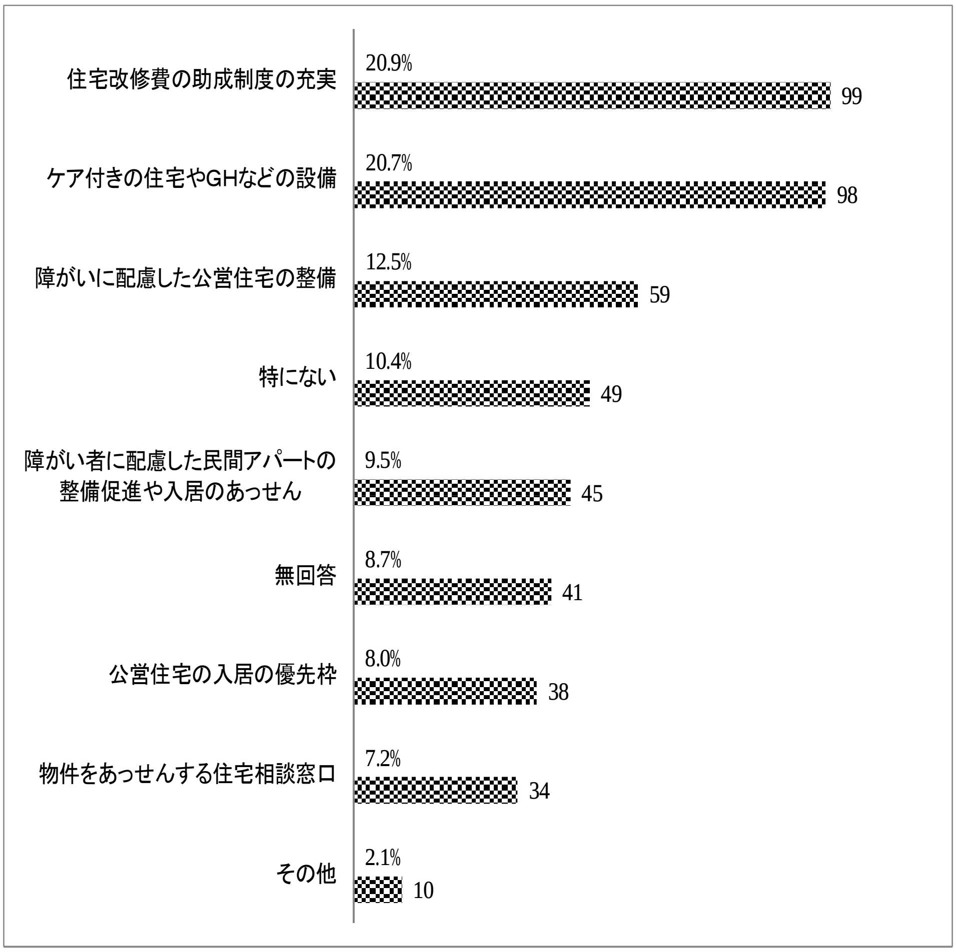
４．住まいについて

（１）住宅対策に望むこと

問１４　市の障がい者用住宅対策として、今後特に望むことは何ですか。（３つ選択）

住宅改修費の助成制度、ケア付き住宅やグループホームの整備、障がいに配慮した公営住宅を望んでいる。

図 16 住宅対策に望むこと（全体）



回答者数 473 人

表 12　住宅対策に望むこと（全体・障がい別）

選択項目	総計	身体	知的	精神	無回答
住宅改修費の助成制度の充実	20.9%	26.4%	12.4%	17.6%	0.0%
ケア付きの住宅やGHなどの設備	20.7%	18.5%	33.3%	13.9%	16.7%
障がいに配慮した公営住宅の整備	12.5%	9.8%	17.1%	14.8%	0.0%
特にない	10.4%	13.4%	3.8%	10.2%	0.0%
障がい者に配慮した民間アパートの整備促進や入居のあっせん	9.5%	7.9%	13.3%	9.3%	16.7%
公営住宅の入居の優先枠	8.0%	5.1%	7.6%	14.8%	16.7%
物件をあっせんする住宅相談窓口	7.2%	6.7%	2.9%	13.0%	0.0%
その他	2.1%	2.4%	2.9%	0.9%	0.0%
無回答	8.7%	9.8%	6.7%	5.6%	50.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答者数（人）	473	254	105	108	6

「住宅改修費の助成制度の充実」(20.9%)が最も多く、「ケア付き住宅やグループホームなどの整備」(20.7%)、「障がいに配慮した公営住宅の整備」(12.5%)が続いています。

身体障がい者では持家率が高いことを反映して、「住宅改修費の助成制度の充実」(26.4%)が最も多くなっています。

知的障がい者では「ケア付きの住宅やグループホームなどの設備」(33.3%)が最も多くなっています。次いで「障がいに配慮した公営住宅の整備」(17.1%)となっています。

精神障がい者では身体障がい者と同様に、「住宅改修費の助成制度の充実」(17.6%)が最も多く、他、多岐にわたる項目が望まれています。

５．福祉サービスについて

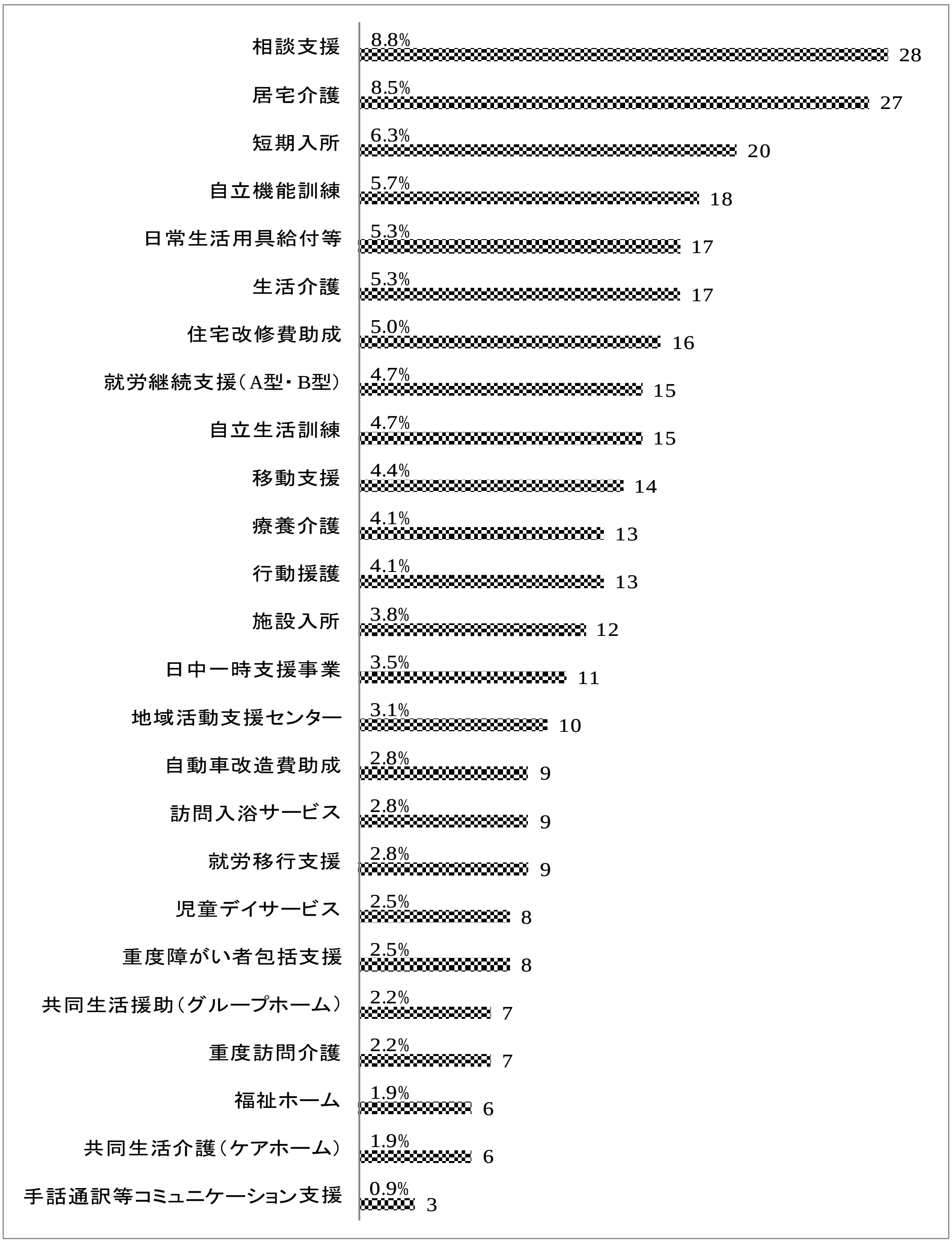
（１）福祉サービスの利用状況

問１５　市で実施している制度・サービスについてお聞きします。

１．現在利用しており、今後も利用したい。（複数回答）

「相談支援」が最も利用されているサービスで、「居宅介護」、「短期入所」が上位回答。

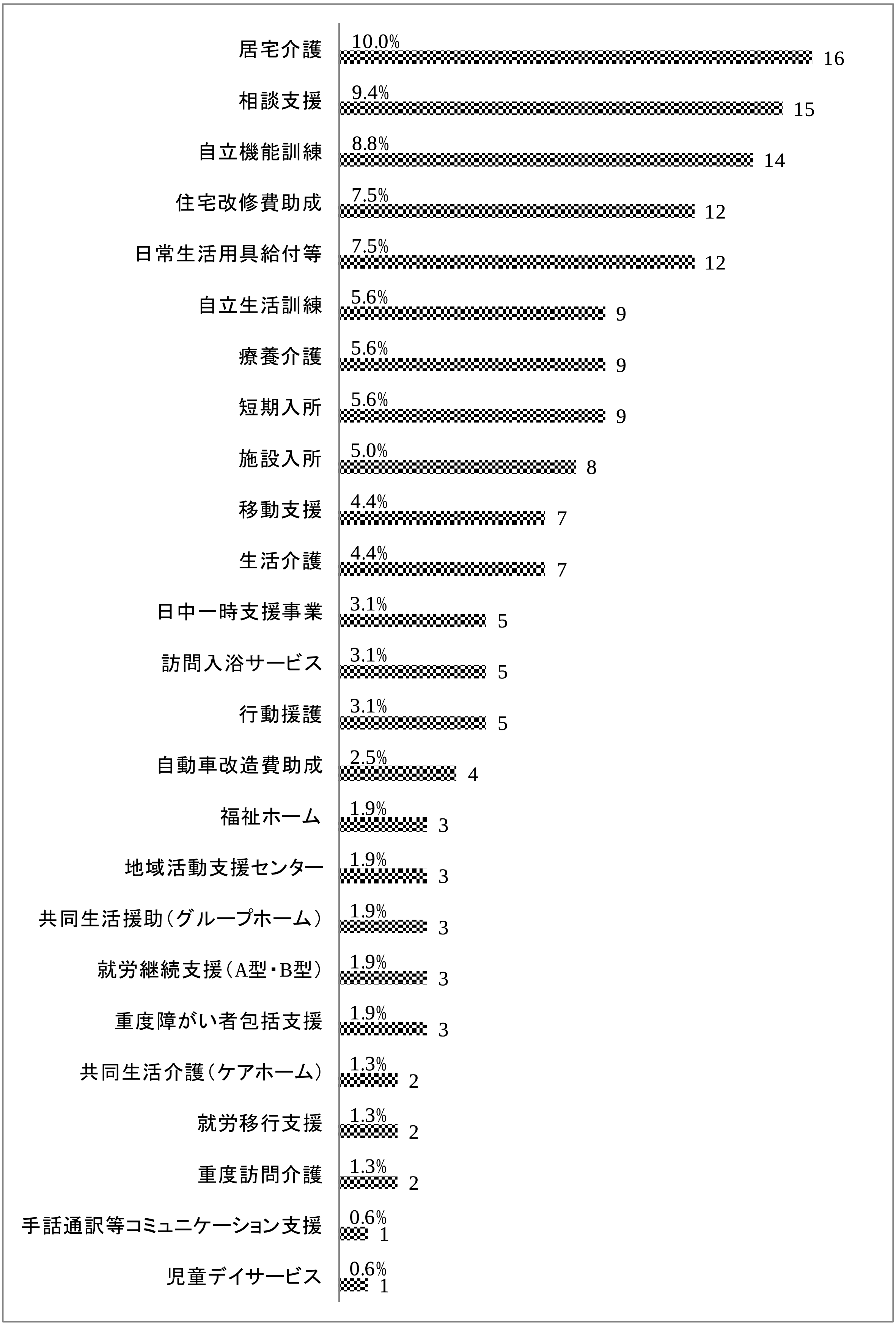
図 17-1 福祉サービスの利用状況（全体）



回答者数 318 人

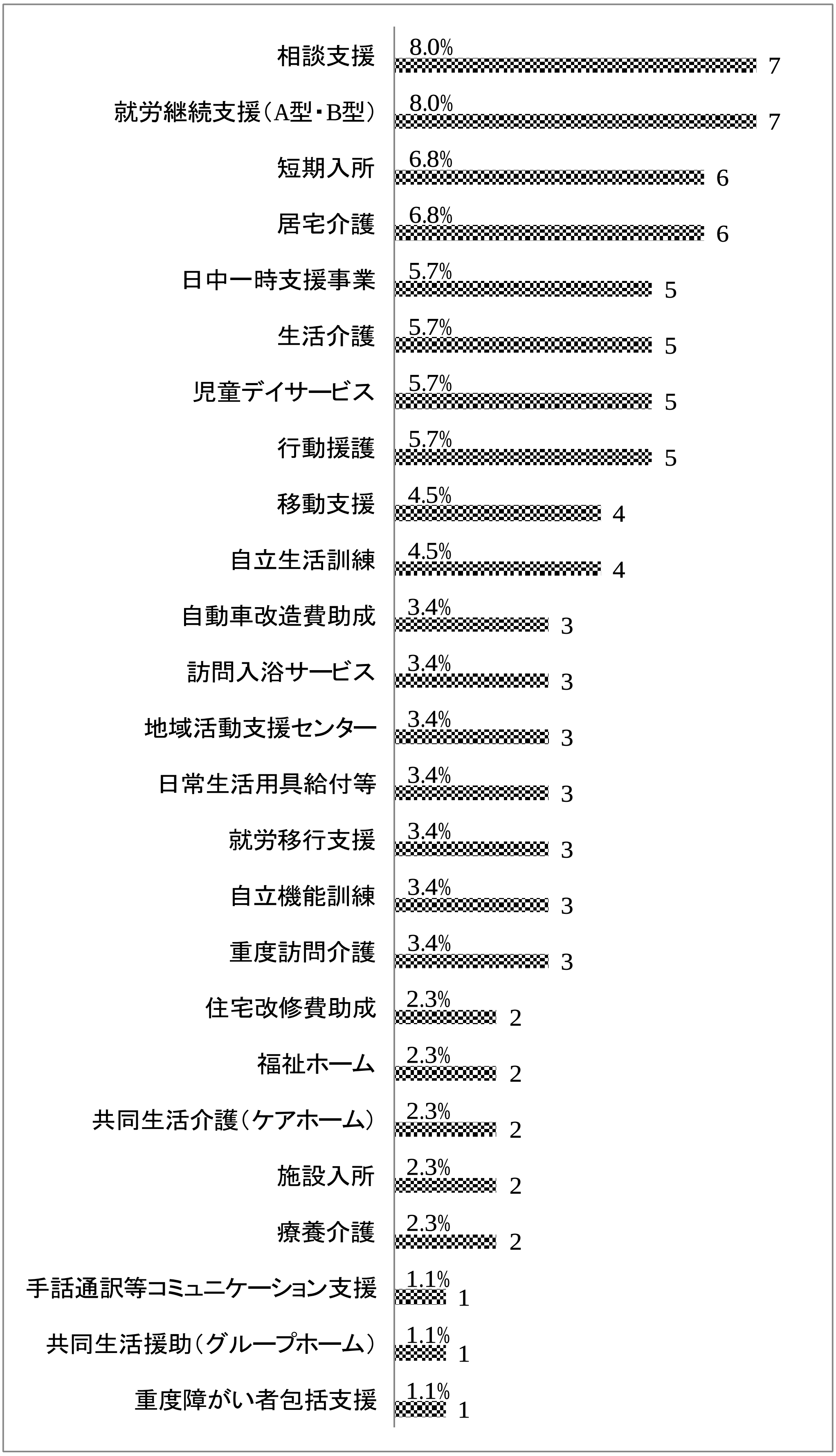
うち、障がい別無回答者数 2 人

図 17-2 福祉サービスの利用状況（身体障がい者）



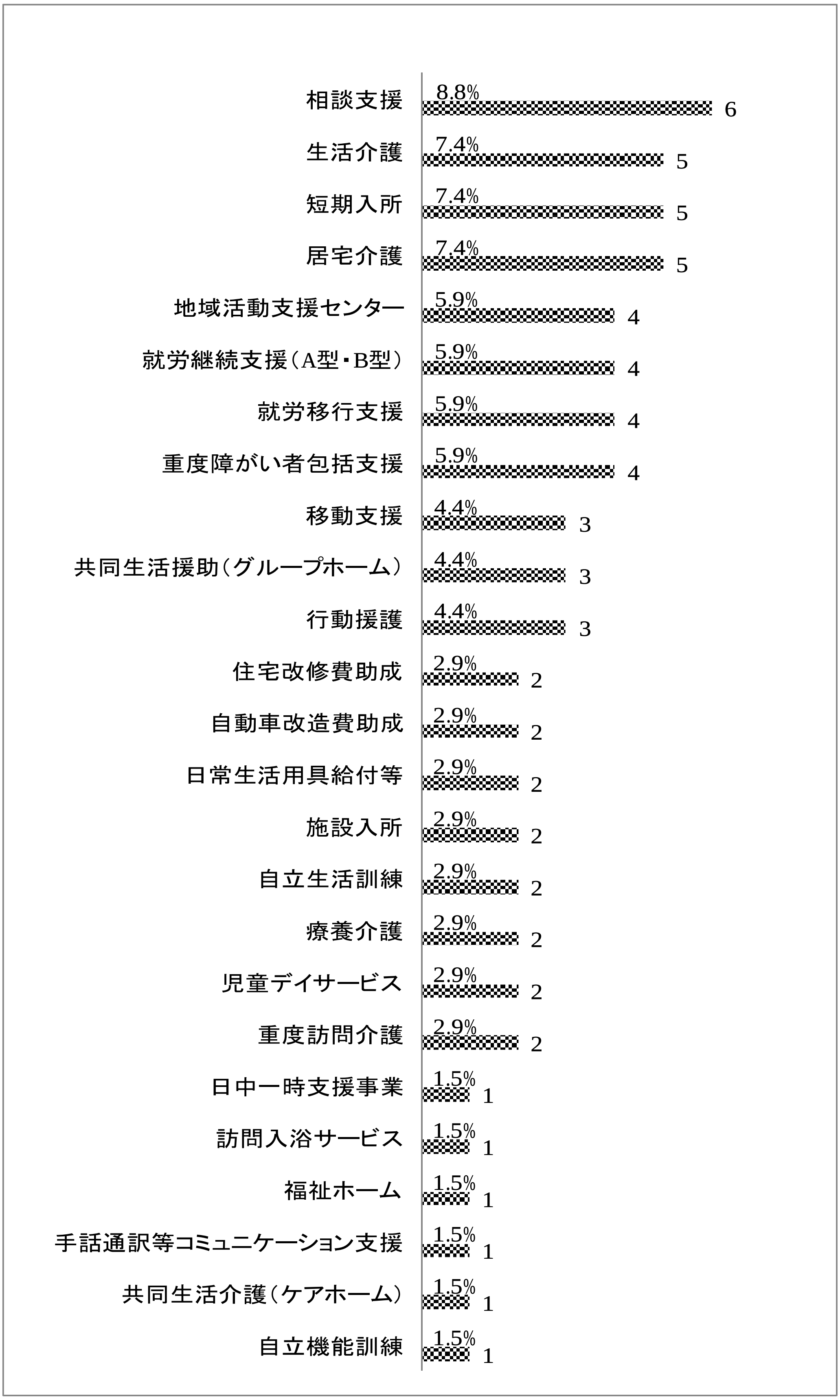
回答者数 160 人

図 17-3 福祉サービスの利用状況（知的障がい者）



回答者数 88 人

図 17-4　福祉サービスの利用状況（精神障がい者）



回答者数　68 人

身体障がい者では「居宅介護」(10.0%)が最も多く利用されており、「相談支援」(9.4%)、「自立機能訓練」(8.8%)、「住宅改修費助成」、「日常生活用具給付等」(各7.5%)が続いています。

知的障がい者では「相談支援」、「就労継続支援」が各8.0%と最も多く、「居宅介護」、「短期入所」(各6.8%)、「日中一時支援事業」、「生活介護」、「児童デイサービス」、「行動援護」(各5.7%)と続いています。

精神障がい者では「相談支援」が8.8%と最も多く、「生活介護」、「短期入所」、「居宅介護」(各7.4%)が上位の回答となっています。

（２）福祉サービスの利用意向

問１５　市で実施している制度・サービスについてお聞きします。

１．現在利用しており、今後も利用したい。（複数回答）

２．現在利用していないが、今後利用したい。（複数回答）

身体障がい者では、「居宅介護」、知的障がい者、精神障がい者では、「相談支援」が最も利用意向が多い。また、全障がい種類でも日中サービス利用の意向が高い。

図 18-1 福祉サービスの利用意向（全体）

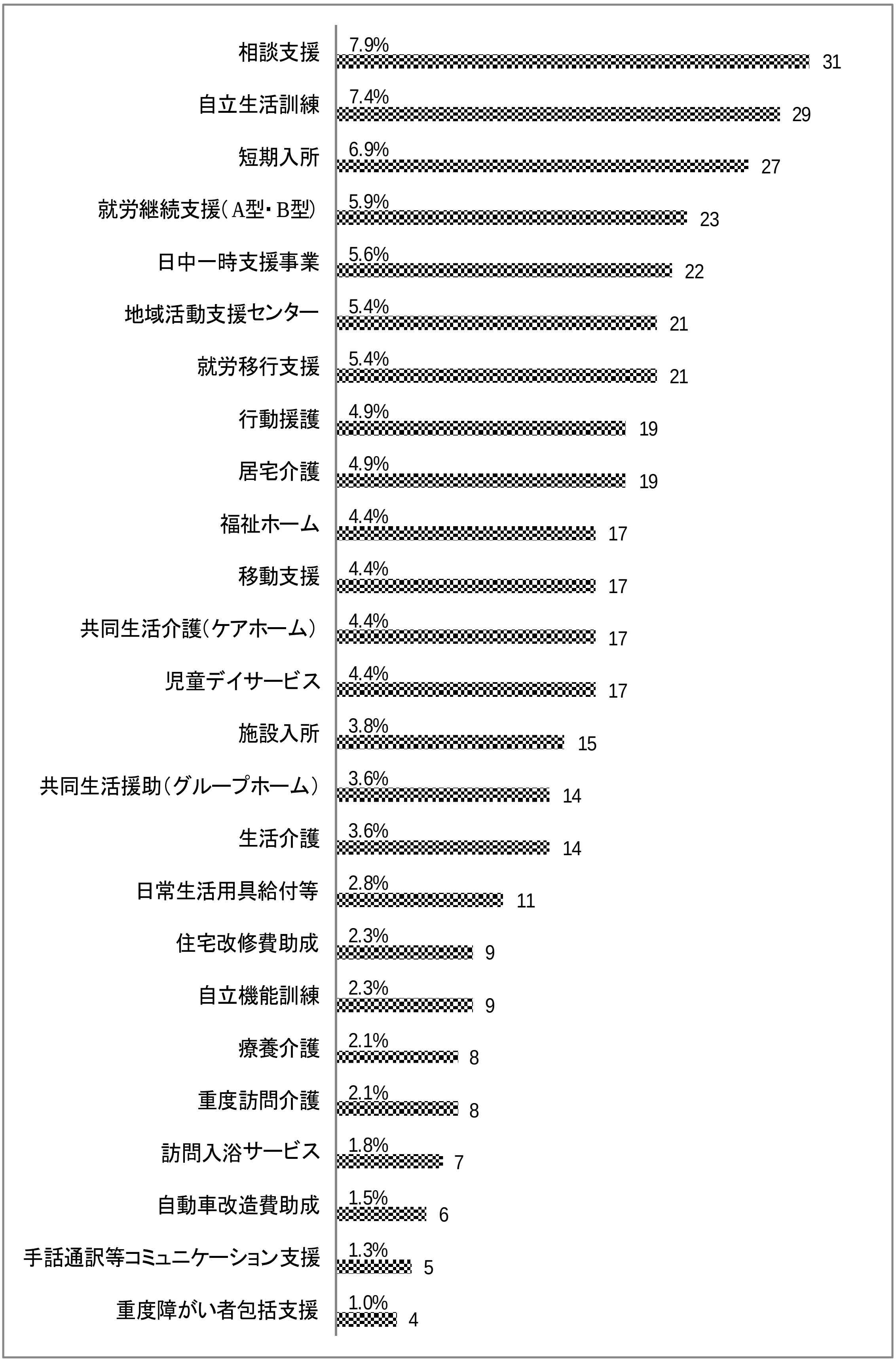
回答者数 1,734 人

うち、障がい別無回答者数 5 人

図 18-2 福祉サービスの利用意向（身体障がい者）

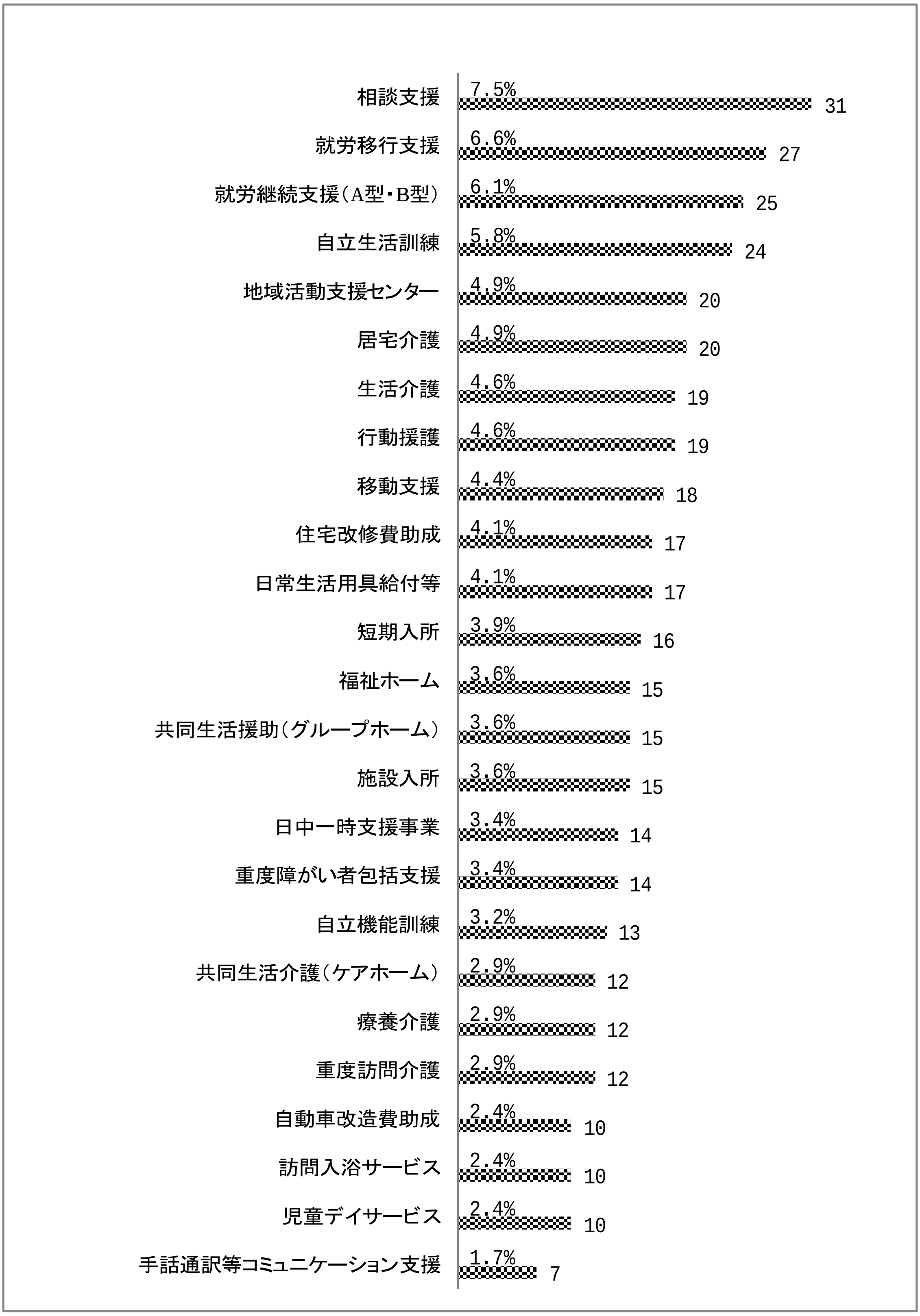
回答者数 927 人

図 18-3　福祉サービスの利用意向（知的障がい者）



回答者数 390 人

図 18-4 福祉サービスの利用意向（精神障がい者）



回答者数 412 人

全体では“現在利用しており、今後も利用したい”サービスと“現在利用していないが、今後利用したい”サービスを合わせた潜在的な利用ニーズについては、「相談支援」(6.7%)、「居宅介護」(5.8%)、「自立生活訓練」(5.2%)、「短期入所」(5.1%)、「住宅

改修費助成」(4.7%)、「日常生活用具給付等」(4.6%)、「移動支援」、「生活介護」(各 4.5%)などとなっています。

身体障がい者では、「居宅介護」が 6.6%と最も多く、続いて「住宅改修費助成」、「相談支援」(各 5.9%)、「日常生活用具給付等」(5.6%)となっています。

知的障がい者では、「相談支援」(7.9%) が最も多く、続いて「自立生活訓練」(7.4%)、「短期入所」(6.9%)、「就労継続支援 A 型・B 型」(5.9%)、「日中一時支援事業」(5.6%)となっています。

精神障がい者では「相談支援」(7.5%)が最も多く、続いて「就労移行支援」(6.6%)、「就労継続支援 A 型・B 型」(6.1%)となっており、就労系の福祉サービスを求めています。

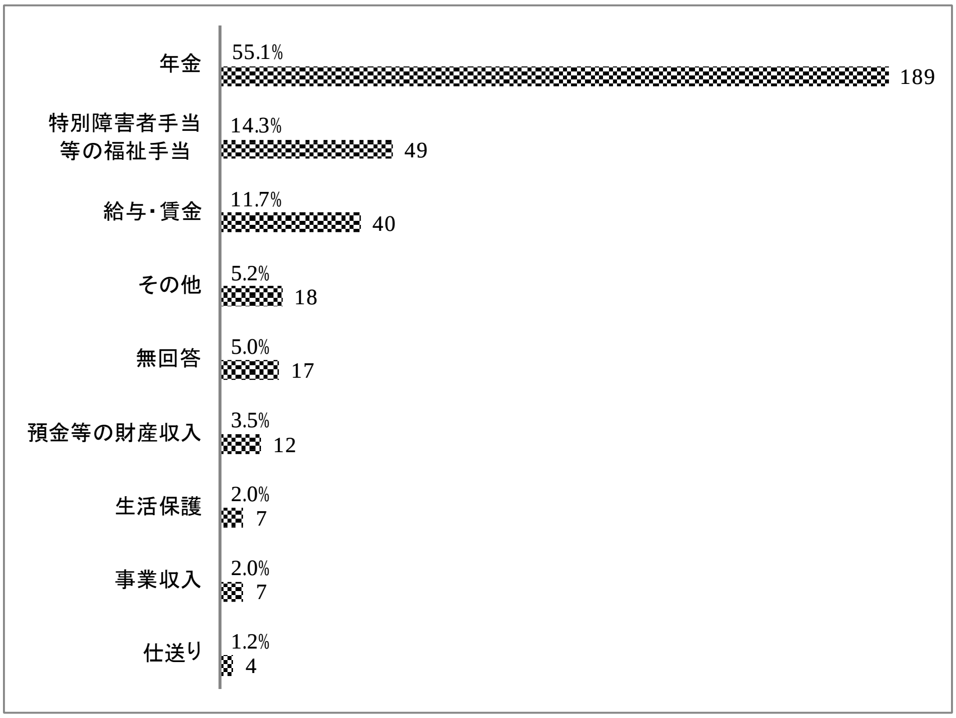
６．仕事

（１）収入源

問１６　あなたの収入源は次のどれですか。（複数回答）

年金の他、障がい者福祉手当、給与賃金が多い。

図 19　収入源（全体）



回答者数 343 人

表 13　収入源（全体・障がい者別）

選択項目	総計	身体	知的	精神	無回答
年金	55.1%	64.6%	32.9%	53.5%	42.9%
特別障害者手当等の福祉手当	14.3%	6.3%	30.1%	21.1%	0.0%
給与・賃金	11.7%	9.4%	15.1%	14.1%	14.3%
その他	5.2%	4.2%	9.6%	4.2%	0.0%
預金等の財産収入	3.5%	5.2%	1.4%	0.0%	14.3%
事業収入	2.0%	2.6%	1.4%	1.4%	0.0%
生活保護	2.0%	1.6%	2.7%	1.4%	14.3%
仕送り	1.2%	2.1%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	5.0%	4.2%	6.8%	4.2%	14.3%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答者数（人）	343	192	73	71	7

全体では「年金」が 55.1％と 5 割以上となっており、「特別障がい者手当等の福祉手当」が 14.3％、「給与・賃金」が 11.7％となっています。

高齢者が多い身体障がい者では「年金」が 64.6％で最も多く、知的障がい者では「年金」(32.9％)、「特別障がい者手当等の福祉手当」(30.1％)、「給与・賃金」(15.1％）の順となっています。

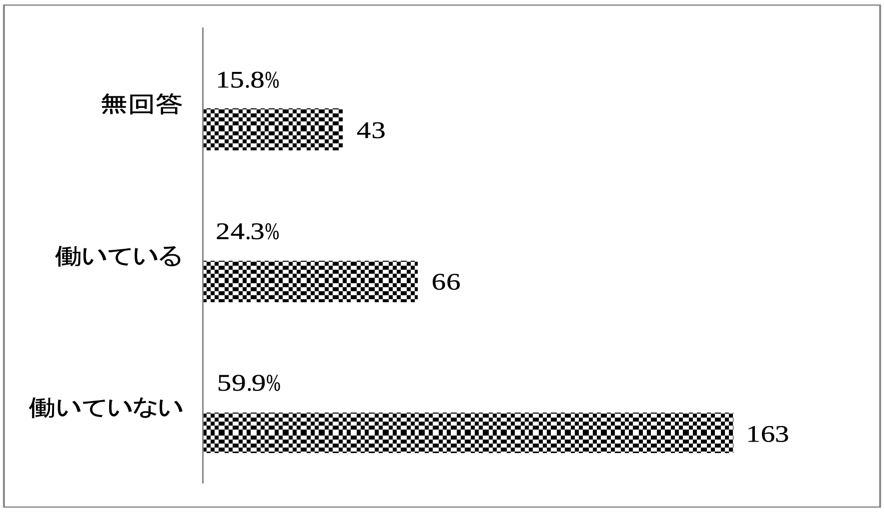
精神障がい者では「年金」が 53.5％で、「特別障がい者手当等の福祉手当」(21.1％)、「給与・賃金」(14.1％）の順となっています。

（２）就業状況

問１７　あなたは現在、働いていますか。

働いている人は、全体の 4 分の 1。働いていない理由は、「病気・障がいなどのため」が多い。

図 20-1 就業の状況「働いているか」（全体）

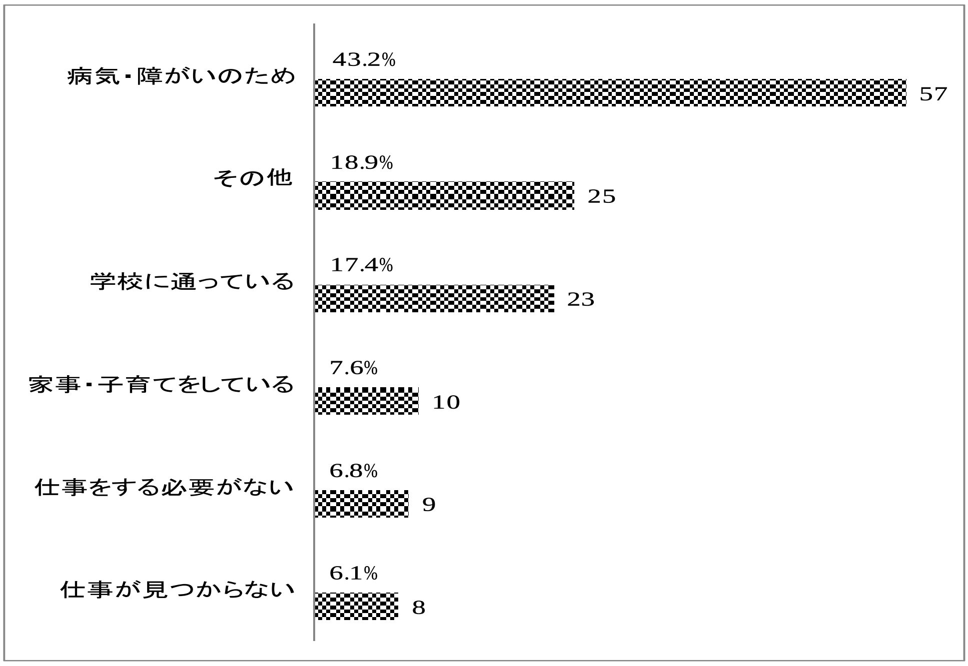


回答者数 272 人

表 14-1 就業の状況「働いているか」（全体・障がい者別）

選択項目	総計	身体	知的	精神	無回答
働いている	24.3%	25.5%	24.1%	21.4%	20.0%
働いていない	59.9%	58.0%	64.8%	62.5%	40.0%
無回答	15.8%	16.6%	11.1%	16.1%	40.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答者数（人）	272	157	54	56	5

図 20-2 働いていない理由（全体）



回答者数 132 人

表 14-2 働いていない理由（全体・障がい者別）

選択項目	総計	身体	知的	精神	無回答
病気・障がいのため	43.2%	49.3%	20.6%	54.8%	0.0%
その他	18.9%	17.9%	20.6%	19.4%	0.0%
学校に通っている	17.4%	7.5%	52.9%	0.0%	0.0%
家事・子育てをしている	7.6%	10.4%	0.0%	9.7%	0.0%
仕事をする必要がない	6.8%	11.9%	2.9%	0.0%	0.0%
仕事が見つからない	6.1%	3.0%	2.9%	16.1%	0.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%
回答者数（人）	132	67	34	31	0

全体では「働いていない」が 59.9%と約６割になっています。「働いている」は 24.3%となっています。

働いている人の割合は、身体障がい者が 25.5%、知的障がい者が 24.1%、精神障がい者が 21.4%となっています。

働いていない理由は、身体障がい者、精神障がい者で、「病気・障がいのため」が多く、知的障がい者では「学校に通っている」(52.9%)が多くなっています。

精神障がい者では「仕事が見つからない」が 16.1%を占めています。

「その他」の回答では、施設利用や高齢のための記載が多くなっています。

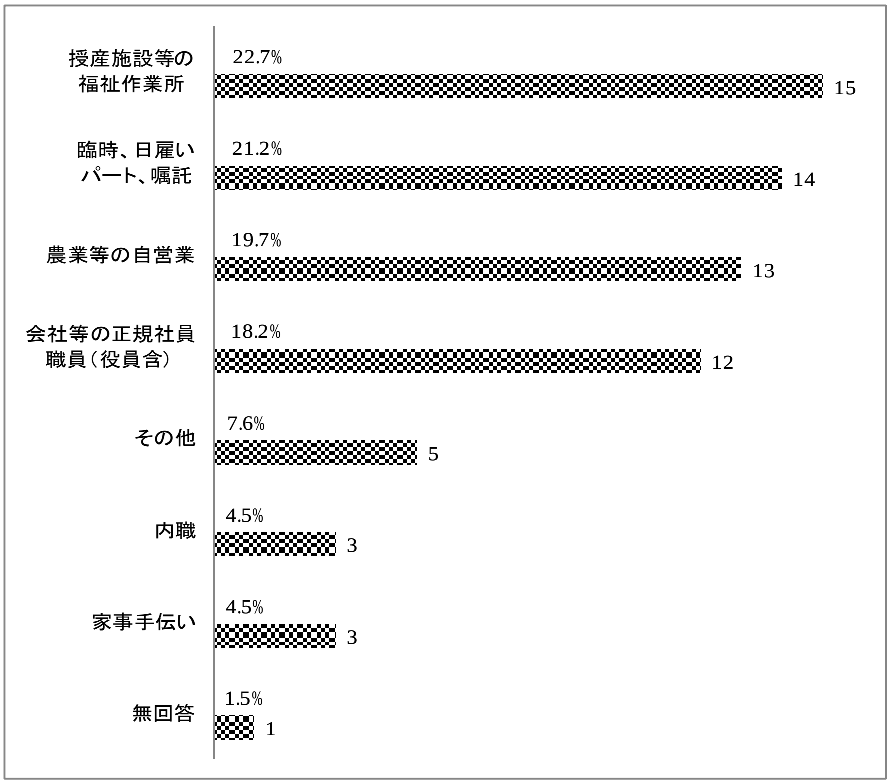
（３）就業形態

問１８　問１７で「１.」と回答された方におうかがいいたします。

（１）　仕事の形態や場所は、次のどれですか。

「福祉施設等」「臨時、日雇い、パート、嘱託」「農業等の自営業」の順になっている。

図 21-1 就業形態（全体）



回答者数 66 人

表 15-1 就業形態（全体・障がい者別）

選択項目	総計	身体	知的	精神	無回答
授産施設等の福祉作業所	22.7%	10.0%	69.2%	8.3%	100.0%
臨時、日雇い、パート、嘱託	21.2%	15.0%	15.4%	50.0%	0.0%
農業等の自営業	19.7%	32.5%	0.0%	0.0%	0.0%
会社等の正規社員・職員（役員含）	18.2%	20.0%	15.4%	16.7%	0.0%
その他	7.6%	7.5%	0.0%	16.7%	0.0%
家事手伝い	4.5%	5.0%	0.0%	8.3%	0.0%
内職	4.5%	7.5%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	1.5%	2.5%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答者数（人）	66	40	13	12	1

働いている６６人の就業形態は、全体では「授産施設等の福祉作業所」が 22.7％で最も多く、「臨時､日雇い､パート､嘱託」が 21.2％、「農業等の自営業」が 19.7％、「会社等の正規社員・職員（役員含)」は 18.2％になっています。

身体障がい者では「農業等の自営業」(32.5％) が最も多く、「会社等の正規社員・職員（役員含)」(20.0％)、「臨時､日雇い､パート､嘱託」(15.0％)、「授産施設等の福祉施設」(10.0％)の順となっており、「内職」も含めると一般就労は 75.0％になります。

知的障がい者では「授産施設等の福祉施設」が 69.2％で最も多く、ほぼ 7 割を占めます。

精神障がい者では「臨時､日雇い､パート､嘱託」が 50.0％で、「会社等の正規社員・職員（役員含)」(16.7％)、「授産施設等の福祉施設」、「家事手伝い」(各 8.3％)の順となっています。

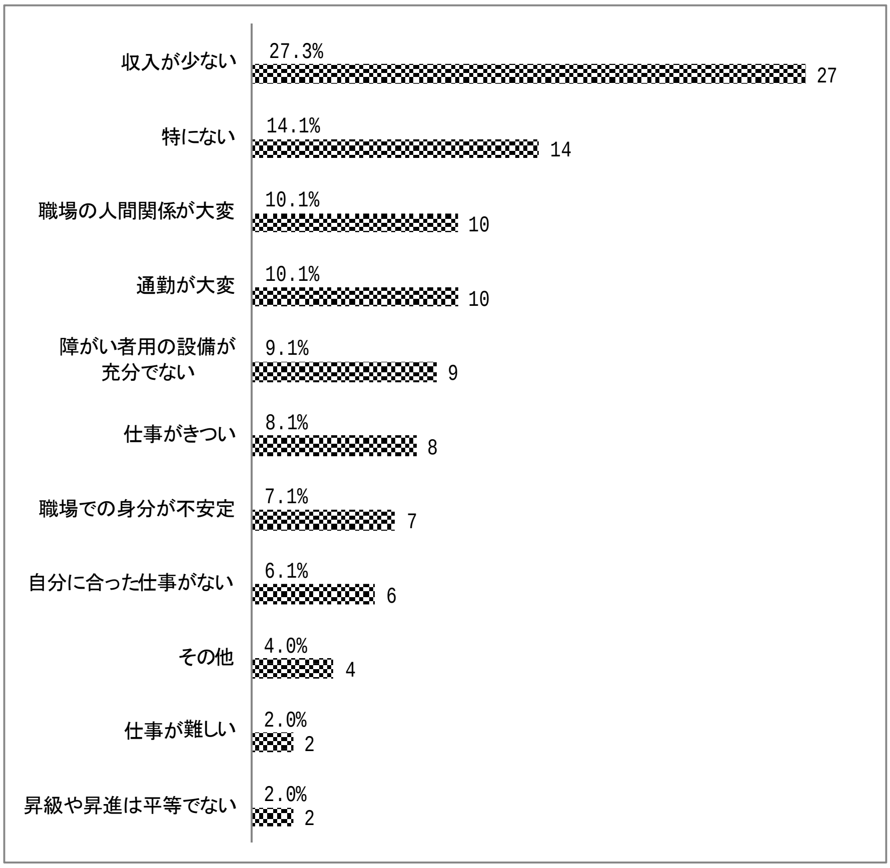
（４）仕事をする上での不安・不満

問１８　問１７で「１.」と回答された方におうかがいします。

（２）　仕事をするうえで不安や不満を感じることがありますか。(複数回答)

収入が少ないことが不安・不満の第１位。職場の人間関係や通勤に困難がある。

図 21-2 仕事をするうえでの不安･不満（全体）



回答者数 99 人

表 15-2　仕事をするうえでの不安・不満(全体・障がい者別)

選択項目	総計	身体	知的	精神	無回答
収入が少ない	27.3%	28.3%	38.9%	20.6%	0.0%
特にない	14.1%	21.7%	11.1%	2.9%	20.0%
通勤が大変	10.1%	6.5%	22.2%	8.8%	0.0%
職場の人間関係が大変	10.1%	4.3%	11.1%	17.6%	0.0%
障がい者用の設備が充分でない	9.1%	10.9%	11.1%	5.9%	0.0%
仕事がきつい	8.1%	6.5%	0.0%	14.7%	0.0%
職場での身分が不安定	7.1%	8.7%	0.0%	8.8%	0.0%
自分に合った仕事がない	6.1%	2.2%	5.6%	11.8%	0.0%
その他	4.0%	8.7%	0.0%	0.0%	0.0%
昇級や昇進は平等でない	2.0%	2.2%	0.0%	2.9%	0.0%
仕事が難しい	2.0%	0.0%	0.0%	5.9%	0.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答者数(人)	99	46	18	34	1

働いている人に不安・不満を質問したところ、「収入が少ない」が 27.3％が最も多く、およそ４人に１人は収入面の不満を指摘しています。

身体障がい者、知的障がい者では全体と同様の結果ですが、精神障がい者では「職場の人間関係が大変」（17.6％）、「仕事がきつい」（14.7％）、「自分に合った仕事がない」（11.8％）など職場環境の面で数値も高くなっています。

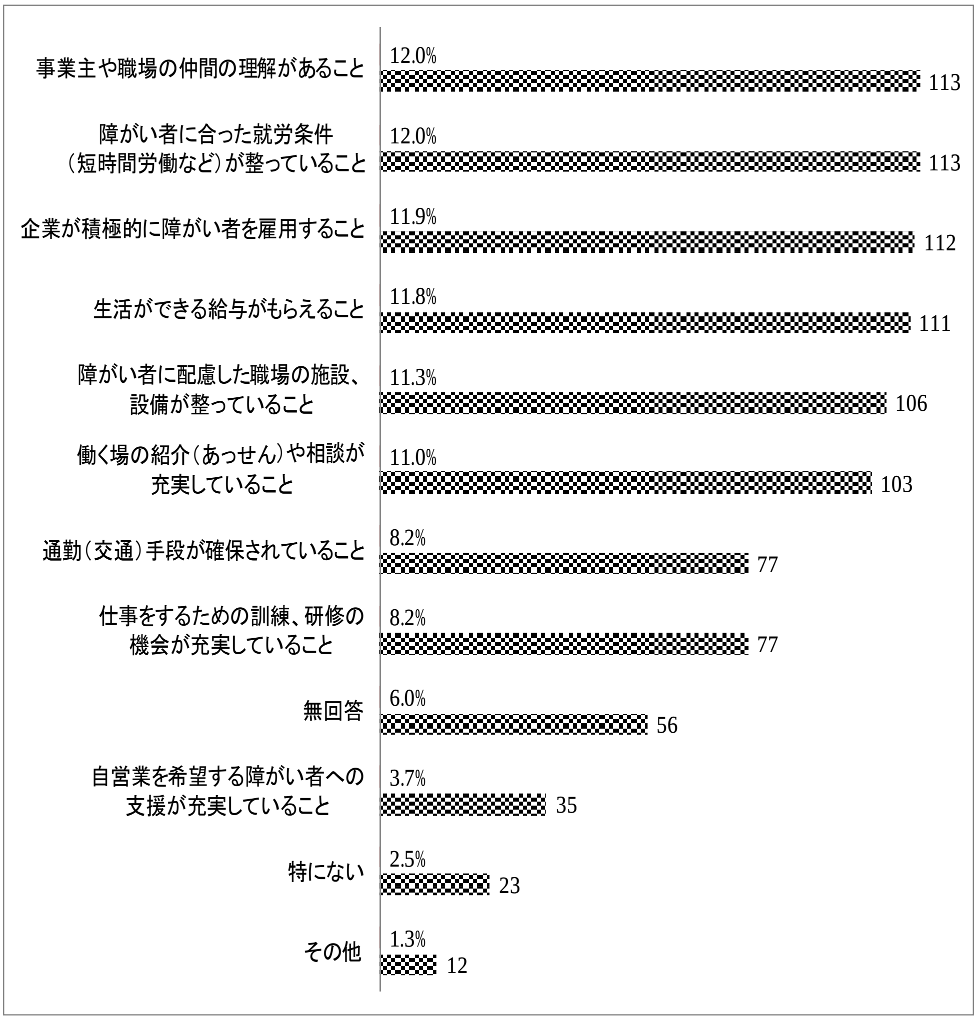
（５）働くための条件

問１９　障がいのある方が働くためには、どのようなことが必要だと思いますか。

（複数回答）

事業主や職場の理解と障がい者の積極的な雇用の必要性が求められている。

図 22 働くための条件（全体）



回答者数 938 人

表 16 働くための条件（全体・障がい者別）

選択項目	総計	身体	知的	精神	無回答
事業主や職場の仲間の理解があること	12.0%	10.9%	13.8%	12.4%	11.1%
障がい者に合った就労条件（短時間労働など）が整っていること	12.0%	10.9%	13.0%	13.3%	11.1%
企業が積極的に障がい者を雇用すること	11.9%	10.9%	11.9%	14.2%	11.1%
生活ができる給与がもらえること	11.8%	12.0%	10.3%	12.8%	22.2%
障がい者に配慮した職場の施設、設備が整っていること	11.3%	12.0%	12.3%	9.2%	0.0%
働く場の紹介（あっせん）や相談が充実していること	11.0%	11.1%	11.9%	9.6%	11.1%
通勤（交通）手段が確保されていること	8.2%	7.4%	9.5%	8.7%	0.0%
仕事をするための訓練、研修の機会が充実していること	8.2%	6.3%	10.3%	10.1%	0.0%
自営業を希望する障がい者への支援が充実していること	3.7%	3.9%	3.2%	4.1%	0.0%
特にない	2.5%	3.3%	1.2%	1.8%	11.1%
その他	1.3%	2.2%	0.8%	0.0%	0.0%
無回答	6.0%	9.0%	2.0%	3.7%	22.2%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答者数（人）	938	458	253	218	9

現在働いていない人も含め、障がい者が働くための条件を質問したところ、「事業主や職場の仲間の理解」、「障がい者に合った就労条件が整っていること」が各 12.0%、「企業などが積極的に障がい者を雇用すること」(11.9%)、「生活ができる給与がもらえること」(11.8%)、「障がい者に配慮した職場の施設・設備」(11.3%)、「働く場の紹介や相談の充実」(11.0%)、「仕事をするための訓練・研修の機会の充実」(8.2%) なども多く、障がい者の高い就労意向によるものと考えられます。

３障がいで異なる条件がありますが、職場での理解や障がい者雇用に対する事業所の実践が強く求められています。

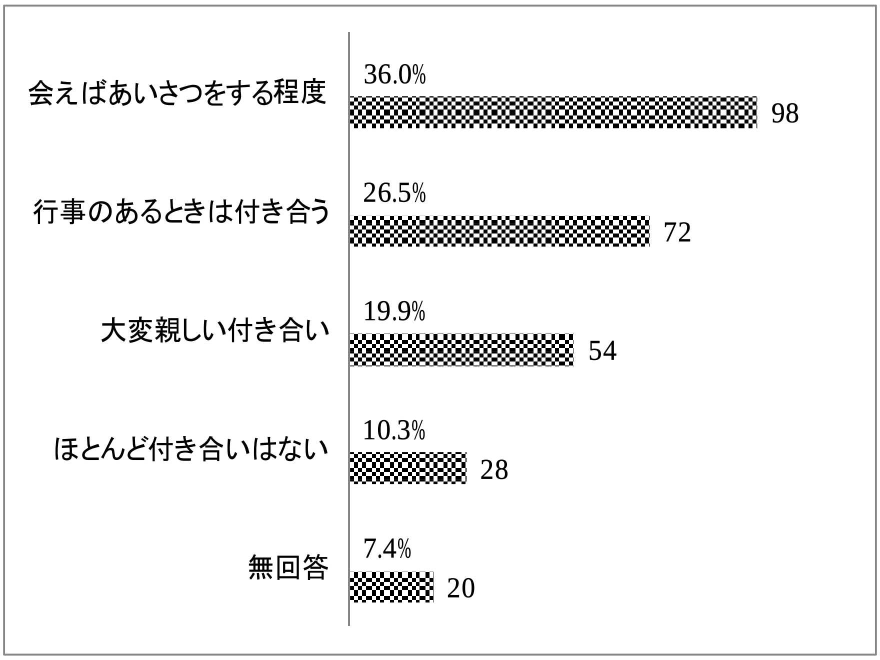
７．地域生活

（１）隣近所との付き合い

問２０　あなたや家族は、隣近所とどの程度の付き合いをしていますか。

あいさつする程度の付き合いが多く、隣近所と親しい付き合いをしている人が２割弱である。

図 23 隣近所との付き合い（全体）



回答者数 272 人

表 17 隣近所との付き合い（全体・障がい者別）

選択項目	総計	身体	知的	精神	無回答
会えばあいさつをする程度	36.0%	32.5%	44.4%	39.3%	20.0%
行事のあるときは付き合う	26.5%	23.6%	35.2%	23.2%	60.0%
大変親しい付き合い	19.9%	26.8%	9.3%	12.5%	0.0%
ほとんど付き合いはない	10.3%	8.3%	7.4%	17.9%	20.0%
無回答	7.4%	8.9%	3.7%	7.1%	0.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答者数（人）	272	157	54	56	5

全体では「会えばあいさつをする程度」が 36.0%で最も多く、「行事のあるときは付き合う」(26.5%)、「大変親しい付き合い」(19.9%)の順で続き、「ほとんど付き合いはない」は 10.3%となっています。

身体障がい者では「会えばあいさつをする程度」(32.5%)が最も多く、次いで「大変親しい付き合い」(26.8%)となっています。

知的障がい者でも「会えばあいさつをする程度」(44.4%)が最も多く、次いで「行事のあるときは付き合う」(35.2%)ですが、身体障がい者に比較し、「大変親しい付き合い」は9.3%と３障がいの中で一番少なくなっています。

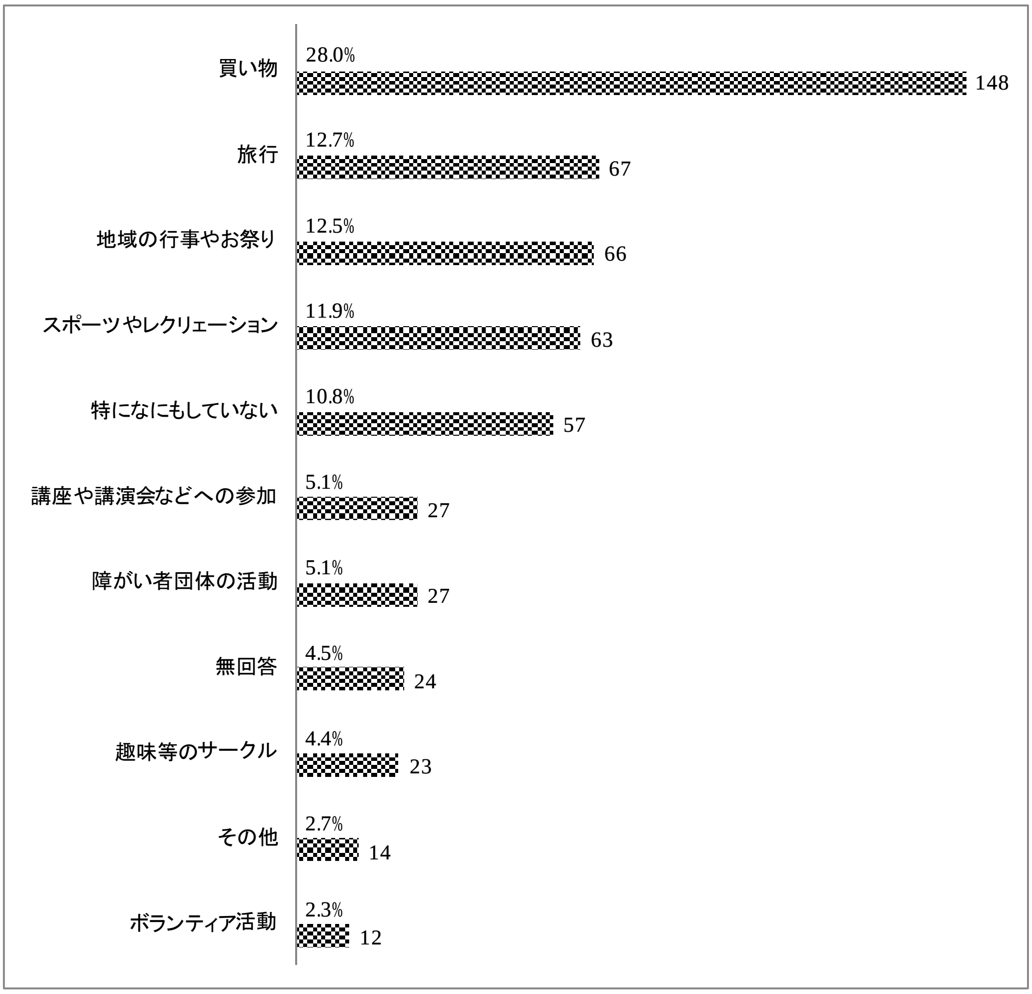
精神障がい者では「ほとんど付き合いはない」が17.9%で、「会えばあいさつをする程度」(39.3%)と合わせると55.2%を占め、地域との付き合いは希薄な様子がうかがえます。

（２）地域における活動状況

問２１　あなたは、1年以内に次のような活動をしましたか。(介護者が一緒の場合も含みます。)(複数回答)

地域における活動として、「買い物」が最も多い。「旅行」、「地域の行事やお祭り」、「スポーツやレクリエーション」など活動は多彩。

図 24 地域における活動(全体)



回答者数 528 人

表 18　地域における活動（全体・障がい者別）

選択項目	総計	身体	知的	精神	無回答
買い物	28.0%	23.8%	32.8%	33.9%	20.0%
旅行	12.7%	13.9%	14.1%	6.4%	30.0%
地域の行事やお祭り	12.5%	12.1%	16.4%	8.3%	20.0%
スポーツやレクリエーション	11.9%	8.2%	18.8%	13.8%	10.0%
特になにもしていない	10.8%	13.9%	3.1%	11.0%	20.0%
障がい者団体の活動	5.1%	2.1%	8.6%	9.2%	0.0%
講座や講演会などへの参加	5.1%	6.8%	0.8%	6.4%	0.0%
無回答	4.5%	6.4%	0.8%	4.6%	0.0%
趣味等のサークル	4.4%	6.4%	1.6%	2.8%	0.0%
その他	2.7%	3.2%	2.3%	1.8%	0.0%
ボランティア活動	2.3%	3.2%	0.8%	1.8%	0.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答者数（人）	528	281	128	109	10

障がい者が最近１年以内に地域で行った活動は、「買い物」（28.0%）が最も多く、続いて「旅行」（12.7%）、「地域の行事やお祭り」（12.5%）、「スポーツやレクリエーション」（11.9%）などとなっています。

身体障がい者では「買い物」(23.8%)が最も多く、全体と同様の結果となっています。

知的障がい者でも全体と同様ですが、「スポーツやレクリエーション」が 18.8%と多くなっています。

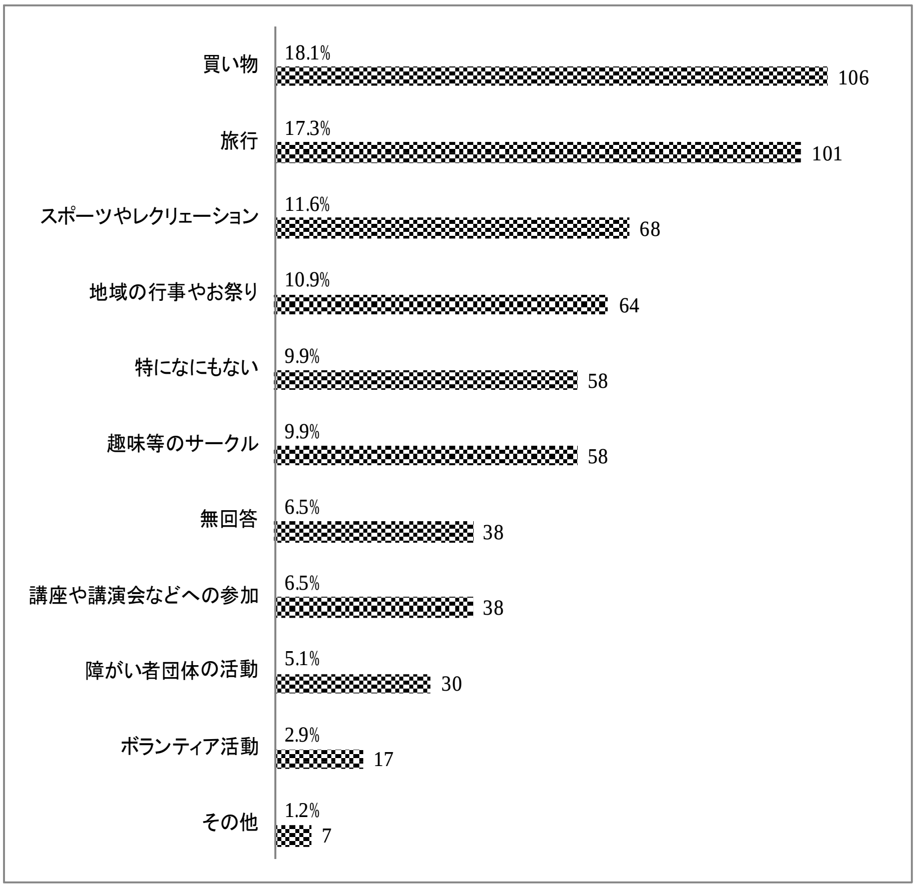
精神障がい者でも全体と同様ですが、「旅行」(6.4%)、「地域の行事やお祭り」(8.3%)が他の障がい者と比較して少なくなっています。

（３）今後、地域でしたい活動

問２２　あなたはこれからどのような活動をしたいと思いますか。（複数回答）

これからしてみたい活動は、「買い物」と「旅行」。「スポーツやレクリエーション」、「地域の行事やお祭り」など様々な活動意向がみられる。

図 25 地域でしたい活動（全体）



回答者数 585 人

表 19 地域でしたい活動（全体・障がい者別）

選択項目	総計	身体	知的	精神	無回答
買い物	18.1%	15.0%	22.7%	21.1%	13.3%
旅行	17.3%	17.3%	18.0%	16.2%	20.0%
スポーツやレクリエーション	11.6%	8.7%	16.4%	13.4%	13.3%
地域の行事やお祭り	10.9%	9.7%	15.6%	8.5%	20.0%
特になにもない	9.9%	13.7%	4.7%	7.0%	6.7%
趣味等のサークル	9.9%	11.7%	6.3%	9.2%	13.3%
講座や講演会などへの参加	6.5%	8.3%	1.6%	7.0%	6.7%
障がい者団体の活動	5.1%	2.7%	7.8%	7.7%	6.7%
ボランティア活動	2.9%	3.3%	1.6%	3.5%	0.0%
その他	1.2%	1.3%	1.6%	0.7%	0.0%
無回答	6.5%	8.3%	3.9%	5.6%	0.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答者数（人）	585	300	128	142	15

全体では「買い物」(18.1%)、「旅行」(17.3%)、「スポーツやレクリエーション」(11.6%)、「趣味等のサークル」(9.9%)、「地域の行事やお祭り」(10.9%)などとなっています。

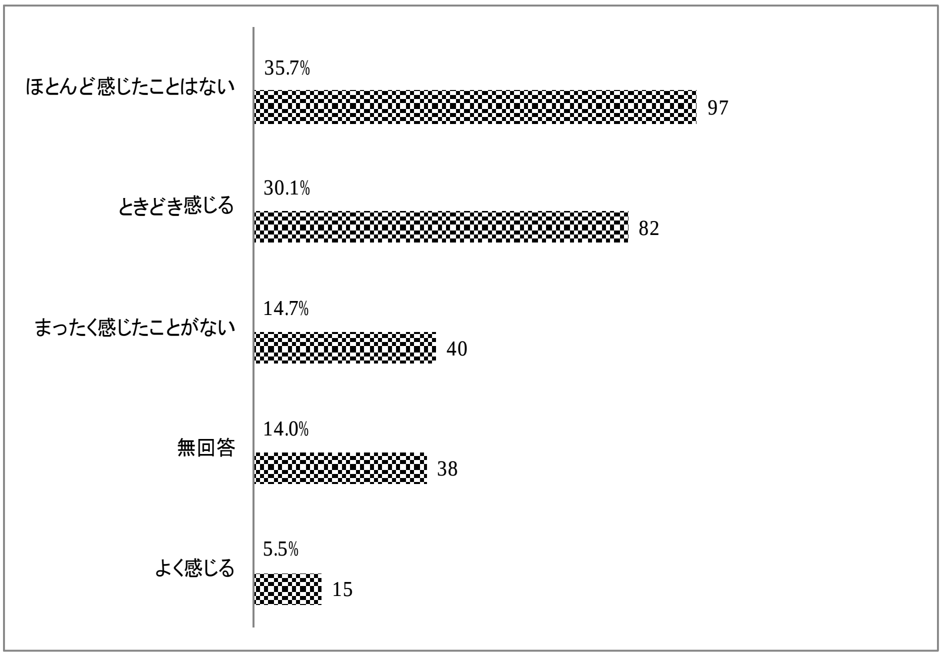
現在している活動と比較し、障がい種類で相違がありますが、今後したい活動として、「旅行」、「趣味等のサークル」が多くなっています。

（４）差別・偏見を感じるか

問２３　日常生活において、差別や偏見、疎外感を感じることがありますか。

差別や疎外感をあまり感じたことはない人が半数を超えるが、３割以上は差別や疎外感を感じている。

図 26 差別、偏見を感じるか（全体）



回答者数 272 人

表 20　差別、偏見を感じるか（全体・障がい者別）

選択項目	総計	身体	知的	精神	無回答
ほとんど感じたことはない	35.7%	44.6%	18.5%	28.6%	20.0%
ときどき感じる	30.1%	18.5%	55.6%	37.5%	40.0%
まったく感じたことがない	14.7%	19.1%	9.3%	7.1%	20.0%
よく感じる	5.5%	1.3%	9.3%	14.3%	0.0%
無回答	14.0%	16.6%	7.4%	12.5%	20.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答者数（人）	272	157	54	56	5

全体では「ほとんど感じたことはない」とする人が 35.7%、「ときどき感じる」が 30.1%、「まったく感じたことがない」が 14.7%、「よく感じる」が 5.5%の順となっており、「ほとんど感じたことはない」と「まったく感じたことがない」を合わせ“感じたことはない”は、ほぼ半数となっています。

一方、「ときどき感じる」、「よく感じる」を合わせ、“感じたことがある”は 35.5%となっています。

身体障がい者では「ほとんど感じたことはない」(44.6%)、「まったく感じたことがない」(19.1%)を合わせると“感じたことはない”は 63.7%となっています。

知的障がい者では「よく感じる」(9.3%)、「ときどき感じる」(55.6%) を合わせると 64.9%が“感じたことがある”としています。

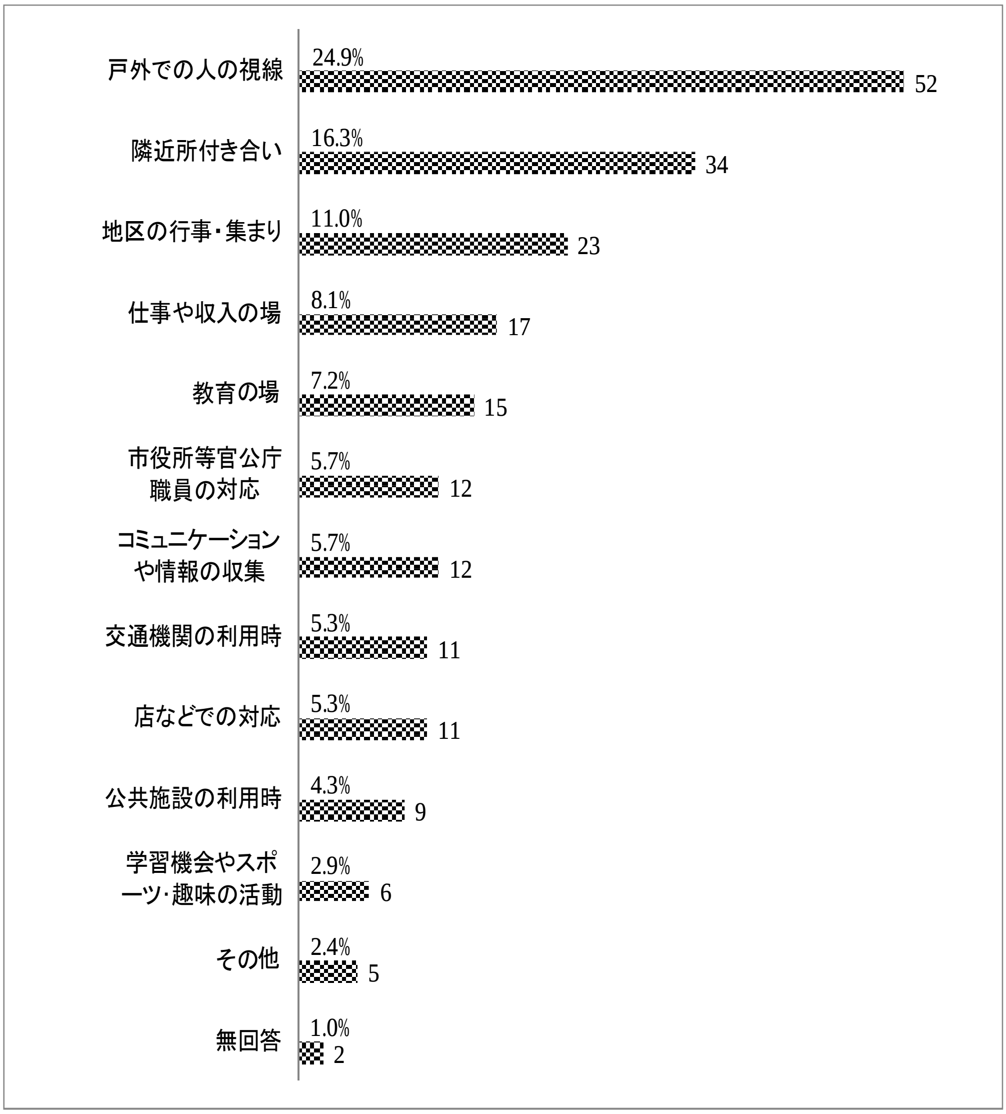
精神障がい者では「よく感じる」(14.3%)、「ときどき感じる」(37.5%) を合わせると 51.8%で、約半数が“感じたことがある”としています。

（５）差別・偏見を感じる具体的な状況

問２４　問２３で「１．よく感じる」または「２．ときどき感じる」と回答した方におうかがいします。具体的にどのような場面で感じられますか。(複数回答)

外での人の視線に差別・幅見などを感じることが多い。

図 27 差別、偏見を感じる具体的な状況（全体）



回答者数 209 人

表 21　差別、偏見を感じる具体的な状況（全体・障がい者別）

選択項目	総計	身体	知的	精神	無回答
戸外での人の視線	24.9%	20.8%	33.8%	18.9%	20.0%
隣近所付き合い	16.3%	20.8%	10.4%	20.3%	0.0%
地区の行事・集まり	11.0%	9.4%	14.3%	9.5%	0.0%
仕事や収入の場	8.1%	7.5%	3.9%	13.5%	0.0%
教育の場	7.2%	5.7%	11.7%	2.7%	20.0%
コミュニケーションや情報の収集	5.7%	3.8%	2.6%	10.8%	0.0%
市役所等官公庁職員の対応	5.7%	7.5%	3.9%	5.4%	20.0%
店などでの対応	5.3%	3.8%	6.5%	4.1%	20.0%
交通機関の利用時	5.3%	7.5%	3.9%	5.4%	0.0%
公共施設の利用時	4.3%	5.7%	5.2%	2.7%	0.0%
学習機会やスポーツ･趣味の活動	2.9%	1.9%	3.9%	1.4%	20.0%
その他	2.4%	5.7%	0.0%	2.7%	0.0%
無回答	1.0%	0.0%	0.0%	2.7%	0.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答者数（人）	209	53	77	74	5

差別や偏見、疎外感を感じる人に対して、どのような場面で感じるかを質問したところ、「戸外での人の視線」が 24.9％と最も多く、「隣近所付き合い」(16.3％)、「地区の行事・集まり」(11.0％）などが続いています。

身体障がい者では「戸外での人の視線」、「隣近所付き合い」が各 20.8％で最も多いなど全体と同様の結果となっています。

知的障がい者では他の障がい者と比較し「戸外での人の視線」が 33.8％と多く、「地区の行事・集まり」(14.3％)、「教育の場」(11.7％)、「隣近所付き合い」(10.4％)の順となっています。

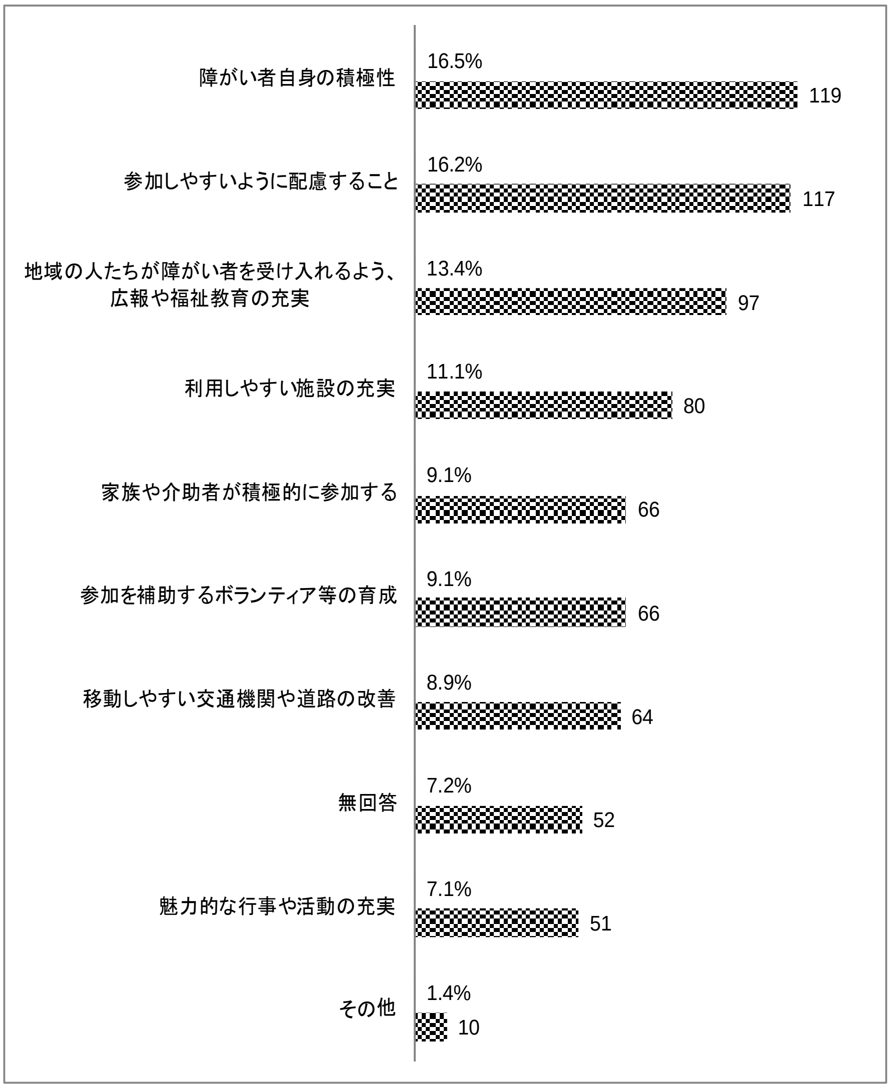
精神障がい者では「隣近所付き合い」が 20.3％で最も多く、「戸外での人の視線」(18.9％)、「仕事や収入の場」(13.5％)の順となっています。

（６）地域社会に積極的に参加するための条件

問２５　障がいのある人が地域や社会に積極的に参加していくためには、どのようなことが大切だと考えますか。（複数回答）

参加しやすいような配慮を望むとともに障がい者自身の積極性も必要と回答。知的障がい者においては、参加しやすいような配慮、広報や福祉教育の充実による周囲の理解を強く求めている。

図 28　地域社会に積極的に参加するための条件（全体）



回答者数　724 人

表 22 地域社会に積極的に参加するための条件（全体・障がい者別）

選択項目	総計	身体	知的	精神	無回答
障がい者自身の積極性	16.5%	18.6%	9.4%	19.4%	12.5%
参加しやすいように配慮すること	16.2%	16.7%	15.0%	16.5%	12.5%
地域の人たちが障がい者を受け入れるよう、広報や福祉教育の充実	13.4%	12.0%	16.1%	12.9%	25.0%
利用しやすい施設の充実	11.1%	10.1%	12.8%	11.8%	0.0%
参加を補助するボランティア等の育成	9.1%	6.6%	16.7%	6.5%	12.5%
家族や介助者が積極的に参加する	9.1%	8.5%	11.1%	8.2%	12.5%
移動しやすい交通機関や道路の改善	8.9%	9.3%	8.3%	8.8%	0.0%
魅力的な行事や活動の充実	7.1%	6.6%	6.7%	8.8%	0.0%
その他	1.4%	1.9%	0.6%	1.2%	0.0%
無回答	7.2%	9.3%	3.3%	5.9%	25.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答者数（人）	724	366	180	170	8

全体では「障がい者自身の積極性」(16.5%)、「参加しやすいように配慮すること」(16.2%)、「地域の人たちが障がい者を受け入れるよう、広報や福祉教育の充実」(13.4%)が多くなっています。

身体障がい者では「障がい者自身の積極性」(18.6%)、「参加しやすいように配慮すること」(16.7%)、が上位にあり、全体と同様の結果となっています。

知的障がい者では「参加を補助するボランティア等の育成」(16.7%)、「地域の人たちが障がい者を受け入れるよう、広報や福祉教育の充実」(16.1%)、「参加しやすいように配慮すること」(15.0%)が上位となっています。

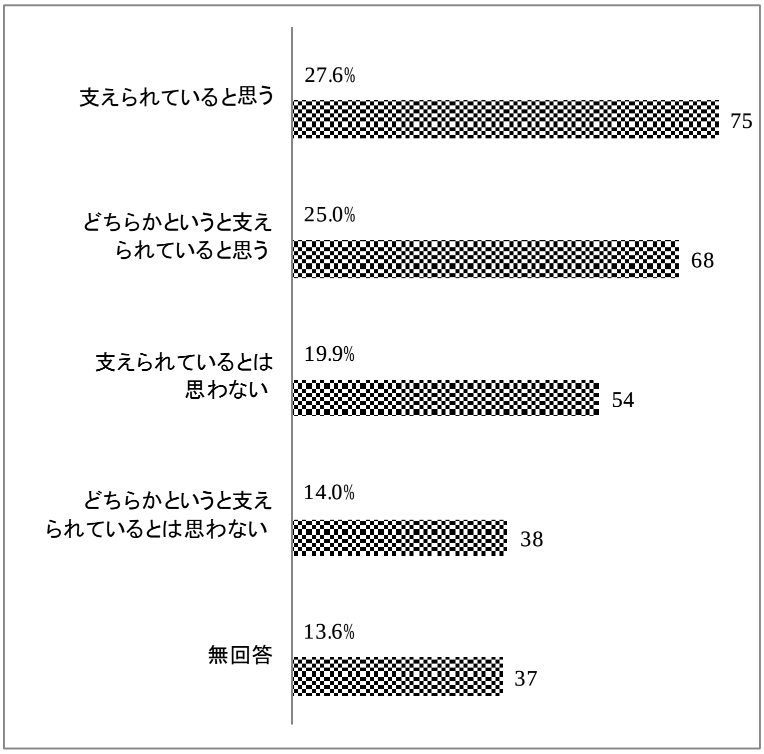
精神障がい者では「障がい者自身の積極性」(19.4%)、「参加しやすいように配慮すること」(16.5%)、「地域の人たちが障がい者を受け入れるよう、広報や福祉教育の充実」(12.9%) が上位になっています。

（７）地域社会の満足度

問２６　あなたは今、地域の人に支えられていると思いますか。

地域の人に“支えられている”と思う障がい者は半数を超える。

図 29 地域に支えられていると思うか（全体）



回答者数 272 人

表 23 地域に支えられていると思うか（全体・障がい者別）

選択項目	総計	身体	知的	精神	無回答
支えられていると思う	27.6%	31.8%	24.1%	17.9%	40.0%
どちらかというと支えられていると思う	25.0%	24.2%	31.5%	21.4%	20.0%
支えられているとは思わない	19.9%	15.3%	22.2%	30.4%	20.0%
どちらかというと支えられているとは思わない	14.0%	12.7%	14.8%	17.9%	0.0%
無回答	13.6%	15.9%	7.4%	12.5%	20.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答者数（人）	272	157	54	56	5

全体では「支えられていると思う」(27.6%)、「どちらかというと支えられていると思う」(25.0%)を合わせて“支えられている”は52.6%となっています。一方、「支えられているとは思わない」(19.9%)、「どちらかというと支えられているとは思わない」（14.0%）を合わせて“支えられていない”は33.9%となっています。

身体障がい者では「支えられている」が31.8%と最も多く、「どちらかというと支えられていると思う」(24.2%)と合わせて“支えられている”は56.0%となっています。“支えられていない”は28.0%となっています。

知的障がい者では「どちらかというと支えられていると思う」が31.5%と最も多く、“支えられている”は55.6%となっており、“支えられていない”は37.0%となっています。

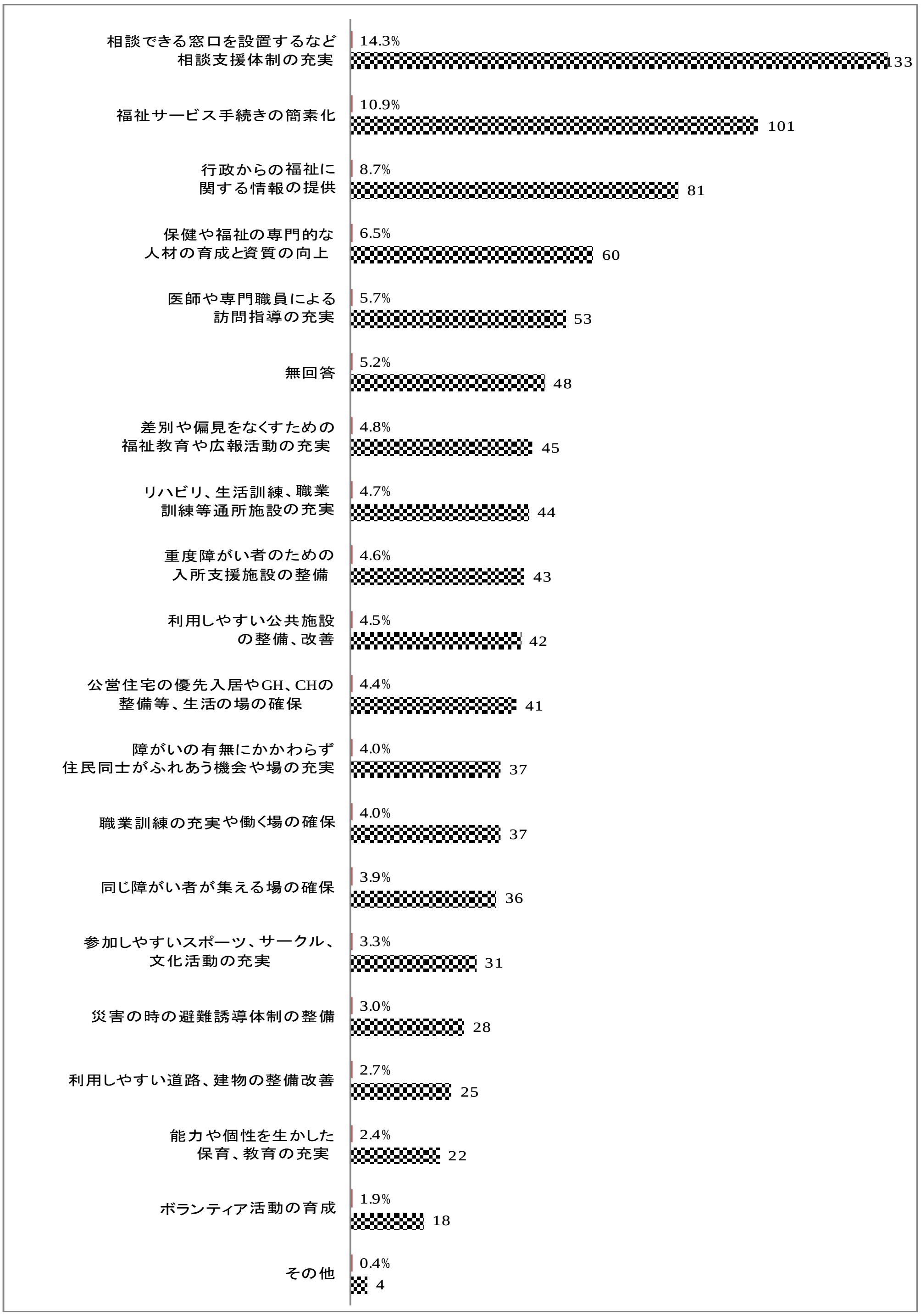
精神障がい者では「支えられているとは思わない」が30.4%と最も多く、「どちらかというと支えられているとは思わない」(17.9%)と合わせて“支えられていない”は48.3%で、“支えられている”の39.3%を上回っています。

（８）障がい者にとって住みよいまちの条件

問２７　障がい者が暮らしやすいまちづくりのためには、どのようなことが必要だと思いますか。（複数回答）

３障がい、いずれも相談体制の充実を強く求める。
障がい者全体と比較すると、知的障がい者は専門的な人材の育成と資質の向上、福祉教育や広報活動の充実など、幅広い支援を求めている。

図 30 障がい者にとって住みよいまちの条件（全体）



回答者数 929 人

表 24 障がい者にとって住みよいまちの条件(全体・障がい者別)

選択項目	総計	身体	知的	精神	無回答
相談できる窓口を設置するなど相談支援体制の充実	14.3%	15.2%	13.1%	13.8%	10.0%
福祉サービス手続きの簡素化	10.9%	11.9%	10.4%	9.4%	0.0%
行政からの福祉に関する情報の提供	8.7%	9.3%	9.5%	6.4%	10.0%
保健や福祉の専門的な人材の育成と資質の向上	6.5%	6.9%	7.2%	3.9%	20.0%
医師や専門職員による訪問指導の充実	5.7%	6.7%	2.3%	7.4%	0.0%
差別や偏見をなくすための福祉教育や広報活動の充実	4.8%	2.6%	5.9%	8.9%	10.0%
リハビリ、生活訓練、職業訓練等通所施設の充実	4.7%	4.2%	6.8%	3.9%	0.0%
重度障がい者のための入所支援施設の整備	4.6%	4.8%	5.9%	3.0%	0.0%
利用しやすい公共施設の整備、改善	4.5%	5.3%	4.1%	3.4%	0.0%
公営住宅の優先入居やGH、CHの整備等、生活の場の確保	4.4%	2.8%	7.2%	5.4%	0.0%
職業訓練の充実や働く場の確保	4.0%	2.0%	5.9%	6.4%	10.0%
障がいの有無にかかわらず、住民同士がふれあう機会や場の充実	4.0%	4.2%	2.7%	4.9%	0.0%
同じ障がい者が集える場の確保	3.9%	3.0%	3.6%	6.4%	0.0%
参加しやすいスポーツ、サークル、文化活動の充実	3.3%	2.6%	4.5%	3.9%	0.0%
災害の時の避難誘導体制の整備	3.0%	3.4%	1.8%	3.4%	0.0%
利用しやすい道路、建物の整備改善	2.7%	4.2%	0.9%	1.0%	0.0%
能力や個性を生かした保育、教育の充実	2.4%	1.8%	3.6%	2.0%	10.0%
ボランティア活動の育成	1.9%	1.6%	3.2%	1.5%	0.0%
その他	0.4%	0.6%	0.5%	0.0%	0.0%
無回答	5.2%	6.7%	0.9%	4.9%	30.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答者数(人)	929	495	221	203	10

全体では「相談窓口をつくるなど相談体制の充実」が14.3%と最も多く、「サービス手続きの簡素化」(10.9%)、「行政からの福祉に関する情報の提供」(8.7%)が上位にあげられます。

身体障がい者及び知的障がい者では全体と同様の結果ですが、知的障がい者では「公営住宅の優先入居やグループホーム、ケアホームの整備等、生活の場の確保」(7.2%)が多くなっています。

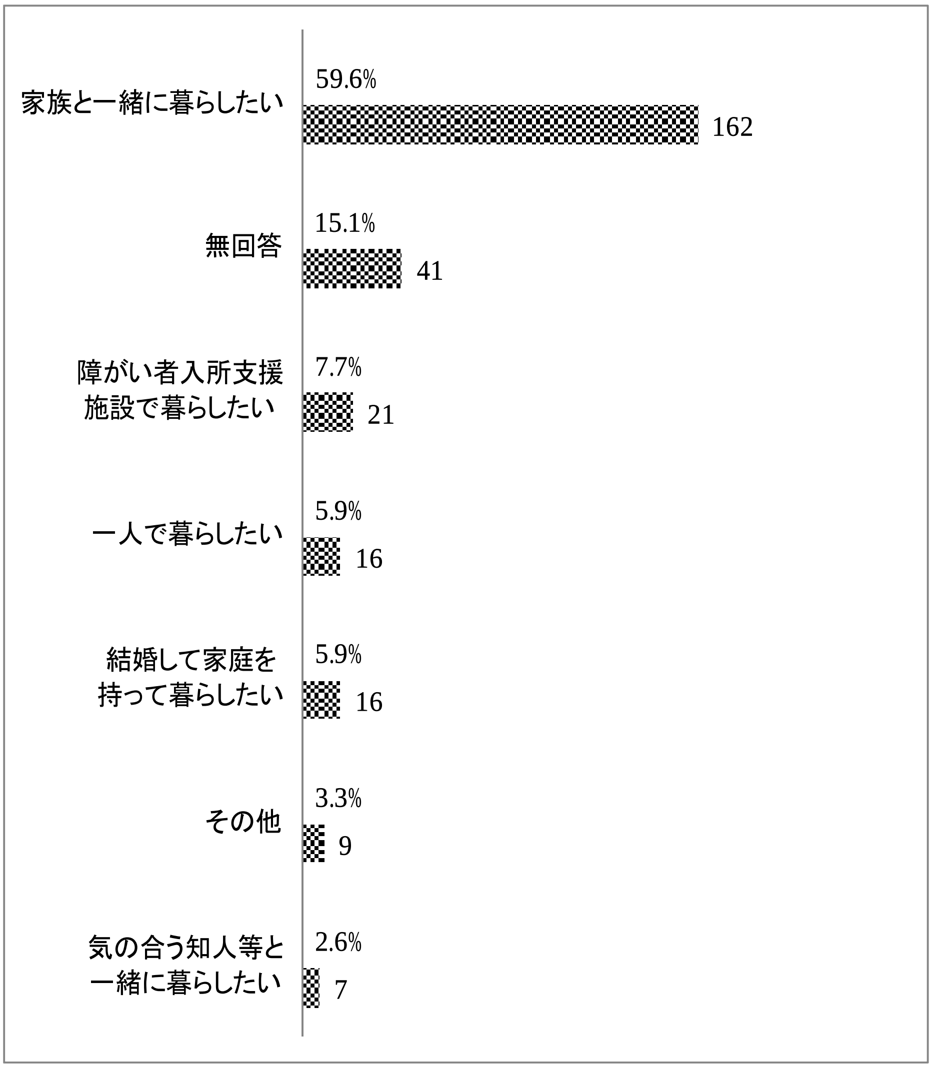
精神障がい者では「差別や偏見をなくすための福祉教育や広報活動の充実」(8.9%)が多くなっています。

（９）今後の暮らし方の希望

問２８　あなたは、今後どのような暮らしをしたいですか。

全体の６割近くは家族と一緒に暮らしたいと思う。
施設入所ではなく地域で暮らすことを望む人は、知的障がい者で６割強、身体障がい者、精神障がい者で７割強を占める。

図 31　今後どのような暮らしをしたいですか（全体）



回答者数　272 人

表 25　今後どのような暮らしをしたいですか（全体・障がい者別）

選択項目	総計	身体	知的	精神	無回答
家族と一緒に暮らしたい	59.6%	64.3%	59.3%	50.0%	20.0%
無回答	15.1%	18.5%	9.3%	8.9%	40.0%
障がい者入所支援施設で暮らしたい	7.7%	6.4%	16.7%	3.6%	0.0%
結婚して家庭を持って暮らしたい	5.9%	3.2%	5.6%	14.3%	0.0%
一人で暮らしたい	5.9%	2.5%	1.9%	19.6%	0.0%
その他	3.3%	3.2%	1.9%	3.6%	20.0%
気の合う知人等と一緒に暮らしたい	2.6%	1.9%	5.6%	0.0%	20.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答者数（人）	272	157	54	56	5

全体では「家族と一緒に暮らしたい」が 59.6%と圧倒的な意見となっており、「障がい者入所支援施設で暮らしたい」は 7.7%にとどまります。その他、「結婚して家庭を持って暮らしたい」、「一人で暮らしたい」(各 5.9%)、「気の合う知人等と一緒に暮らしたい」(2.6%)の順で続き、施設入所ではなく様々な形態で“地域で暮らすことを望む人”は 74.0%を占めています。

身体障がい者では「家族と一緒に暮らしたい」が 64.3%と６割強を占めており、「障がい者入所支援施設で暮らしたい」は 6.4%であり、“地域で暮らすことを望む人”は 71.9%で障がい者全体と同様の結果となっています。

知的障がい者では「家族と一緒に暮らしたい」は 59.3%、「障がい者入所支援施設で暮らしたい」(16.7%)、「結婚して家庭を持って暮らしたい」、「気の合う知人等と一緒に暮らしたい」(各 5.6%)、「一人で暮らしたい」(1.9%）と続き、“地域で暮らすことを望む人”は 72.4%と７割強となっています。

精神障がい者では「家族と一緒に暮らしたい」は 50.0%、「一人で暮らしたい」は 19.6%、「結婚して家庭を持って暮らしたい」は 14.3%などとなっており、“地域で暮らすことを望む人”は 83.9%と８割強を占めています。なお、「入所支援施設で暮らしたい」は 3.6%にとどまっています。

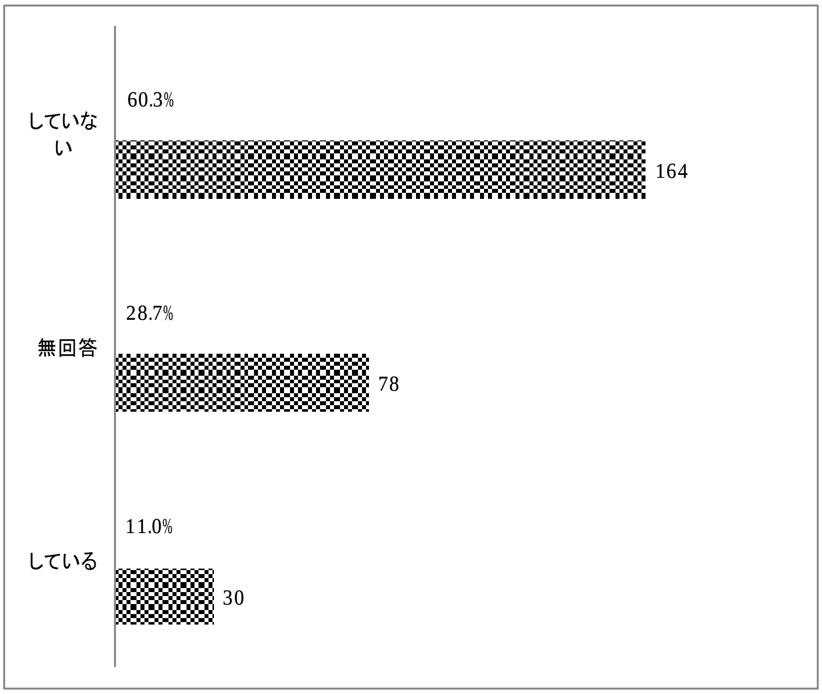
８．障がい児保育・教育

（１）通園・通学の状況

問２９　現在、保育園や幼稚園、学校に通園・通学していますか。

知的障がい者のうち、およそ４人に１人は通園・通学している児童。

図 32 通園･通学しているか（全体）



回答者数 272 人

表 26　通園・通学しているか（全体・障がい者別）

選択項目	総計	身体		知的		精神		無回答	
している	11.0%	6	3.8%	22	40.7%	1	1.8%	1	20.0%
していない	60.3%	94	59.9%	25	46.3%	43	76.8%	2	40.0%
無回答	28.7%	57	36.3%	7	13.0%	12	21.4%	2	40.0%
合計	100.0%	157	100.0%	54	100.0%	56	100.0%	5	100.0%
回答者数（人）	272	157		54		56		5	

身体障がい者１５７人のうち､通園･通学している人は６人(3.8%)、知的障がい者　５４人のうち､通園･通学している人は２２人(40.7%)､精神障がい者５６人のうち、通園・通学している人は１人(1.8%)です。

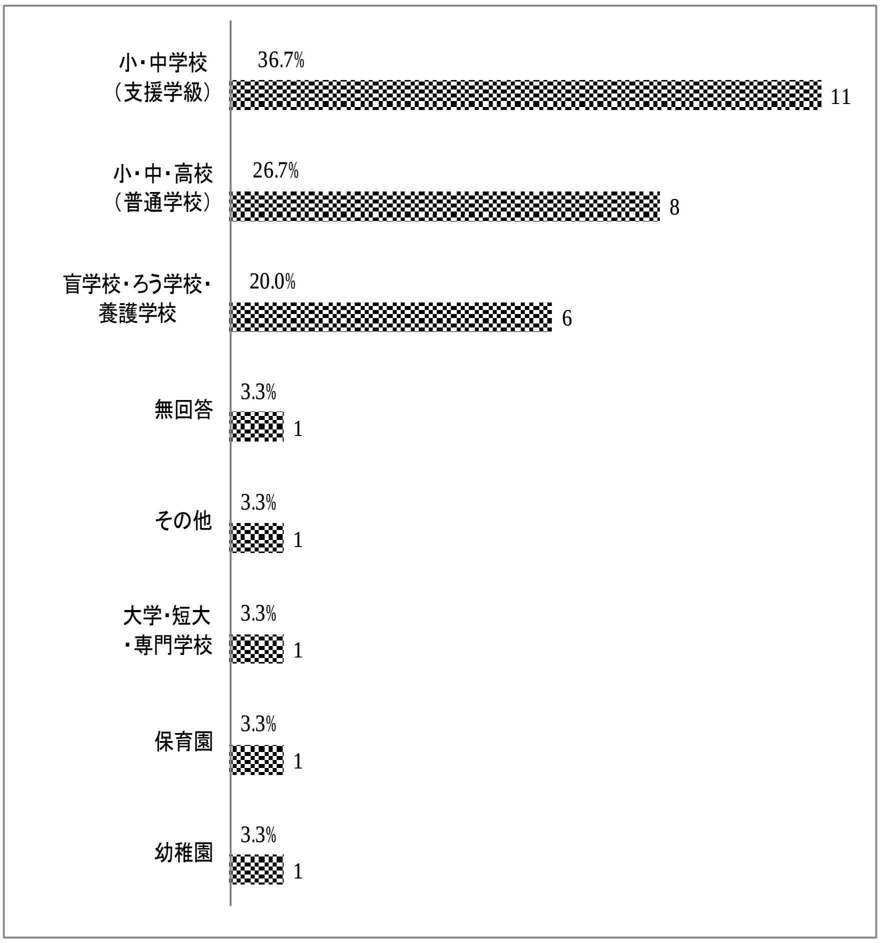
（２）通園・通学先

問３０　問２９で「１．している」と回答した方におうかがいします。

（１）　通園・通学先は次のうちどれですか。

身体障がい児は普通学級が多く、知的障がい児は支援学級、養護学校等が多い。

図 33-1 通園･通学先（全体）



回答者数　30 人

表 27-1 通園･通学先（全体･障がい者別）

選択項目	総計		身体		知的		精神		無回答	
小･中学校（支援学級）	11	36.7%	1	16.7%	9	40.9%	0	0.0%	1	100.0%
小･中･高校（普通学校）	8	26.7%	1	16.7%	6	27.3%	1	100.0%	0	0.0%
盲学校･ろう学校･養護学校	6	20.0%	1	16.7%	5	22.7%	0	0.0%	0	0.0%
幼稚園	1	3.3%	0	0.0%	1	4.5%	0	0.0%	0	0.0%
保育園	1	3.3%	1	16.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
大学･短大･専門学校	1	3.3%	1	16.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	1	3.3%	1	16.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	1	3.3%	0	0.0%	1	4.5%	0	0.0%	0	0.0%
合計	30	100.0%	6	100.0%	22	100.0%	1	100.0%	1	100.0%

身体障がい児６人は､幼稚園を除きそれぞれに各１人が在学しています。

知的障がい児２１人は､「小・中学校（支援学級)」が９人(40.9％)で､「小・中・高校（普通学校)」が６人(27.3％)､「盲学校・ろう学校・養護学校」が５人(22.7％)となっています。

精神障がい児は､「小・中・高校(普通学校)」に１人(100.0％)通学しています。

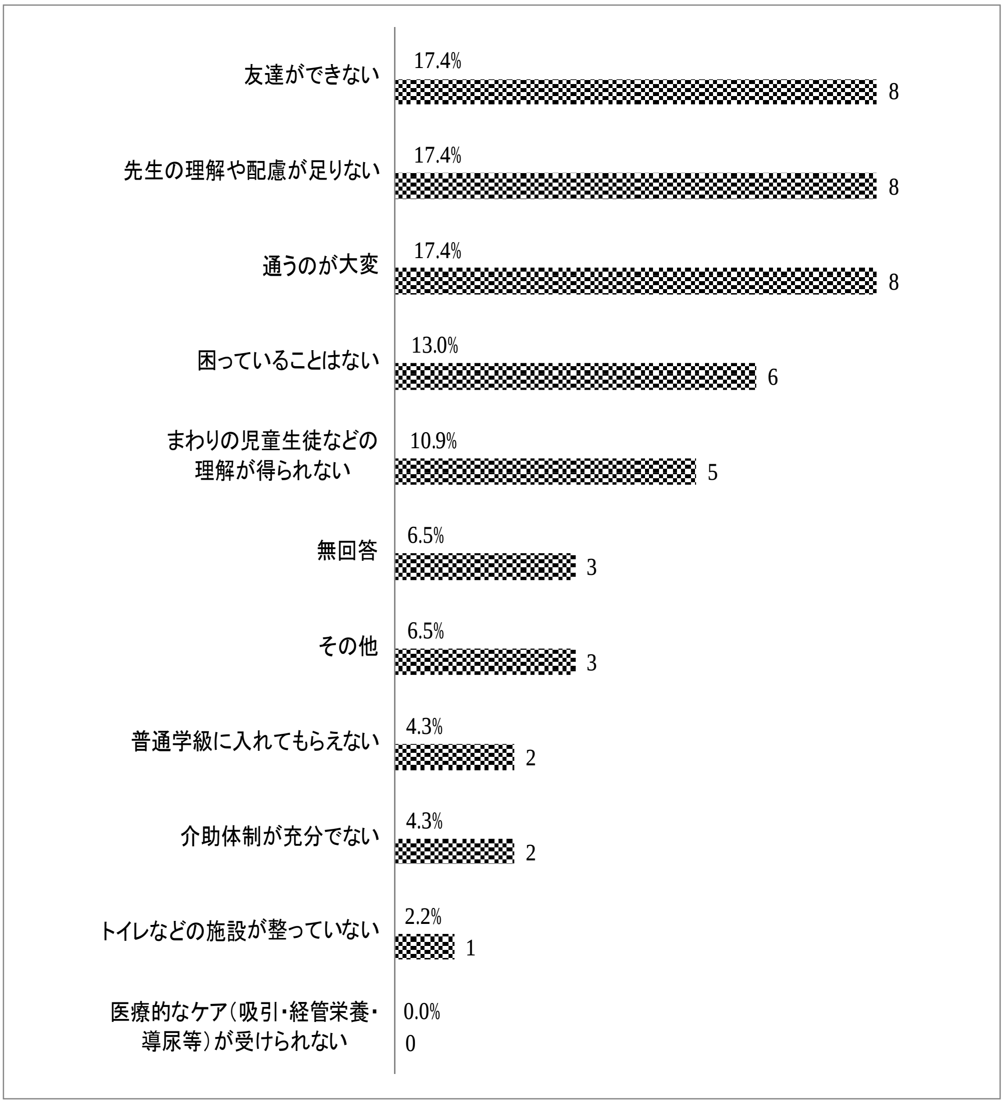
（３）通園・通学で困ること

問３０　問２９で「１．している」と回答した方におうかがいします。

（２）　幼稚園・学校などに通っていて困っていることは何ですか。（複数回答）

身体障がい児、知的障がい児は通園・通学に不便を感じ、周囲の理解を求めている。

図 33-2　幼稚園･学校に通っていて困っていること（全体）



回答者数　46 人

表 27-2 幼稚園・学校に通っていて困っていること（全体・障がい者別）

選択項目	総計	身体	知的	精神	無回答
通うのが大変	17.4%	16.7%	19.4%	0.0%	0.0%
先生の理解や配慮が足りない	17.4%	16.7%	16.1%	0.0%	50.0%
友達ができない	17.4%	16.7%	19.4%	0.0%	0.0%
困っていることはない	13.0%	16.7%	9.7%	100.0%	0.0%
まわりの児童生徒などの理解が得られない	10.9%	8.3%	12.9%	0.0%	0.0%
その他	6.5%	0.0%	6.5%	0.0%	50.0%
無回答	6.5%	8.3%	6.5%	0.0%	0.0%
介助体制が充分でない	4.3%	8.3%	3.2%	0.0%	0.0%
普通学級に入れてもらえない	4.3%	0.0%	6.5%	0.0%	0.0%
トイレなどの施設が整っていない	2.2%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%
医療的なケア（吸引・経管栄養・導尿等）が受けられない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答者数（人）	46	12	31	1	2

通園・通学している児童・生徒が困っていることとして、身体障がい児では「通うのが大変」、「先生の理解や配慮が足りない」、「友達ができない」(各 16.7%)、「介助体制が整っていない」、「トイレなどの施設が整っていない」(各 8.3%）などが多くなっています。

知的障がい児では「通うのが大変」、「友達ができない」(各 19.4%)、「先生の理解や配慮が足りない」(16.1%)、「普通学級に入れてもらえない」(6.5%)などが多くなっています。

「困っていることはない」は、全体では、13.0%となっています。

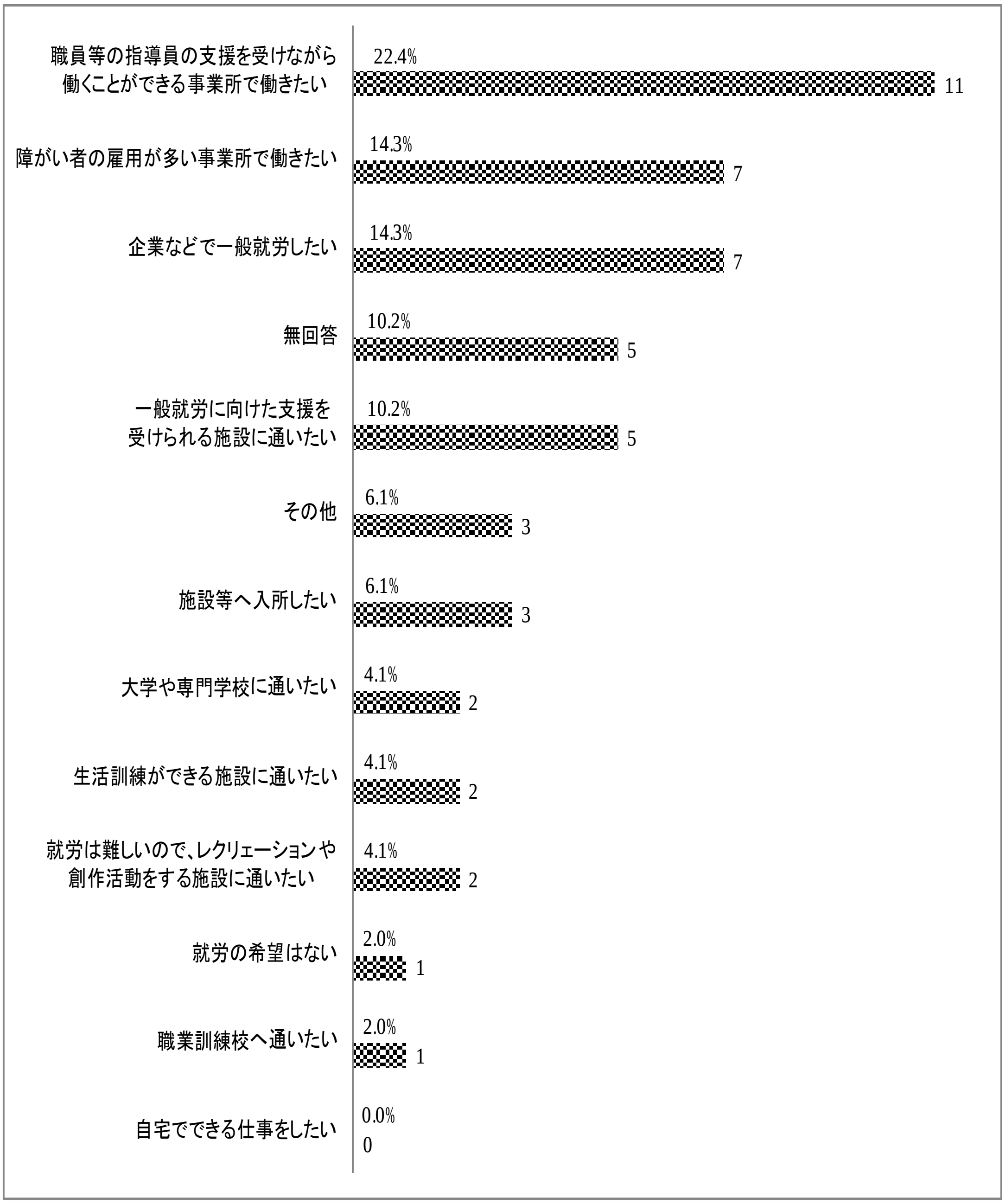
（４）進路の希望

問３０　問２９で「１．している」と回答した方におうかがいします。

（３）　今後、どのような進路を希望しますか。（複数回答）

身体障がい児は企業での一般就労、知的障がい児は支援を受けながらの事業所での就労希望が多い。

図 34 今後の希望進路（全体）



回答者数　49 人

表 28 今後の希望進路（全体・障がい者別）

選択項目	総計	身体	知的	精神	無回答
職員等の指導員の支援を受けながら働くことができる事業所で働きたい	22.4%	14.3%	23.1%	0.0%	50.0%
企業などで一般就労したい	14.3%	28.6%	10.3%	100.0%	0.0%
障がい者の雇用が多い事業所で働きたい	14.3%	0.0%	17.9%	0.0%	0.0%
一般就労に向けた支援を受けられる施設に通いたい	10.2%	0.0%	12.8%	0.0%	0.0%
施設等へ入所したい	6.1%	14.3%	5.1%	0.0%	0.0%
その他	6.1%	0.0%	5.1%	0.0%	50.0%
就労は難しいので、レクリエーションや創作活動をする施設に通いたい	4.1%	0.0%	5.1%	0.0%	0.0%
生活訓練ができる施設に通いたい	4.1%	0.0%	5.1%	0.0%	0.0%
大学や専門学校に通いたい	4.1%	14.3%	2.6%	0.0%	0.0%
職業訓練校へ通いたい	2.0%	0.0%	2.6%	0.0%	0.0%
就労の希望はない	2.0%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%
自宅でできる仕事をしたい	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	10.2%	14.3%	10.3%	0.0%	0.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答者数（人）	49	7	39	1	2

通園・通学している児童・生徒の希望進路は、身体障がい児では「企業などで一般就労したい」が 28.6％で最も多く、「職員等の支援を受け事業所で働きたい」、「施設等へ入所したい」、「大学や専門学校に通いたい」が各 14.3％などとなっています。

知的障がい児では「職員等の支援を受け事業所で働きたい」が 23.1％で最も多く、「障がい者の雇用が多い事業所で働きたい」(17.9％)、「一般就労の支援を受けられる施設に通いたい」(12.8％)、「企業などで一般就労したい」（10.3％）の順となっています。また、「大学や専門学校に通いたい」、「職業訓練校へ通いたい」は、各 2.6％となっています。

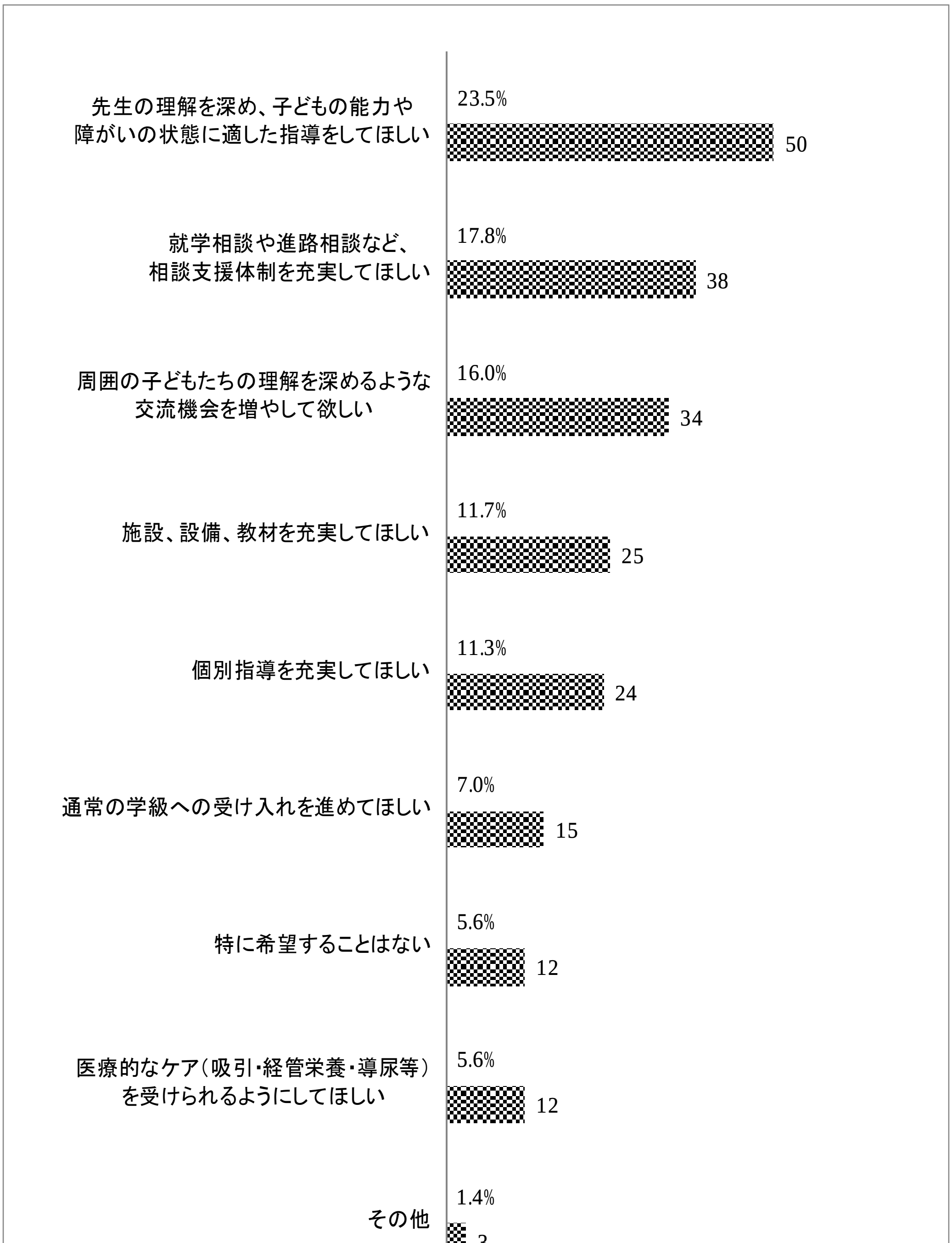
精神障がい児では「企業などで一般就労したい」が 100.0％となっています。

（５）幼稚園・保育園・学校に望むこと

問３１　幼稚園、保育園、学校に望むことはどのようなことですか。（複数回答）

全体では、能力や障がいの状態に適した指導やまわりの子どもたちとの交流、就学・進路相談の充実を望んでいるが、知的障がい児ではさらに、施設、設備、教材の充実や個別指導も要望。

図 35　幼稚園・保育園・学校に望むこと（全体）



回答者数　213 人

無回答者数 189 人を除く

表 29　幼稚園・保育園・学校に望むこと（全体・障がい者別）

選択項目	総計	身体	知的	精神	無回答
先生の理解を深め、子どもの能力や障がいの状態に適した指導をしてほしい	23.5%	22.7%	29.7%	14.6%	33.3%
就学相談や進路相談など、相談支援体制を充実してほしい	17.8%	15.9%	20.3%	18.8%	0.0%
周囲の子どもたちの理解を深めるような交流機会を増やしてほしい	16.0%	12.5%	21.6%	12.5%	33.3%
施設、設備、教材を充実してほしい	11.7%	15.9%	6.8%	12.5%	0.0%
個別指導を充実してほしい	11.3%	9.1%	10.8%	14.6%	33.3%
通常の学級への受け入れを進めてほしい	7.0%	8.0%	8.1%	4.2%	0.0%
医療的なケア（吸引・経管栄養・導尿等）を受けられるようにしてほしい	5.6%	8.0%	1.4%	8.3%	0.0%
特に希望することはない	5.6%	6.8%	1.4%	10.4%	0.0%
その他	1.4%	1.1%	0.0%	4.2%	0.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答者数（人）	213	88	74	48	3

身体障がい児では「先生の理解を深め、子どもの能力や障がいの状態に適した指導をしてほしい」が 22.7%で最も多く、「施設、設備、教材を充実してほしい」、「就学や進路相談の支援体制の充実」(各 15.9%)、「周囲の子どもたちとの交流機会の増加」(12.5%）の順となっています。

知的障がい児でも「先生の理解を深め、子どもの能力や障がいの状態に適した指導をしてほしい」が 29.7%で最も多く、「周囲の子どもたちとの交流機会の増加」(21.6%)、「就学や進路相談の支援体制の充実」(20.3%）が続いています。

精神障がい児では「就学や進路相談の支援体制の充実」(18.8%）が最も多くなっています。

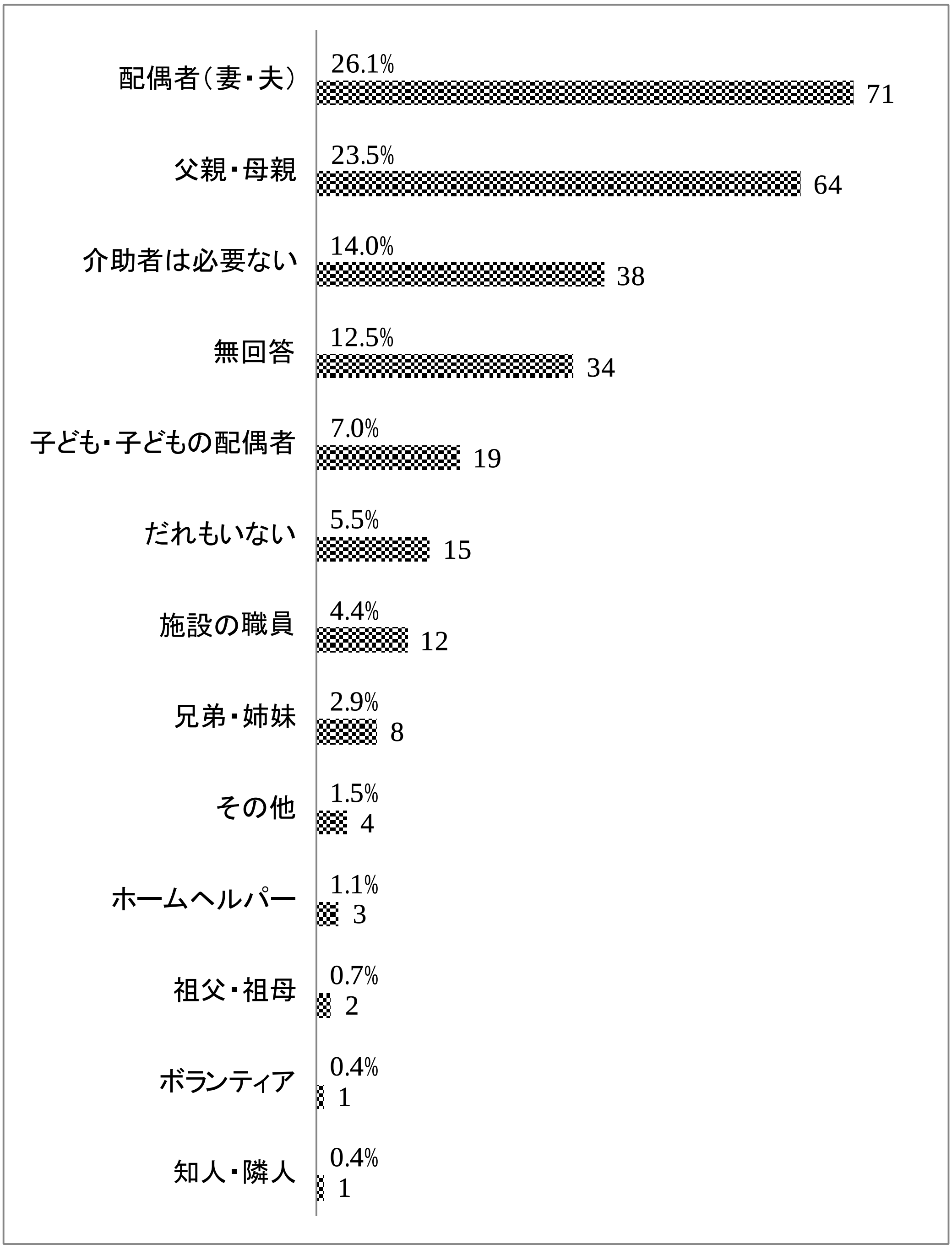
９．介助者の状況

（１）介助者

問３２　おもな介助者はどなたですか。

介助者として、身体障がい者は「配偶者」、知的障がい者は「父親・母親」、精神障がい者は「父親・母親」、「配偶者」が多くなっている。

図 36 おもな介助者（全体）



回答者数 272 人

表 30 おもな介助者（全体・障がい者別）

選択項目	総計	身体	知的	精神	無回答
配偶者（妻・夫）	26.1%	36.3%	5.6%	17.9%	20.0%
父親・母親	23.5%	4.5%	74.1%	28.6%	20.0%
介助者は必要ない	14.0%	17.2%	3.7%	16.1%	0.0%
子ども・子どもの配偶者	7.0%	9.6%	1.9%	5.4%	0.0%
だれもいない	5.5%	4.5%	3.7%	8.9%	20.0%
施設の職員	4.4%	5.1%	3.7%	3.6%	0.0%
兄弟・姉妹	2.9%	1.9%	1.9%	7.1%	0.0%
その他	1.5%	1.3%	0.0%	1.8%	20.0%
ホームヘルパー	1.1%	0.6%	0.0%	3.6%	0.0%
祖父・祖母	0.7%	0.6%	0.0%	1.8%	0.0%
知人・隣人	0.4%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
ボランティア	0.4%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	12.5%	17.2%	5.6%	5.4%	20.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答者数（人）	272	157	54	56	5

全体では「配偶者（妻・夫）」が 26.1％と最も多く、「父親・母親」が 23.5％で続いています。なお、「介助者は必要ない」が 14.0％となっています。

身体障がい者では「配偶者（妻・夫）」が 36.3％で、知的障がい者では「父親・母親」が 74.1％となっています。

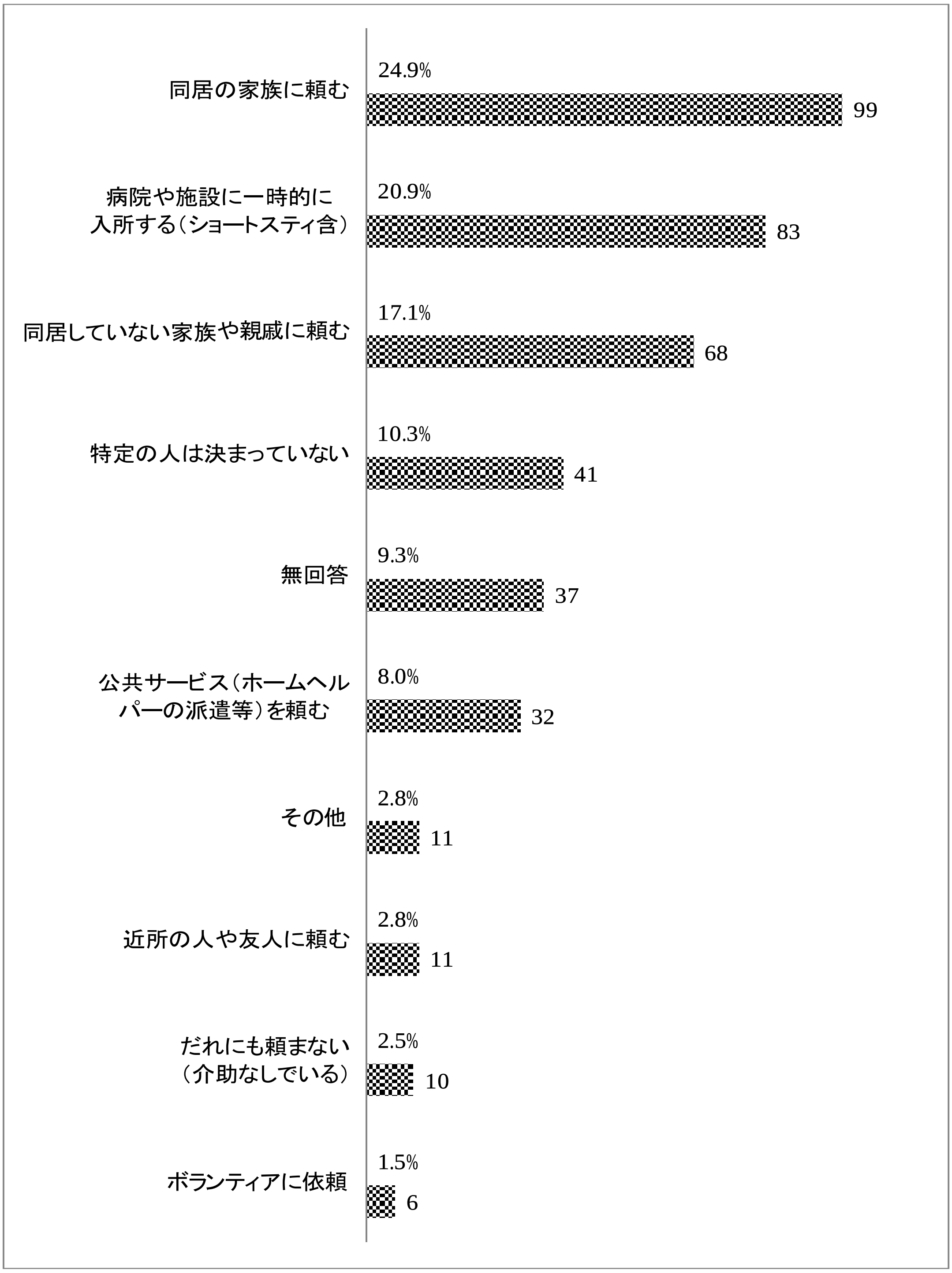
精神障がい者では「父親・母親」が 28.6％、「配偶者（妻・夫）」が 17.9％、「兄弟・姉妹」が 7.1％、「だれもいない」は 8.9％となっています。

（２）介助者の病気等による緊急時の対応

問３３　おもな介助者が、急病、急用、事故などで介助ができなくなった場合、どのようにされますか。これまで、そのようなことがなかった場合は今後あった場合を想定してお答えください。（複数回答）

緊急時の対応の第一は同居の家族、同居していない家族や親戚に頼むが多い。精神障がい者は特定の人が決まっていないとの回答が多い。

図 37　介助者の緊急時の対応について（全体）



回答者数 398 人

表 31　介助者の緊急時の対応について（全体・障がい者別）

選択項目	総計	身体	知的	精神	無回答
同居の家族に頼む	24.9%	28.2%	26.3%	16.0%	0.0%
病院や施設に一時的に入所する（ショートステイ含）	20.9%	19.7%	22.4%	23.5%	14.3%
同居していない家族や親戚に頼む	17.1%	14.5%	25.0%	13.6%	57.1%
特定の人は決まっていない	10.3%	9.4%	6.6%	16.0%	14.3%
公共サービス（ホームヘルパーの派遣等）を頼む	8.0%	9.8%	3.9%	7.4%	0.0%
その他	2.8%	0.9%	5.3%	6.2%	0.0%
近所の人や友人に頼む	2.8%	3.0%	2.6%	2.5%	0.0%
だれにも頼まない（介助なしでいる）	2.5%	1.7%	1.3%	6.2%	0.0%
ボランティアに依頼	1.5%	1.7%	0.0%	2.5%	0.0%
無回答	9.3%	11.1%	6.6%	6.2%	14.3%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答者数（人）	398	234	76	81	7

全体では「同居の家族に頼む」(24.9%)が最も多く、「病院や施設に一時的に入所する」(20.9%)、「同居していない家族や親戚に頼む」（17.1%）の順で続き、身体障がい者でも同様の結果です。

知的障がい者では「同居の家族に頼む」(26.3%)、「同居していない家族や親戚に頼む」(25.0%)、「病院や施設に一時的に入所する」(22.4%)の順となっています。

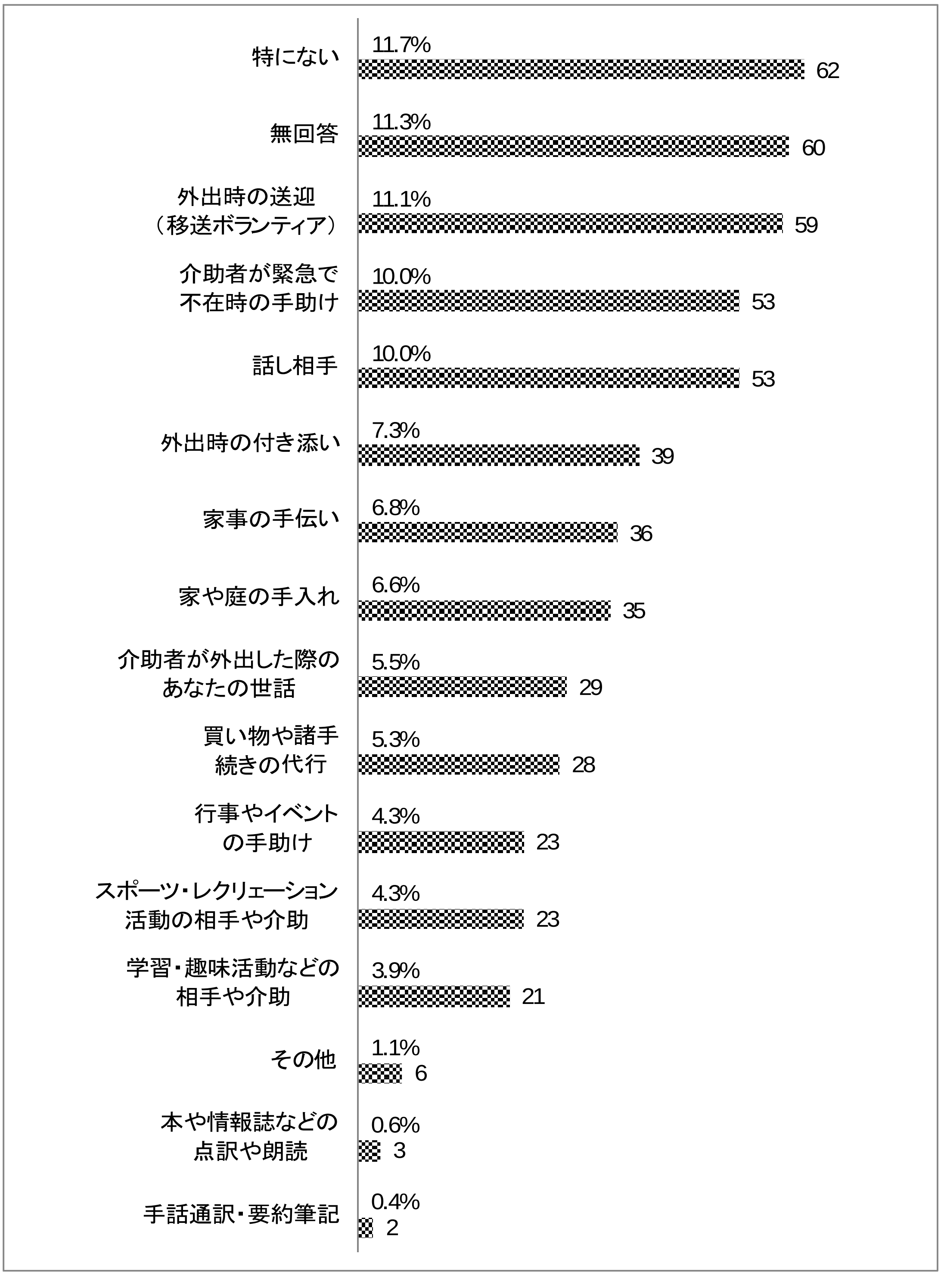
精神障がい者では「病院や施設に一時的に入所する」(23.5%)が最も多くなっていますが、「特定の人は決まっていない」(16.0%)も高い割合を占めています。

（３）ボランティアの支援

問３４　ボランティアに支援を頼んでいること、頼みたいことは何ですか。（複数回答）

外出時の送迎や付き添い支援を求める。知的障がい者のボランティアへの要望は介助者や家族に代わる手助けの他、精神障がい者は「話し相手」への要望が高い。

図 38 ボランティアに支援を頼んでいること、頼みたいこと（全体）



回答者数 532 人

表 32 ボランティアに支援を頼んでいること、頼みたいこと（全体・障がい者別）

選択項目	総計	身体	知的	精神	無回答
特にない	11.7%	15.6%	7.9%	6.7%	0.0%
外出時の送迎（移送ボランティア）	11.1%	12.7%	10.5%	8.1%	12.5%
話し相手	10.0%	8.7%	6.1%	16.3%	0.0%
介助者が緊急で不在時の手助け	10.0%	8.7%	14.9%	8.1%	0.0%
外出時の付き添い	7.3%	7.3%	9.6%	5.9%	12.5%
家事の手伝い	6.8%	7.6%	2.6%	8.9%	0.0%
家や庭の手入れ	6.6%	9.1%	1.8%	5.9%	0.0%
介助者が外出した際のあなたの世話	5.5%	4.0%	12.3%	3.0%	0.0%
買い物や諸手続きの代行	5.3%	5.8%	2.6%	6.7%	0.0%
スポーツ・レクリェーション活動の相手や介助	4.3%	2.2%	5.3%	8.1%	12.5%
行事やイベントの手助け	4.3%	2.5%	7.9%	4.4%	0.0%
学習・趣味活動などの相手や介助	3.9%	1.5%	7.0%	5.9%	12.5%
その他	1.1%	1.8%	0.9%	0.0%	0.0%
本や情報誌などの点訳や朗読	0.6%	0.7%	0.9%	0.0%	12.5%
手話通訳・要約筆記	0.4%	0.0%	0.9%	0.7%	37.5%
無回答	11.3%	11.6%	8.8%	11.1%	0.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
回答者数（人）	532	275	114	135	8

全体では「外出時の送迎（移送ボランティア）」(11.1%)、「話し相手」、「介助者が緊急で不在時の手助け」(各 10.0%)の要望が上位にあげられ、「特にない」は 11.7%となっています。

身体障がい者では全体と同様の結果ですが、知的障がい者と精神障がい者については特有の要望がみられます。

知的障がい者では「介助者が緊急で不在時の手助け」(14.9%)、「介助者が外出した際のあなたの世話」(12.3%)、「外出時の送迎（移送ボランティア）」(10.5%)など介助者や家族に代わって世話をしてもらう要望が中心となっています。その他、障がい者全体に比べ「行事やイベントの手助け」(7.9%)、「学習・趣味活動などの相手や介助」(7.0%)、「スポーツ・レクリエーション活動の相手や介助」(5.3%)など社会参加や学習への支援も求めています。

精神障がい者では「話し相手」(16.3%)が最も多く、「家事の手伝い」(8.9%)、「外出時の送迎（移送ボランティア）」、「介助者が緊急で不在時の手助け」、「スポーツ・レクリエーション活動の相手や介助」(各 8.1%)が続いています。

第２次天童市障がい者フラン策定のためのアンケート調査（自由記載）

	対象	意見等
1	（女、7～12歳、身体5級）	障がい者に対してのサービスは以前より多くなったが、その家族（兄弟）へのケア・サポートなどがない。兄弟への感謝を何かの形にして催事などがあればよい
2	（女、20～39歳、身体１級）	山辺のような老人ホームと障がい者との一緒の施設があれば良い。
3	（女、20～39歳、身体１級）	ショートスティ、ディサービスが利用できる施設を作ってほしい。障がい者に理解のある施設職員育成をしてほしい。
4	（男、20～39歳、身体１級）	一番不安なことは、介護者が病気になった場合、受け入れてくれる施設、病院があるか？どの位の期間置いてもらえるのか？
5	（男、20～39歳、身体2級）	天童から山形市内の授産施設へ家族の送迎で通っています。今は、とても作業にもレクリエーションにも積極的に参加できていますが、将来にわたって、家族をあてにすることはできないと思っています。なるべく自立したいと考えていますが、もっと近いところに仕事場があって、グループホームのような住むところがあればいい。
6	（女、20～39歳、身体4級）	天童に入所施設をお願いします。
7	（男、40～59歳、身体１級）	市民部健康課が、市役所から離れてしまいとても不便。一度に用事を済ませないし、タクシー代もかかる。現在ある施設の建物が古くなっている。洋式トイレが少ない。
8	（男、40～59歳、身体１級）	知的障がい者が入所できる施設を、是非確保してほしい。1つの施設の中に、老人と障がい者が一緒に入所できる施設がほしい。老人用入所施設はあるが、知的障がい者の施設がないのは、ある種の差別と思える。新しく作るのが無理なら、今ある建物の中に作ってほしい。
9	（男、40～59歳、身体１級）	厚生年金はもらえるのに、国民年金と障害者年金の両方もらえないのは不公平。障害者年金を上げてほしい。特老施設が足りない。
10	（男、40～59歳、身体2級）	たばこを吸うので、年金で暮らすのが精一杯です。たばこの値段が上がったので、年金も上げてほしい。
11	（男、40～59歳、身体3級）	除雪車による山積みにされた固い雪の片付けに困っている。何か対策はないか。
12	（女、40～59歳、身体4級）	障がいがあっても、行政や他人だけを頼るのではなく、自分自身が可能なことは、自分自身で楽しみながら工夫して行うよう努力すべき。甘えてばかりいては、（依存して）成長もしないし、気持ちも暗くなりがちになるのでは？

13	（女、40～59歳、身体4級）	今は仕事にも復帰し、働いていますが、手術後の買い物に行った場合、駐車場が空いていない時に苦労しました。洋服を着ていると見えない腹部の手術だったので、障がい者用のマークがついている場所へは、駐車しにくいものがあり、遠い場所からゆっくりと歩いてくることしか出来ませんでした。ですので、手術マークのような物がありがたいなと（期限付きのシール等、車に貼るタイプ）感じました。主婦でもある私は、術後といっても、買い物せずにはいられない状態だったのです。私と同じ立場の方もきっとおられるはずです。一つの意見として、聞いてほしい。
14	（女、40～59歳、身体5級）	アンケート内容が微妙にずれていて、答えにくかった。
15	（女、60～64歳、身体１級）	義母が目に障がいを持ってから、潔癖症になり毎日異常な回数と時間、手を洗っているため、水道代が5～6万円に達しており、家計を大変圧迫しています。ガスは一定の量以上を使うと、値引きがあるが、市でももう少し個別具体的な状況を見て、幅広く相談にのってほしい。
16	（男、60～64歳、身体１級）	障がい者自身、積極性を持って社会に出てからだの動くうちは働きたい。仕事があれば良い。障がいに配慮した公営住宅整備をしてほしい。
17	（男、60～64歳、身体１級）	県内のほとんどの自治体で認められているパソコン用品を、日生具として認めてほしい。視覚障がい者にとって、パソコンを使用しての情報入手は最も必要なことだと思う。
18	（女、60～64歳、身体4級）	このようなアンケートで自分をみつめさせてもらい、勉強になった。
19	（女、65～74歳、身体１級）	弟から援助を求められ、自分の生活費も余裕がないので、困っている。
20	（男、65～74歳、身体１級）	アンケート項目があまりにも多い。
21	（男、65～74歳、身体１級）	市町村よりも、県または国がもっと障がい者に対して、末端まで光が届くような行政を行うよう望む。体が悪いと心が病んでくるので、心のケアが一番大事。外にどんどん出て行けるように金銭面を見直してほしい。
22	（女、65～74歳、身体2級）	家族と同居はしているが、自分だけが夫を介護している。もし自分の具合が悪くなったらと思うと不安。
23	（女、65～74歳、身体3級）	今のところ一人でやっています。（リハビリしながら）自分で出来なくなったら介護相談に行きます。
24	（男、65～74歳、身体3級）	身体障がい者3級の手帳をもらっているが、何もメリットがない。

25	（男、65～74歳、身体3級）	特老ホームの中に、視覚障害者専用施設を作ってほしい。
26	（男、65～74歳、身体4級）	障がい等級の決め方に矛盾を感じる。どれだけ生活に支障があるかで、級を決めるべき。
27	（女、65～74歳、身体6級）	娘夫婦・孫たちと同居しているので、支障なく生活しているが、高齢になっているので、健康に気をつけている。
28	（女、65～74歳、身体6級）	今のところは幸福ですが、先が不安。
29	（男、7～12歳、身体１級）	現在のぞみ学園のつばさ支援事業で春休み、夏休みに利用させていただいており、大変助かっております。ただ、春休み夏休みだけではなく、ふだんの平日、又土日祝日など緊急の時などに利用させていただけると、大変助かります。利用料金など、発生しても問題ありませんが、現在どうしても同伴できない所などへ出掛ける時にとても困っております。せっかくの施設、いろいろな形で利用させてほしい。
30	（女、75歳以上、身体１級）	介護保険制度の見直しを含め、日々皆の考え、知識を出し合い、安心して参入、参加、利用可能になるようにしなければばならない。
31	（女、75歳以上、身体１級）	本人は寝たきりで、代わりに記入したので参考にならないかも。
32	（女、75歳以上、身体１級）	通院の場合の交通費や、入院費など負担が多い。家族に負担のかかる福祉では、安心して長生きできない。
33	（女、75歳以上、身体１級）	施設入居に時間がかかり、亡くなる人も多い。何とかならないか。
34	（女、75歳以上、身体１級）	アンケートをとっても、行動がともなわなければむだだと思います。現状を見て、すぐやることと思う。
35	（男、75歳以上、身体１級）	養護施設が重度の人しか入れない。寝たきりの人だけではなく、本当に介護を必要としている人のために体制を取ってほしい。
36	（男、75歳以上、身体１級）	入院中のため該当なし
37	（男、75歳以上、身体１級）	入院費の助成。市内の施設をもっと多く。入所できない。年金だけでは暮らせない。施設にも入れない。
38	（男、75歳以上、身体2級）	介護者が1ヶ月以上の入院になったが、入所できる施設がどこも空き待ちで見つからない。どこで探してもらえば良いか、情報がほしい。
39	（女、75歳以上、身体3級）	家族が話題を多くし、明るく毎日を過ごせたら良いと、何よりも思っている。

40	（男、75歳以上、身体3級）	現在は、介護支援を受けていないし、必要ともしないので、実感不足である。
41	（男、75歳以上、身体3級）	足の神経しびれを持っていて毎日痛いが、市営住宅（バリアフリー）に入っているので、とても便利。
42	（男、75歳以上、身体3級）	入院して1年も経っている。毎日介助をしている。
43	（女、75歳以上、身体4級）	加齢になりました。いつ何どきたおれるかわかりません。その時々を考えて生活していきたいと思っています。今のところ幸福です。よろしく。
44	（男、75歳以上、身体4級）	下肢障がい4級では、タクシー券はだめ、耳障がいだと3級でも大丈夫。杖を使う者は4級で良いのか？医者は手術で治るというが、75歳では、できない。40年前福祉課に行ったが断られた。（大阪で手術のため）現在なら治っていたかも。
45	（男、75歳以上、身体4級）	年金で暮らす老人をあまりいじめるな。市会議員を減らせ。職員減らせ。市民の声をきけ。
46	（女、75歳以上、身体5級）	同居する人が大変だと、心苦しい。
47	（女、75歳以上、身体5級）	障がい者手帳を持っていても、何が使えるかよくわからない。視覚障がいなので、家族と一緒でなければ、行動できないので、介護の際に家族が使える割引がほしい。
48	（男、75歳以上、身体5級）	命ある限り老夫婦で、迷惑をかけずに続く限り余生を送りたい。
49	（男、75歳以上、身体6級）	障がい者（聴覚）に対してのサービスを知らせてほしい。
50	（女、75歳以上、身体１級）	訪問看護等のサービスもそれなりに費用がかかる。この国の財政で今以上のことを希望するのは、無理だと思うが、もっともっと福祉も良くなればと思う。
51	（女、20～39歳、精神２級）	障がい者などの福祉施設での介護、看護師の人手不足を解消してほしい。中高生の障がい者に対する理解、認知度があまりにも欠けているので、教育場で授業をしてほしい。（盲人の白い杖を知らない子供が多い）
52	（男、20～39歳、精神２級）	将来の老後が不安。年金がストップしたら精神的にも、経済的にも非常に辛いので、止めないようにしてほしい。

53	（男、20～39歳、精神２級）	精神病の人にもっと情報やレクリエーションなど、健常者と一緒にできることを企画実行してもらいたい。
54	（女、20～39歳、精神３級）	精神障がい者である自分が、両親（介護認定されなかった）の介護をしている。かなりまいっている。施設に行くのが嫌だというので、どう接して良いかどう介護して良いかわからず、頭痛がひどくなる。通院が多く（両親と自分）年金だけでは暮らしていけない。短時間、近場で働きたいので、小規模作業所を増やしてほしい。（山形の「おーる」や「ぱる」などのきちんとした指導員のいる）市の「虹の会」の催しや、簡単すぎるのではない、生活のための本格的な料理教室をしてほしい。手帳の効力がほとんどないし、どんなことに利用できるか、一覧がないのは一番困る。更新時も連絡がない。
55	（女、20～39歳、精神３級）	ボランティアなどの紹介窓口がない。どこに相談したらよいかわからない。
56	（女、20～39歳、精神３級）	病気の性質に起因するものなのか、友人ができにくく、一時仲良くしていても長く続かず、自分から避けるように離れてしまう。スポーツやレクリエーション活動等で、外出したり体を動かしたりして、楽しみを見つけ、他の人との交わりをスムースに出来るようになってほしい。
57	（女、40～59歳、精神１級）	両親がいなくなったらどうしたらいいか？とても心配。
58	（男、40～59歳、精神１級）	入院中で、本当に大変。障がい者の子供がいない人は、苦しみが分からないでしょう。
59	（男、40～59歳、精神１級）	灯油券とガソリン券を与えてほしい。むずかしい手続きなしでお願いします。
60	（女、40～59歳、精神２級）	現在は両親がいるが、年齢が増して介助できなくなったら不安。
61	（女、40～59歳、精神２級）	山形市に比べて、福祉サービスが充実していない。申請主義だと知らないことは、申請すらできないので、広報、知らせを郵送などでマメに教えてほしい。山形市は、申請しなくても郵送で助成券・無料券・申請書が送られてくる。
62	（女、40～59歳、精神２級）	福祉センターに電話をして、対応してもらったことが、ありがたかった。
63	（女、40～59歳、精神２級）	運転できないので不便。足腰が弱ってきているので、歩行が大変。
64	（女、40～59歳、精神２級）	もう少し充実出来る様な生活が出来る程、年金額を増やしてほしい。ぜひお願いしたい。
65	（女、40～59歳、精神２級）	友人がいないので日々淋しく思い話し相手がとても欲しいと思います。

66	（男、40～59歳、精神２級）	市のサービスを拡充してほしい。施設の利用料、応益負担をなくしてほしい。就労支援をしてほしい。
67	（男、40～59歳、精神２級）	精神障がいなので、介助は必要ないが、仕事をしているので月に2回位、ヘルパーの手伝い（家事・掃除・洗濯）がほしい。身体と知的には予算を使うが、精神にももっと予算を回してほしい。タクシー券を3級までにしてほしい。施設の利用料の減免をしてほしい。（ふれあい荘の入浴料・デマンドタクシーの割引）一人暮らしの場合の①税金等の減免（固定資産税）②雪下ろし、片付け等の対策③地域の人による安否確認。他に居場所としての施設の充実を図ってほしい。引きこもりへの対策（1回引きこもり調査をしてほしい）。自殺対策（各職場への保健師の巡回訪問、メンタルヘルスについて）。家族教室を開催して、精神障がい者の現状、症状等病気についての知識を親や家族に教えてほしい。親の会の充実と、出前相談ができるとよい。
68	（男、40～59歳、精神２級）	ゆぴあをタダにして。
69	（女、40～59歳、精神３級）	公共交通機関を充実させて、無料のバスカードなどを作ってほしい。
70	（女、60～64歳、精神１級）	一生安心して暮らせるように、無料でサービス・ボランティアを受けたい。
71	（男、60～64歳、精神２級）	市営住宅に入りたい。タクシー券ほしい。
72	（男、60～64歳、精神２級）	自宅や庭の管理や手入れを手伝ってもらいたい。冬期の除雪等で生活の場の確保。道路の除雪の片付けが難しく、協力をお願いしたい。
73	（男、60～64歳、精神２級）	健康課が市役所から天童市民病院のところになったので不便。市役所の方が良かった。
74	（女、65～74歳、精神１級）	老々介護をしているが、介護者が倒れた場合心配。入所施設の増加を第一に取り組んでほしい。
75	（女、13～17歳、療育手帳Ｂ）	中学生の下校から夕方までの面倒を見てくれる人がいなくて、大変困っている。（春・夏休みも）支援学校利用の際の送迎支援も料金が発生するので、かなり負担に感じている。無料にしてほしい。
76	（女、18～19歳、療育手帳Ａ）	この調査内容を反映した、本当に役立つプランを作ってほしい。入所施設を核にして、ショートステイ・ディサービス事業が展開できるから、入所施設は絶対に必要。既存の老人福祉施設を利用することも良いが、専門性に欠けるので、安心して子供を預けられない。少人数のもので（30人定員程度）、障がい児・者への理解と高い専門性を持った人材を求める。

77	（女、18～19歳、療育手帳Ｂ）	東根の「こすもすの家」のような就労支援センター程度の施設が、天童にもほしい。
78	（女、18～19歳、療育手帳Ｂ）	知的障がい者にとって、このアンケートは回答できない。本人に聞いても、本人が答えられない。
79	（女、20～39歳、療育手帳Ａ）	知的障がい者がディサービスやショートができ、入所できる施設を作ってほしい。新しい建物ではなく、現在ある、空いている建物、中古でも構わない。
80	（女、40～59歳、療育手帳Ｂ）	ひまわり園の利用が多いため食事をするところも狭いし、遊ぶ所もない。早く建てて。福祉の里を早く建ててほしい。
81	（女、40～59歳、療育手帳Ｂ）	知的障がい者（Ｂ）を受け入れる施設を設立してほしい。
82	（女、40～59歳、療育手帳Ｂ）	知的障がい者のための授産施設がほしい。ひまわり学園にディサービスがほしい。
83	（女、40～59歳、療育手帳Ｂ）	以前よく職場に訪問してくれた先生が亡くなり、心細くなった。職場の言葉の暴力があったが、頑張るように説得して、20年間会社にお世話になっている。感謝の毎日である。
84	（女、7～12歳、療育手帳Ａ）	大きくなくて良いから、（5～10人）働けるところを、何ヶ所かほしい。
85	（女、7～12歳、療育手帳Ｂ）	親が見られないときに、子供を預かってくれるショートスティや、宿泊のサービスを作ってほしい。つばさ事業は大変助かっているが、冬休みもやってほしい。天童市内の企業がもっと障がい者を雇用してほしい。中学生までの医療費無料を廃止し、障がい者の施設建設をしてほしい。新築ではなくとも、空き家を探して、施設を作ってほしい。
86	（女、7～12歳、療育手帳Ｂ）	小学生ということもあり、答えに困ることが多い。老人の施設は多いのに障がい者の事となると何年もかかるのは、どうしてなのでしょうか？おかしいです。学校に入学するにしろ、バスはない、何もない。通学は送り迎えは当たり前。親は仕事をやめなくてはいけない。生活費をその分国・県・市でなんとかしてくれるのであれば、それでいいと思う。老人は増えて施設も増えるのは当たり前の様に増えているのだから、知的障がい者、精神、身体いろんな人が増えているのだから、それなりに増やして欲しい。山形はなんでも遅いと思う。障がい者の親の声を聞いてほしい。
87	（男、0～6歳、療育手帳Ｂ）	特別支援学級に先生が足りなかったり、授業が進まなかったりなので、本人に合わせた内容ができる支援をしてほしい。相談できるところが少ないので、気軽に応じてくれるところがほしい。
88	（男、0～6歳、療育手帳Ｂ）	今ある作業所を拡大したり、通いやすい場所につくってほしい。小学校の特別支援学級に、担任の他に補助の先生もつけてほしい。

89	（男、13～17歳、療育手帳Ａ）	知的障がい者の入所施設がほしい。
90	（男、13～17歳、療育手帳Ｂ）	特別支援学校を作ってほしい。市外の特別支援学校に通っている人に、補助金があれば良い。
91	（男、18～19歳、療育手帳Ａ）	村山地区に知的入所施設がない。十度の子供たちのために、是非作ってほしい。
92	（男、18～19歳、療育手帳Ａ）	一時預かりと短期入所できる施設を、一刻も早く実現させてほしい。
93	（男、18～19歳、療育手帳Ｂ）	障がい者から発するのは、なかなかむずかしいので、市から積極的に障がい者の目線に立って発してほしい。
94	（男、20～39歳、療育手帳Ａ）	子供の成長と共に介助する両親は老いていきます。安心して、親なきあとも生活できる場が天童にはありません。とはいえ親で作ることもままなりません。急に何かあった時に対応してもらえる場所を希望。
95	（男、7～12歳、療育手帳Ａ）	アンケートの結果は知ることが出来るのか？新しいプランはいつ始まるのか？情報がほしい。のぞみ学園の対象を広げ、利用時間利用内容を広げ、あらゆる世代の障がい児が集えるようにしてください。新しいしくみを、利用者や家族も学び、市と市民が常に話し合える場がほしい。滞らない福祉を目指してほしい。将来ずっと同じレベルのサービスを提供できるような仕組み作りをお願いします。
96	（男、7～12歳、療育手帳Ａ）	障がい児ディサービスがあれば良い。のぞみ園の介助員を増やし、全員が受けられるディサービスにしてほしい。病院で、自閉症や多動性の障がい児の診察を優先的にしてほしい。土日祝日など、障がい児を預ける施設がほしい。
97	（男、7～12歳、療育手帳Ｂ）	小学校の特別支援学級に通っているが、中高とも特別支援学校に行かせたいが、送迎サービスを頼むと何万もかかる。地域で受け入れないのであれば、それなりの支援がほしい。現在長期の休みのときは、一時預かり（つばさ）を利用している。通年で実施してほしい。
98	（男、7～12歳、療育手帳Ｂ）	相談できる体制がほしい。医療、教育、地域が一体になり、障がい者を支えてほしい。地域で、見守られながら、安心して生活できればと思う。障がい者が気軽に足を運び、活動できる場所がほしい。
99	（男、7～12歳、療育手帳Ｂ）	健常児のほとんどが障がい児に関わろうとせず、理解をしてもらおう、知ってもらおうなど程遠い。親・先生・事業主・ドクターばかりが、理解してもだめ。友達になりうるべき、子供たちにわかってもらいたい。

100	（女、13～17歳、療育手帳Ａ）	子供が学校を卒業した時に障がい者が入所できる様な職場の施設や設備が充実している天童市になってほしいと思っています。今のままでは将来がとても心配。
101	（男、20～39歳、療育手帳Ａ）	ケアホーム、入所施設などを作ってほしい。
102	（男、7～12歳、療育手帳Ｂ）	高齢者向けの施設やサービスが充実しているのに対して、障がいのある子供や青年に対してのものがほとんどない。支援学校卒業後行くところなし。生まれたときから亡くなるまで、切れ目なくすきまなく相談やサービス（生活の場・就労の場）を提供してほしい。障がいのある人を理解してもらうために、学生ボランティアの授業・セミナーなどをして、日頃から理解と関心をもってもらう取り組みをしてもらいたい。ジョブコーチの派遣や職業訓練、及びその場や人の確保。福祉センターでの、相談事業や障がい者が働く売店やティルームなど有効に活用してもらいたい。
103	（女、13～17歳、療育手帳Ｂ）	山形や他の市では、施設がたくさんあるので受け入れてもらえる。体制が整えられて、施設を選べられたら良いのだが。聞かないと教えてくれないのが行政。知識があり、あらゆる面からのアドバイスをしてくれるよう願う。「アドバイス」＋αでいろいろ教えてほしい。
104	（無回答、無回答、無回答）	私が死んだあと、娘が一人で暮らせる家がほしい。
105	（無回答、無回答、無回答）	介護が長期になると、経費がかかり大変になる。施設に入っても次第に足が遠のきがちになる。配偶者がいなくなるとその淋しさを慰めにくくなる。